



後援

文部科学省 環境省 金融庁 消費者庁

金融広報中央委員会



協賛



Manulife

マニユライフ生命



Wiennomori Corporation



ラッセル・インベストメント株式会社



ファイブスター投信投資顧問



第十七回 全国高校生金融経済クイズ選手権

エコノミクス甲子園

実施報告書

第17回 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園

実施報告書





概 要 P. 2

エコノミクス甲子園はこんな大会です！ . . . P. 3

ご挨拶 P. 5

各地方大会概要・全国大会参加者感想 . . . P. 7

全国大会 P. 100

NY 研修旅行の様子と感想 P. 106

参加者アンケート P. 116

メディア掲載実績 P. 117

事前学習教材 P. 118

協賛社紹介 P. 119

Special Thanks P. 120

スタッフ挨拶 P. 122

エコノミクス甲子園の歩み P. 124

歴代全体写真 P. 129





名称 第17回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園

趣旨 社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金とのかかわり方を考える力=「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。

期日 ・募集開始 2022年8月15日
 ・地方大会 2022年11月13日～12月18日 全45大会（インターネット大会含む）
 ・全国大会 2023年2月24日～26日

主催 ・地方大会主催 各地の金融機関有志
 ・全国大会主催 認定NPO法人金融知力普及協会

プラチナ
スポンサー



ゴールド
スポンサー



ブロンズ
スポンサー



後援



地方大会主催



協力



エコノミクス甲子園はこんな大会です！



1

出場を決意！

- ・公式 Web サイトから応募
- ・参加費は無料！



2

金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で勉強

- ・18歳までに学ぶ 契約の知恵・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融広報中央委員会
- ・これであなともひとり立ち・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融広報中央委員会
- ・大学生のための人生とお金の知恵・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融広報中央委員会
- ・マナブとメグミのお金のキホン BOOK・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：全国銀行協会
- ・明るい未来へ TRY！～リスクと備え～・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本証券業協会
- ・ほけんのキホン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：生命保険文化センター
- ・もっと知りたい税のこと（令和4年6月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：財務省
- ・今日から始められるかんたん不動産投資 初めてのJリート・・・・・・・・ 寄贈：不動産証券化協会
- ・基礎から学べる金融ガイド・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融庁
- ・わかりやすい投資信託ガイド 2021年版・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：投資信託協会
- ・わかりやすいリートガイド 2021年版・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：投資信託協会
- ・前払式支払手段ご利用者のみなさまへ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本資金決済業協会
- ・進学にかかるお金と奨学金の話・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本FP協会
- ・10代から学ぶパーソナルファイナンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本FP協会
- ・少額短期保険ガイドブック 2022・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本少額短期保険協会
- ・社会への扉・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：消費者庁
- ・持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：環境省
- ・今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 作成：金融知力普及協会
- ・飛び立て！未来FP技能士・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融財政事情研究会
- ・暗号通貨やブロックチェーンの基礎を学べる漫画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本暗号通貨技能検定協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など
金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の
基礎知識や地元経済などについて出題
- ・筆記問題（50問）と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
- ・オンライン大会では4択クイズ（50問）で正確さと早さを競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場





日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供！
将来の日本をリードする人材の育成！



5

優勝チームはニューヨーク・ボストン研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや経済に関する様々な場所を見学



4

全国大会に参加

- ・各地方大会を勝ち抜いた高校生たちとともに、講演を聞き社会課題について議論するディスカッションラウンドやより深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





認定 NPO 法人金融知力普及協会 理事長

金子 昌資

2006 年度より実施しております全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園もこのたび第 17 回大会を無事終えることができました。これまでこの大会を作り上げてきた、延べ 2 万人を超える参加者の皆様、地方大会を主催していただいた金融機関の皆様、さまざまなご支援をいただいた協賛・協力企業の皆様、後援をいただいた文部科学省、環境省、金融庁、消費者庁、金融広報中央委員会、国際金融公社の皆様、そして様々な形でこの大会に関わってくださった全ての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。第 1 回は全国 3 か所での地方大会、25 校 99 名の参加者から始まったこの大会も、ネットを含め 45 の地方大会、354 校 1610 名の参加者を得るところまで成長しました。現在の教育課程では金融経済の知識についてなかなか学ぶ機会がありません。しかしながら、よりよい人生を築くためには必須の知識であると考えております。これを楽しみながら身につける機会を提供することの価値を多くの方に認めて頂いているからこそ、現状のように成功できていると感じております。

金融経済の知識をつけるということは、投資で濡れ手に粟のもうけを狙うようなものではありません。豊かな人生を送るために、お金という道具の使い方を学ぶことです。このような考え方は最近少しずつ理解を得られてきたと感じておりますが、まだまだ多くの方に伝えていかねばなりません。そのためにもこれまで以上に多くの高校生がこの大会に参加し、金融知力を身につけ、その後の人生に活かし、そして周りの方に広げていただければと願っております。

また、第 10 回大会より、全国大会出場者の中から、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要

の 200 万円の奨学金を授与しております。金子・森育英奨学基金という名称ですが、奨学生に選ばれた 20 名のうち 15 名と、支援生に選ばれた 13 名のうち 11 名は大学への進学を開始しております。引き続き有為の若者を支援してまいります。

昨今は、長期化する新型コロナウイルスの流行に加えまして、AI(人工知能)の発展にも目を見張るものがあります。先行き不透明な社会を生き抜くために、金融経済の知識を身につけることは必須であると言っても過言ではありません。

第 18 回大会も全国の高校生の為に必ず成功させてまいります。引き続き皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。



内閣府大臣政務官 経済再生・金融庁担当

鈴木 英敬 様

皆さん、こんにちは。

内閣府で金融庁の担当をしております。大臣政務官鈴木英敬でございます。今日は、第 17 回エコノミクス甲子園全国大会が対面形式では 3 年ぶりに開催されるということで、心からお祝いを申し上げたいと思います。また、主催をいただきます金融知力普及協会の皆様、またご協賛いただきました企業の皆様、関係者の皆様に心から御尽力に敬意と感謝を申し上げます。

さて、45 のチームの皆さんに今回集ってもらったわけがあります。今、まさに政府としても金融教育・金融経済教育に力を入れていこうと、そういうタイミングであります。この国家戦略として金融経済教育を進めていく、そのための必要な組織等をこれからの法律で作っていこうではないか、そういうタイミングでありますので、非常に時宜を得



たときに、今回、エコノミクス甲子園をやっていただいていると思います。また、成年年齢が18歳に下がったこともあってクレジットカードを18歳で作れるということもありますし、今年度から実施されている新しい学習指導要領においても、家庭科では金融教育が充実しておりますので、高校生世代の皆さんへの金融の知識、金融知力の向上、これが大変重要であると思いますので、エコノミクス甲子園などを通じてみんなが切磋琢磨をし、金融知力を高めていただくことを心から期待しております。

今回のリストを見せていただきますと、私の地元・三重県の代表は高田高校でありますし、我が母校の灘高校も出ています。あと、私の地元も離島があるのですけれども、今回、対馬高校が離島からの初参加ということで、それらの高校も含めて45のチームの皆さんが、全力を、それぞれ力を出し切ってやっていただければと思います。

それでは、今日の機会が皆さんの未来を開く機会になりますことを心から祈念をしまして、私の挨拶といたします。皆さん、誠におめでとうございます。



財務省 主税局総務課 企画官

松井 誠二 様

皆さんこんにちは。財務省主税局で企画官をしております、松井と申します。本日は優勝された札幌開成高校の皆さん、誠におめでとうございました。それ以外の皆さんも、よくぞあの厳しい地方予選を勝ち抜いて決勝に駒を進められました。改めて、敬意を表したいと思います。本日は政府として、金融庁や財務省が本大会に協力しておりますが、金融庁の職員が今日は来られなかったということで、省庁を代表して私が挨拶をさせていただきます。

金融経済には色々な省庁が関わっております。中心は金融庁ですが、財務省も実は金融経済という分野で多くの役割を果たしている省庁の一つです。今日のクイズでいくつか出てきましたけれども、財政や税制、税金、為替、通貨、そしてコインの発行もやっております。

今日は、せっかくこういう機会をいただきましたので、2点皆さんにお話をさせていただきたいと思います

1つ目は、皆さんがこの大会出るにあたって、家族や周りの友達など、支えてくださった方々がいると思います。そして、この大会を主催している事務局の皆さん、スポンサーの皆さん、それから地方大会主催金融機関の皆さん、など色々な方々にお世話になって、皆さんがこの大会に出場できているということでございます。ですから、ぜひ、そういった周りのお世話になった方々への感謝の気持ちを絶対に忘れないでいただきたいと思います。

2つ目は、今までに登壇された方からもお話がありましたけれども、皆さんの中にはこれから大学に進学される方が多いかもしれません。そして、社会に出ていくことになると思います。その時に今回、この大会を通じて身につけられた金融経済の知識というのは、必ず役に立つ必須の知識になると言っても言い過ぎではないと思います。どのような仕事で皆さんが活躍されるとしても、絶対に必要になる知識だと思えます。ただ難しいのは、金融経済というのは日々動いておりますので一回勉強したら終わりということではなく、日々その知識をアップデートしていかないと使い物にはなりません。ぜひ、皆さんが将来社会に出る時には、今回学んだ知識をベースに、さらにそれをバージョンアップして、経済社会そして国際社会の中心で大活躍していただきたいと思えます。そのための努力を今後も続けていただきたいと思えます。中央省庁も、非常に若い職員の離職が問題になっておりまして、優秀な若い職員を求めています。皆さんも将来就職するにあたって、国家公務員を選択肢の一つとして考えていただけたら大変幸いです。

本日はどうもお疲れ様でした。そしておめでとうございました。



北海道大会 11月13日(日)開催



優勝チーム 市立札幌開成中等教育学校
(初出場)
「快晴のRain」
浜野 憲義・後藤 康太



主催 北海道銀行

参加校一覧

立命館慶祥高等学校、市立札幌開成中等教育学校、北海道釧路江南高等学校、北海道遠軽高等学校、北海道湧別高等学校、北海道札幌手稲高等学校、北海道札幌南高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道広尾高等学校、北海道千歳高等学校、北海道北見北斗高等学校

申込みチーム数 26 チーム (11 校)

運営スタッフ感想

北海道大会は第3回から開催し、本年度で15回目となりました。2020年度からオンライン形式としていますが、今年は初めてライブ配信で参加者と同時にクイズ問題を確認しながら、司会を行い、大会を盛り上げるよう努めて進行しました。8信用金庫および3信用組合との共催としており、北海道全域における高校生の金融リテラシー向上に貢献する取り組みとして、今後も本大会の開催に取り組んでまいります。



北海道大会代表 市立札幌開成中等教育学校 1年 浜野 憲義

私に書く事が最も求められる事は何か。それはもちろん、どうやったら優勝できるかでしょう。やはり一応、優勝者として読者の付託に応えるべきですから。

まず、ペアとしての分担を考えると…あれ？うちの相方は何かしたのでしょうか。一生懸命、記憶を探ってみても、うちの相方が活躍したシーンって…ない？そんなはずはありません。きちんと記憶を辿ればどこかに相方のおかげで勝利したシーンがあるはず。1回戦の早押し問題は私の知識、2回戦のリレー4択問題は私は全問分かっていたので、なんなら順番を入れ替えれば相方が2問も間違えずに済んで+20pだった、準決勝の多答問題は相方がスウェーデンと解答しよう（ノルウェーとフィンランドは正解でスウェーデンは誤答だった）と言っていた問題で私が直前で回避してイギリスと解答、決勝のボード問題15問は全て自力で解答。。あれ？相方は本当に何をしていたのでしょうか。無駄に横で優勝を我が物顔ではしゃいで「優勝した実感が無い」と連呼していただけでしょうか。確かに実感はないでしょうけど。優勝後にマニユライフ生命の社長には良いチームワークだったと褒められました。決勝の金塊積みも私がずっと指示を出していましたが、振り返ればチームワークなんてものはありませんでした。この感想文に相方が何を書くのか興味は尽きません。とダラダラと皮肉混じりの文章を書いた所で私がどうやって対策をしたのか、どうやって優勝したのか、という事を手前味噌ながら解説してみよう。

まずは対策編です。私は大会後にあるMYP修了式という中学校の卒業式にあたる式典のイベント担当で、実質1人でおおよそ1時間の学年全体が参加するレクリエーションの準



備をする必要がありました。(この感想文を書いている日の前日にイベントの本番がありそちらはまたやって欲しいと言われるほどの好評で幕を閉じた)という事はそちらの準備に時間を大量に取られる訳で、1月の学校が始まってからはずっとその事で頭がいっぱいでした。という事でエコノミクス甲子園の対策にはほとんど時間が取れませんでした。それでもゼロ対策で全国大会に臨むのは無謀だろうと思ひ、冬休みに2冊だけ対策の本を購入しました。過去のエコノミクス甲子園の全国大会の映像を公式YouTubeを見て、自分に足りないものは時事用語と政治・経済用語(すなわちほぼ全て)である事を痛感したので、それぞれ1冊ずつ網羅していそうな本を購入しました。1冊は時事対策で「日経キーワード 2023-2024」です。これは本屋さんで見た中で、一番時事がしっかり載っていそうだったし、巻末に必須の経済用語ミニ辞典みたいなものも付いていたので買っておきました。もう1冊の政治・経済用語対策は、一番無難そうな山川の政経用語集を買いました。この2冊を学校でのちょっとした隙間時間とかにパラパラ読んで勉強しました。といいつつも総勉強時間としては果たして10時間にも届くんでしょうか。エコ甲に向けた対策というのはその程度です。えっ、それだけ?と思うでしょう。でもそんなもんです。なんでこれで優勝できたかと言えば、問題が易化したからと運が良かったからです。例えば決勝については金塊を積む事がメインであるので、問題を難しくしすぎてしまうとゲームが成立しません。あの企画はそれなりに正解数が出る事で成り立つゲームですから。つまり、難しい知識を正解したら勝つ、というよりは、基礎基本を落とさないで勝つ、というのが今回の大会の特徴だったと思います。

これだけだと語弊を招きそうなので補足をしておきます。政治経済知識ゼロからこれだけの対策で優勝をしたわけではありません。中学3年生の時にマクロ経済に興味をもって本を漁るように1年間読んでいた、という事をしていたので、その時の貯金がありました。なので、決勝の最終問題で見事、決勝唯一の単独正解を飾った思い出の1問「イールドカーブコントロール」も中3の頃から知っていました。もう1つは普段から新聞やニュースにかなり触れているという事です。我が家は新聞を3紙取っているうえ、家では毎日ニュースウォッチ9と報道ステーションがかかっている、自然に時事用語については知る土台が出来ていました。特に決勝の問題は最近の新聞やニュースに登場する言葉が多かったので、家庭環境がかなり有利に働きました。時事傾向の強い大会に偶然マッチした人間だったという事です。

ここまで読めばワンチャンこいつ優勝できそうかも、と思いませんか?

さて、では実践編です。まずは土曜日、朝の筆記テストから始まります。これは頑張るだけ頑張りました。特に言う事はありません。ただしTOP10にも入っていないという事は言うておきます。そしてまさかのグループディスカッション×2。この辺は各々頑張ってください。筑駒の武藤くんによれば、突飛な前提で意見を言う事が大事なようです。確かにその結果1位だったので、彼が正しいんでしょう。夕方には闇のゲーム。10年間値動きする株を持ち点を元手に売買して得点を増やすゲーム。実は2005年から2014年の実世界とシンクロしている事に如何にいち早く気付けるかがポイントでした。私たちが予選を突破出来た理由はここが最も大きいですね。相当早い段階で気付けたので小泉政権のいざなぎ景気に間に合ってお金を増やし、リーマンショック前に売り抜いて、アベノミクス開始くらいでアクセル全踏みで日経225を買えるだけ買う。という基本に忠実な戦略を取ることで得点をおよそ2倍に増やし、予選順位を10位くらいまで持っていき事に成功しました。その後のエコノミクス大会は惨敗しているのでノーコメントで。運命の日曜日。前日夜に配られたルールカードを見て何問題目になったらどのタイミングで押すか、という戦略を延々と立てて、欲張りせずマイナスを避けるという基本戦略で見事60ptを獲得しました。及第点といった所でしょう。正解したデジタルツインはたまたまQuizKnockの動画で見た事のあった知識だったので分かりました。だからここと言えるアドバイスはQuizKnockを見よう、といった所でしょうか。第2ラウンドは個人の力を問う4択リレー。折角なので相方に先を任せてみました。1問題は過去のエコ甲YouTubeを見ていれば正解できる問題で、意外と過去映像は暗記するレベルで見えるのも大事ですよ。2問題は先物取引に分類されるものを選ぶ問題。これは選択肢の意味をその場で咀嚼すれば解ける問題でした。本番の時にいかに冷静さを保てるかも大事です。3問題でやっと相方が正解しました。お互い誤答は1問までという約束だったのでこの為体です。私に4問題で回ってきて1問で正解して抜けました。順番を入れ替えておけば良かった、と思いました。ペアを2つに分ける形式は今後もありそうなのでアドバイスを伝えと、強い人が先の方がいい、これに限ります。マジで。抑えはエースだ、と思わず先発でHQSを決めましょう。ここまでが予選ラウンドでした。どうですか、闇のゲームの重要性が分かりましたか。

そして、準決勝。ルーレットの出た数だけ解答する多答問題。





ネプリーグのファイブボンバーみたいだなあ、と思っていたら、広辞苑に掲載される～、というファイブボンバーの典型問題が複数回出題されて、本当にファイブボンバーみたいだなあ、とか思っていました。ここはやる事は1つです。確実に正解だと思うものから答える、それだけです。あとは運の良さ、準決勝はそれに尽きます。全部正解しても決勝に進めるとは限りませんから。エコノミクス甲子園スタッフからの実力だけでは社会では成功できないんだ、という熱い思いを感じずにはいられません。

最後は決勝。ここは問題を読み切ってから10秒以内に答えを書き切る瞬発力が問われます。直感の精度を上げておく事も優勝の遠因でしょうね。あとは、優勝できた理由として2つ目の金塊を積み上げておいた、という事が絶対に挙げられますが、これはラ・サールが2つ目を作っていたのを見て作ったわけで、他のグループにずっと気を張っておく事も重要だと思います。それで優勝した訳ですが、コメントを求められた際は経済用語と絡めてコメントすると洒落た感じになるので、これって何かの経済用語で喩えられないかなあ、と考えておくのは意外と重要なのではないのでしょうか。

私からの分析はこんなもんで。これを参考にして優勝するチームが現れれば嬉しいですが、似たような傾向が続くとは限りませんからね。これはただのサンプル1にすぎません。

ただ、絶対に変わらず言える事は1つだけあります。

それは、普段から良い事をして良い運が来るようにする事。

北海道大会代表 市立札幌開成中等教育学校 1年
後藤 康太

今回、右も左もわからない状態で参加させていただいたエコ甲で、まさかの優勝を果たさせていただきました。喜び、達成感、ニューヨークへ行けることに対するワクワクとした気持ち、そして相方、スタッフのみなさん、応援してくださったみなさんへの感謝の気持ちでいっぱいです。また今回の大会を総括すると、優勝という結果を得られた、という喜びや達成感も当然の事ながら、そういったものを抜きにして考えても、純粋に「楽しかった」という感情が非常に強いです。おそらくこのエコ甲の期間は、人生の中でも、滅多にできないような体験をして、たくさんの刺激を得られた3日間だったと思っています。

大会の内容については、あまりにも濃密な3日間だったので語れば長くなってしましますが、個人的に特にピックア

ップしたいのは、予選1日目の後半で行われた模擬株式投資のフェーズです。そこまでの段階で行われた早朝ゲリラ筆記試験とグループディスカッションで得られたポイントを元出として、「みんなポイント少くない？増やしたくないですか？」という誘惑から始まったゲリラ的な模擬投資でしたが、内容としては2005年ごろから10年間の、実際の株価や情勢に概ね則したもの。株価の変動や情勢の変化が起こる度に会場全体から歓声や失念の声が上がっており、競い合う競技ではあったものの、出場者同士で一体感を感じながら楽しめるものでした。更に私達のチームはこの競技内のアベノミクス効果のおかげで下位層から一気に上位まで上り詰めることができた競技でもあったので、個人的には、大会の中でも特に記憶に残っています。

またその後も第一ラウンド、第二ラウンド、第三ラウンド、決勝とありましたが、正直なところ、第三ラウンドあたりからは「もう結果はいい。ここまで来たのだからあとは楽しもう」という気持ちになり、決勝でもその気持ちを貫いて全力で楽しむことを目指して挑んできました。結果的に優勝という大成果を得ることができ、最高の思い出を作ることができたのではないかと思います。

さて、そのような今回の大会でしたが、改めて今この文章を書きつつ振り返ると、何度も言うてくどいようですが、やはり「すごく楽しかった」という気持ちしかありません。こういった素晴らしい機会を設けてくださったスタッフのみなさん、様々な事をサポートしてくださった銀行のみなさん、応援してくださったみなさんといった、今回の大会に協力していただいた全ての方々に、この場を借りて改めて感謝の言葉を申し上げさせて頂こうと思います。本当にありがとうございました。





青森大会

12月18日(日)開催

プロクレアホールディングス



優勝チーム 青森県立青森高等学校

(3年連続7回目)

「海っきーまさ」

青木 理慶・小西 海



主催 青森銀行 / みちのく銀行

参加校一覧

青森県立青森高等学校、青森県立青森商業高等学校、青森県立弘前高等学校、青森県立八戸北高等学校、青森県立三沢商業高等学校、青森県立三本木農業高等学校

申込みチーム数 9チーム (6校)



青森大会代表 青森県立青森高等学校 1年 青木 理慶

僕がエコノミクス甲子園に参加しようと思ったきっかけは先輩の姿です。昨年、先輩がエコノミクス甲子園に参加した話を聞いて、興味を持ちこの大会に参加することにしました。参加すると決めた時から、経済の勉強に本腰を入れるようになり、普段の生活のニュースや新聞でも自分が学んで知った知識や用語が出てきて、今までは理解できなかったことをたくさん知ることができました。そして、僕は以前から投資に深く興味があり、将来的に実際行ってみたいと思っていたため、この大会では、非常に有意義な経験ができました。この3日間得た経験は自分の考えの幅を大きく広げることができ一生の財産となりました。僕は積極的に他の都道府県の代表の方と交流することでとてもいい刺激を得ることができました。この大会では、投資トラブルについて話を聞きかきがあり、自分が投資に抱いていた不信感や不安感が無くなり、トラブルに巻き込まれないために、知識を蓄えていきたいと思いました。

僕はまだ1年生なので、来年もエコノミクス甲子園に参加し、今年の結果を超えられるように頑張りたいです。エコノミクス甲子園は本当に楽しく、来年もこの舞台に立ちたいと心の底から思うことができる大会でした。このような素晴らしい経験ができたのは、紛れもなく、スタッフの方々のご尽力のおかげです。本当にありがとうございました。



青森大会代表 青森県立青森高等学校 1年

小西 海

私が今回のエコノミクス甲子園で感じたことは三つある。一つ目は全国の高校生とコミュニケーション能力で大きな差があるということである。グループディスカッションラウンドでは高校生個人が自分の意見をしっかりと持っていて、それに圧倒されてしまった。英語でのディスカッションでも聞いて理解するのに必死で自ら話すことができなかった。日々の生活でもコミュニケーション能力を向上させる機会が多いと思うので、意識して生活していきたい。二つ目は株の知識の重要性である。ポイントトレーダーでは何に投資していいかわからず、ただ闇雲にかけてしまい、大金を増やすことができなかった。株の知識があれば株価の変動を論理的に捉えることができ、さらに多くの最後にポイントを獲得することができたと思う。例えば安倍首相が総理になった時日経平均株価が上がるなど学習を深めていれば結果がある程度予測できたはずの変動もあった。三つ目は早押しの戦略ミスである。二日目の段階で準決勝進出のラインに入っていないと感じたため、早押しでは攻めようという気持ちが強く、焦りがあった。そのため通常であれば正解できたであろう問題でも誤答してしまった。その後は冷静になり平常心を取り戻したため、本来のプレーができたが決勝には進むことができなかった。午前の早押しでは失敗したが午後の早押しでは正解することができたので、良い経験となった。準決勝や決勝を見て全国の高校生の金融の知識の深さに驚かされた。高校生の対応力も私たちの上を言っていると感じる部分が多かった。私たちも知識をさらに磨いていきたいと思う。最後に今回エコノミクス甲子園に関わっていただいた全ての人達、普段からサポートしてくれる両親、共に戦ってくれた青木君に感謝したいと思う。





宮城大会 12月18日(日)開催

77 七十七銀行 BANK

優勝チーム 宮城県仙台二華高等学校
(2年連続4回目)
「コル・カロリ」
熊谷 光哉・菊地 遼生



主催 七十七銀行

参加校一覧

聖ウルスラ学院英智高等学校、宮城県仙台第一高等学校、
宮城県仙台二華高等学校、宮城学院高等学校

申込みチーム数 6チーム(4校)

宮城大会代表 宮城県仙台二華高等学校 2年
熊谷 光哉 (2年連続出場)

"The purpose of studying economics is not to acquire a set of ready-made answers to economic questions, but to learn how to avoid being deceived by economists."

上はジョン・ロビンソンの言葉です。お金というものはどうにも掴みどころが無く、流水のように変化を続けます。それを掴もうとする経済学が複雑であるのは仕方のないことです。率直に言って、これほど素人を騙すのが簡単な分野は無いと思います。

いくつか例を挙げましょう。「利率」と「利回り」の違いはわかりますか? 「元本保証」と「元本確保」の違いは? 生命保険の「一括払い」とは何か説明できますか? NISAは来年からどこが変わるのでしょうか?

答えに詰まってしまった高校生が殆どだと思います。一昨年までの自分もそうでした。クイズという形で楽しみながら金融知力を得られるこの大会に出会えたことを幸運だと感じています。

参加を迷っている方へ。参加するメリットが圧倒的に大きいです。チーム1人1人に届く勉強資料だけでも十分な価値があります。しかも内容は大人になってからどちらにする学ばなければいけないことばかりです。(というより学ばなければカモになります。) アメリカ旅行という特大のご褒美を目標に勉強できる機会など、他にありません。

「政経/公共を選ばないから無理」という方、大丈夫です。私自身、物理化学地理を選んでいる理系です。一から勉強して全国大会への切符を掴みました。渡されている資料が充実しているので、「何からやれば…」と途方に暮れることはありません。





さらに言えば、同じことを勉強している高校生との出会いは大変楽しいものです。皆さんフレンドリーで、私もエコノミクス甲子園を通して何人も友人ができました。今年からは全国大会がオフライン開催となり、共に生活していく中で経済の話題だけではなく様々な会話ができました。これを読んでいるあなたもぜひ、参加してみてください。

と、ここで終わるとただの勧誘文なので、最後に感謝をお伝えします。移動プランに関する急なお願いにも全力で応えてくださった水谷さん。仙台から東京まで引率して下さった七十七銀行の長崎さん、サポートくださった丹羽さん。この大会を一から企画くださった OGOB の皆さん、金融知力普及協会の皆さん。スポンサーの皆さん。最後に、友人として、ライバルとして戦ってくれた全ての参加者の皆さん。とても紹介しきれませんが、私たちが最後まで大会を楽しめたのは多くの善意ある人のおかげです。本当にありがとうございました。

宮城大会代表 宮城県仙台二華高等学校 1年
菊地 遼生

この大会に参加したきっかけは、先輩からの勧誘です。元々経済のことについてはある程度興味があり、それを先輩が知っていたのだと思います。興味があったとは言ってもたまにニュースやインターネットで見たり調べたりする程度だったため、実際に全国大会に向けて届いた教材を見てその量に驚きました。これは自分に限った話ではないですが、後期期末考査とかなり日程が近かったのでエコ甲の勉強のみに注力できる時間があまり取れなかったのは惜しいところです。

予選では、出題形式やクイズ以外のイベントなど細部まで工夫が凝らされていて非常に面白かったです。特に初対面の相手とグループディスカッションに取り組む機会はあまりなく、貴重な経験を積めました。全体の意見を広げたり、またときには枝葉をたたむようにして議論を進めていくことは今後の活動にも活かせると思います。

本戦では、問題に対して答えは出せていたものの、予選順位とルーレットの運が悪く、善戦虚しく敗退しました。投資もクイズも一発逆転ではなく予めの積み重ねで勝敗が決まることを学べたと思います。

今回エコノミクス甲子園に向けて学習を進める上で、経済についてより一層知識を深められました。将来的に奨学金や納税など、特に意識しなくても経済の知識を活かせる機会は社会に溢れていると思います。この大会に向けて得た

た知識をそれだけで終わらせることなく、適宜復習しながらも完全に自分のものにしたいです。





秋田大会 12月17日(土)開催

秋田銀行

優勝チーム 秋田県立秋田高等学校
(4年連続7回目)
「あの伝説」
佐々木 開央・藤原 光翼



主催 秋田銀行

参加校一覧

秋田県立能代松陽高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立大館鳳鳴高等学校、秋田県立大館国際情報学院高等学校、秋田市立秋田商業高等学校、秋田令和高等学校

申込みチーム数 21 チーム (7校)

運営スタッフ感想

今大会は3年ぶりの集合形式にて開催し、7校17チームに参加いただきました。

第1ラウンドの筆記クイズでは、各チームの皆さんが事前学習の成果を存分に発揮しました。第2ラウンドの早押しクイズでは、知識と問題文を素早く理解する集中力を駆使し、果敢に挑戦する姿が大変印象に残っています。

決勝ラウンドは予選ラウンドを勝ち抜いた上位6チームが全国大会を目指し、終盤まで白熱した戦いが繰り広げられ、前半から着実に正解を重ね、所持金を積み上げた秋田高校「あの伝説」チームが見事優勝を飾りました。「あの伝説」チームのおふたりには全国大会で「伝説」を作る勢いで、頑張っていたいただきたいと思います。

参加者からは、「来年リベンジしたい!」「参加してよかった!楽しかった!!」などの言葉をいただき、秋田大会は盛会裏に終了しました。

最後に、参加いただいた高校生の皆さん、大会にご協力いただいた関係各所の皆さまにお礼申し上げます。

秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 2年 佐々木 開央

僕がエコノミクス甲子園に参加して考えたり思ったりしたことはたくさんありましたが、特に記憶に残ったことを紹介しようと思います。1つ目は、問題の対策を通して、経済の知識やニュースを意識して見るようになったことです。社会人になれば確認するのは必須ですが、今からそれが習慣化できているのは良いことだと思います。2つ目は、多くの人と交流できたことです。コロナ禍の今、全国各地から来たすごい才能を持った高校生たちと濃い時間を過ごすことができたのは貴重なことだと思います。僕のまだまだ知らない世界が広がっているということがわかり、高校2年生という受験生になる前の時期に良い刺激を受けること





ができたと感じました。3つ目は、地方大会でも全国大会でも痛感しましたが、知識だけじゃ勝ち上がることはできないということも体感しました。予選のトレーディングや決勝の金塊タワーを積む競技では知識も勘も運もすべてが試されていたレベルが高い戦いだったと思います。リスクを察知して、その上でどのような行動を取るのかということも必要とされていてまさに実際の経済生活に当てはまるものでした。僕はニューヨークの研修旅行のチャンスを手に入れることはできませんでしたが、2日間を通してさまざまなことを学びました。もちろん負けた悔しさはあります。ですが、参加していない人にはなかなか手に入れないことを体験できました。とても楽しい時間を本当にありがとうございました。

秋田大会代表 秋田県立秋田高等学校 2年
藤原 光翼

エコノミクス甲子園、非常に面白い大会でした。

そもそも私はエコノミクス甲子園に出場する予定など一切なく、相方から「パートナーとして出場してほしい」と頼まれたのがこの発端である。いっぱい奢ってもらったし。首尾よく県予選を勝ち抜け、到達したのは全国大会。見るからに賢そうな人たちの集まりで、行きの飛行機の中で「飛行機の墜落する映画は名作が多いな」とか考えてた自分とは大違いである。

1日目はTKOの木本さんから投資トラブルの実体験についてのお話を伺った。私は幸いにも投資トラブルにはまだ巻き込まれたことが無いが、実際の話聞いて自分はおそらくトラブルに巻き込まれる側だということを改めて自覚した。

2日目は筆記試験とGDRとトレーダーラウンドがあった。筆記試験の出来は、途中の問題を相方に丸投げしたのもあってぼちぼちの結果に。GDRも積極的な発言や質問などができたと思う。他校の生徒との交流で新しい知見も得られた。

問題はトレーダーラウンド。リスクを恐れ、序盤に現金を動かさなかったために、終盤に大きく上位チームと点数を空けられてしまった。相方の市場予測が非常に正確だった分、その正確さを利益につなげることができず、序盤のリードを巻き返されてしまった。

3日目は本戦。結果は第二ラウンドで敗退であった。問題の引きがやや悪く、厳しい展開となってしまった。敗者復活では、最多連勝を食い止めることはできたものの、その

後並みに乗れず、一問のみの正解となった。

この大会を通して、知識としても体験としても経済や金融について詳しくなれたと思う。もちろんまだまだ学ぶことは多いので、これからもしっかりと学ぶことを続けて経済や金融を観る力というものを養っていきたい。

最後に、この大会を主催してくださった金融知力普及協会さんやサポートしてくださった秋田銀行の方、ボランティアの方々、対戦してくださった全国の高校生みなさん、そして誘ってくれた相方に深い感謝の意を示したい。





山形大会 12月18日(日)開催

山形銀行

優勝チーム 山形県立山形東高等学校
(7年ぶり4回目)
「インカのみぞめ」
押野 匠悟・木村 穰太郎



主催 山形銀行

参加校一覧

山形県立米沢興譲館高等学校、山形県立東桜学館高等学校、
山形県立山形西高等学校、山形県立山形東高等学校、山形
県立山形南高等学校、山形県立上山明新館高等学校

申込みチーム数 37チーム(6校)

運営スタッフ感想

当行では、本大会を人材育成の機会と位置付け、新入行員4人が「実行委員」を務め、大会情宣や参加者募集活動に加え、サステナビリティ方針に則った当行のCSR活動や金融経済教育への関わりを広くPRする役割を担いました。また、新入行員全員を「サポーター」として任命し、オンラインツールを活躍したITリテラシー向上を図りました。今後も、地域金融機関の責務として、山形県の未来を担う高校生の金融知力向上に貢献していきます。

山形大会代表 山形県立山形東高等学校 2年 押野 匠悟

まず全国大会に参加できたその時間は、まさか全国に進出できるなどと思ってみなかった私にとって、望外の喜びと楽しさに溢れたものとなりました。コロナ禍でなかなか遠出する機会がなかったため、なおその喜びや楽しさは強く感じる事ができたと思います。

この感想文では、全国大会への出場を通じ、得られた収穫について、そして純粋な感想を述べたく思います。

まず大きく2つの収穫がありました。

第一に、自分に大きく自信が付きました。山形大会を勝ち抜き、更に、クイズ研究部に所属しかつ全国各都道府県のトップクラス校に通う方々が多く集まる全国大会の中で、クイズ研究部など無い、田舎の学校の私が、相手と協力し半分より上という満足いく予選結果を残せたこと、(中でも特に、英語でのディスカッションでプレゼンを行い、優勝できたこと)これより私は自身の知力がある程度通用することを実感し、自信やクイズに対する今後のモチベーショ





ンを高められました。また、いただいた教材より正しい金融知力を習得できた私は、将来の経済の事柄に対し、より上手くたちまわることができるだろうとも自信を持ってました。

第二に、普段関わることもまずできない全国各地の方々との交流できたことです。灘高や筑駒といった超進学校の方々初め、優秀な皆さんと交流して得た知識や考え方は刺激になりました。山形にいたままでは絶対になし得ない新鮮な体験だったと思います。

ここからは純粋な感想となりますが、まずは銀行さんからのサポートをはじめとする大会さん側からの手厚いサポートには驚きましたし、本当に助かりました。もっとこの待遇の素晴らしさをアピールすれば、参加者も増えるのかなとも思ったほどです。

改善してほしいところを挙げるとするならば三つあり、一つはスケジュールを大会進行に大きく影響しないところはある程度事前に教えていただきたいこと、もう一つは十分なチーム間でのコミュニケーションの時間の確保かと思えます。更に得点配分を明確に教えていただきたかったです。とくに二つ目は、全国の皆さんが一堂に会す貴重な機会ということもあり、時間がタイトなのはわかりますが、是非お願いしたかったところです。

最後に、全国大会の経験は冒頭にも書きましたが、とにかく楽しかったです。バラエティに富んだクイズは面白かったですし、皆と楽しく話せる機会が多々あったため、過ぎていてあっという間でした。

有用な金融の知識、自信、刺激と収穫多く、楽しさに富む。エコノミクス甲子園全国大会に参加できたことに感謝。

山形大会代表 山形県立山形東高等学校 2年
木村 穰太郎

今回エコノミクス甲子園全国大会に参加できたのは大変有意義なことでありました。集まっているのが名だたる高校ばかりで、レベルの高さを感じました。初日に行われたGDRにおいても、経済学だけでなく幅広い知識や経験に裏打ちされた意見ばかりがぶつかり合い、同世代とは思えないほど高度な議論でした。単なる知識で終わらずに、実際にそれらを活用して仕事をしている方の話を聞いて、実際に近い形での活用方法を考えるのは社会に出る際にも直結する実践的な体験でした。もちろん、疑似投資、本選においても周りの知識量に圧倒された大会でした。

経済という、社会循環の根幹にあるといえるものに対する

見聞見聞を深められただけでも、一生ものの体験でした。金融知力は生きていく上で切っても切れないような力の一つであるのに、正しく身に着けている人は少ないのが現実だと思います。多くの高校生たちに参加と金融知力を学ぶ絶好の機会を与えてくださる本大会は素晴らしいものだと感じます。

そして何より運営を過去の全国大会出場者が無償で行っているということに感銘を受けました。それだけ出場者にとって大きな経験となっている証であり、手伝いたいと思える魅力的なものなのでしょう。コロナ禍で様々な勝手が違う中でオフライン開催をさせていただいたこと、楽しく金融知力を学ばせていただいたこと、楽しい大会を運営してくださったこと等、大変感謝しております。また、山形から東京、会場まで様々な面でサポートしてくださった山形銀行の方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました。





福島大会 12月18日(日)開催



すべてを地域のために

東邦銀行

優勝チーム 福島県立福島高等学校

(3年ぶり9回目)

「ペンギン」

根本 晃希・大山 峻



主催 東邦銀行

参加校一覧

福島県立福島高等学校、福島県立新地高等学校、福島県立原町高等学校

申込みチーム数 13チーム (3校)



福島大会代表 福島県立福島高等学校 2年

根本 晃希

エコ甲初日。TKO 木本さんの講義があったのだ。実際に金融問題に関わった当事者の話を聞くのは初めてだった。とてもためになる話で、今後気をつけて生きていこうと思った瞬間だった。二日目。まずは突然筆記試験があった。驚いた。その後、様々な方々の話を聞いて、ディスカッションに臨んだ。話をまとめて議論した。割とためになったと思う。その後、ポイント運用。株の運用をシミュレーションすることで点数を稼ぐものだ。見事に失敗した。知識を身に付けてから投資しないとイケないと感じた。その後はエコノミカ大会。賭けに出すぎて敗北を繰り返したが最後に挽回した。

最終日、本番だ。最初に外してしまった。第二ラウンドまでは進んだが、その後の復活戦では初手で失敗。敗退となった。その後は見学という形にはなったが、知識が豊富な方たちのクイズをその場に見ながら見せて寄せでした。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 1年

大山 峻

はじめはふとしたきっかけから参加を決めたこのエコノミクス甲子園大会、全て終わる頃には初めの熱量からは想像もできないほどの悔しさに包まれていた。プレステージを含めたステージはどれも面白いものばかりだった。誤答にマイナスのある珍しい形式の筆記では、どこまで回答するべきかという判断が難しいものだった。GDRでは、初対面ではあっても同じグループの人とすぐに活発な話し合いをすることができた。しかし、内容が出





ても発表が少し上手く行かなかったり、普通の内容が浮かばず発表でのパフォーマンスで賭けに出にいかなくてはならない状況になってしまい、結果としてあまり点数が伸びなかった。その後急に存在を知らされたポイントトレーダーだが、実はそのようなステージがあるのではないかと事前に予測していた。ただしその予測ができるかと取引で勝てるかは別の話であった。はじめに計算でミスをして、一度の投資額の目安がズレてしまった。その後補正しようと大きく調整しにいったが、うまく噛み合わないままゲームは進み、終わりには痛い収支マイナスを叩いてしまった。プレステージで唯一の成功を収めたのは、最後の最後のエコノミカ大会である。もともとTCGやボードゲームが好きだったのに加えて、対策もしていた甲斐あって、個人で全勝することができたのは良い思い出となった。

そして翌日の本番、1Rでは色々な戦術を練っていたものの、思ったより速くCAOが回ってきてしまい、あまり自由にプレーできないまま最低失点で流さざるを得なかった。しかし答えを聞いてみれば確かに知っている問題で、あの時間内に答えを出せない悔しさが残った。2Rでは2問目で承継し、3問目は勉強不足で外したものの4問目の絶対に落とせない問題は確実に抑え、なんとも可もなく不可もないような結果となった。

結果、全体として少しずつうまくいかないことが積み重なり、順位としてもあまり奮わなかった。敗者復活では、有利な一戦目でスルーを狙おうと思ったがチームメイトが押し、そこド忘れして誤答になってしまったのだが、それが普通に常識レベルの問題で、その後の問題は分かる問題が続いていただけに、とても不甲斐ないし悔しかったと感じている。個人で魅せられるプレーがあまりなかったとも思い、不完全燃焼のまま今年のエコは幕を閉じた。

しかしながら同時に、他チームとの交流も含めて、結果として"記録"には残らなくても"記憶"に残る、いわば大きな爪痕を残したチームになったのではないかと考えている。色々な意味で。

自身には来年度もチャンスがあるので、今回の悔しさをバネに来年度は結果も残すことを目指して再びこの大会に挑戦し、また戻ってこようと思う。その時は、今年よりも万全な準備をして、しっかり自分の持てるものを出し切りたいと思う。

全体を通して見れば、非常に良い、そして貴重な経験ができた3日間であった。もちろん自分達の競技面で語りたところは沢山あるが、そもそもこうした経験をできたのは主催やスポンサーはもちろんのこと、何より本大会OBの

ボランティアの先輩方の協力があったからこそだったと感じている。あまりにも大変な運営だったろうということが見えてもわかったが、終わってからあれを無償でやって下さっていたと聞いた時には本当に驚いたし、尊敬の念を感じた。そしてそれと同時に、この大会がとても素晴らしい大会であると感じた。改めてここでボランティアの皆様へ感謝の意を示したい。そしてこれで、この大会のボランティアというものに強い興味を持ったので、自分が卒業して大学生になったら、今度はそちら側の立場に立ってみたいと感じた。





茨城大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 茨城県立並木中等教育学校
(3年連続5回目)
「April」
青葉 葵・松本 僚哉



主催 筑波銀行

参加校一覧

茨城県立土浦第二高等学校、茨城県立並木中等教育学校、
茗溪学園高等学校、江戸川学園取手高等学校、常総学院高
等学校、土浦日本大学高等学校

申込みチーム数 29チーム (6校)



茨城大会代表 茨城県立並木中等教育学校 1年 青葉 葵

私たちがチームを組んだ理由は、地方大会の日にスケジュールが空いている友人が他にいなかったからだ。相手は経済になんの興味もなかったため(多分)、対策に付き合わせるのも申し訳ないと思い、居てくれるだけでいいから、とだけ伝え、最低限の勉強しかせずに地方大会へ臨んだ。こんな調子で、まったく優勝するつもりなどなかった私たちだったが、相手がファインプレーを連発したおかげで全国大会への参加が決まった。

そして迎えた全国大会。全国大会までの2ヶ月、私たちは個人で勉強していたため、私は相手のことばかり心配していたが、結局たくさん足を引っ張ってしまった。2日目の筆記クイズでは、近似値問題で日本の歳出額を1兆円だと勘違いし、3日目の第1ラウンドでは得点をマイナスにした。私が相手の立場だったら、不満げな態度をとってしまうぐらいの失態だったと思う。しかし、相手はそんな私に対して、責める様子もなく、一緒に悔しがり、次頑張れば大丈夫と何度も私を立ち直らせてくれた。

多くのミスをしながらも笑って大会を終えることができたのは、他でもなく相手のおかげだと思う。本当にありがとう。また、全国大会で日本各地の高校生と交流することができたのも良い経験だった。同じく男女ペアで、相部屋になったネット大会代表、福岡大会、群馬大会代表、GDRで同じ班になったメンバー、エコノミカで対戦した方々…。私が高1なのに図々しくタメ口で話しても、つまらない話をして、みんなとても優しくした。もっと長く一緒に過ごしたかったと思えるほどの素敵な出会いだった。

また会えたら声をかけてほしいです!

全国大会では数えきれないほどの素晴らしい経験をさせて



もらった。だから、来年も全国大会に出場し、NYを目指したい。

来年もまた一緒に出てくれたら嬉しいな。

茨城大会代表 茨城県立並木中等教育学校 1年 松本 僚哉

まずは、大会運営、スタッフ、各銀行並びにスポンサーの皆様、本当にお疲れさまでした。このような貴重な体験をさせていただけたこと、心より、感謝申し上げます。

私が最も印象に残ったのは、他の参加者との交流です。県大会は校内で参加したため見知ったメンバーに囲まれての参加で、なおかつ、全国大会という大きな大会に参加したのは初めてだったのでとても緊張していましたが、とても気さくな人たちで、グループディスカッションでの話し合い等の交流も楽しんで行うことができました。自分からもっといろんな人と交流の機会を作れば良かったと少し後悔しています。みな、経済に関しての造詣が深く、ちょっとした時間での話も楽しかったです。

また、スタッフ、運営側の方々もとても優しい人ばかりで、トラブル時にとても優しく対応してくださいました。過去の大会出場者が運営を行うシステムは、やりがいもあるだろうし、良いシステムだと思いました。

個人的に大会で修正してほしい点は、第3試合の、多数回答の試合形式です。あれは回答者の実力以上に運が絡みすぎているように感じました。

全国大会に参加することで、多くの収穫を得ることができました。今後も、このような機会に積極的に参加し、自分自身をより一層成長させていきたいと思います。

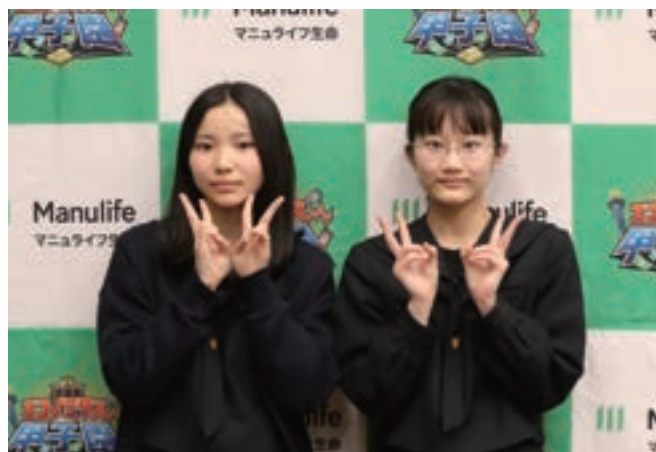




栃木大会 12月11日(日)開催

足利銀行

優勝チーム 栃木県立矢板東高等学校
(9年ぶり2回目)
「レッセフェール」
黒崎 心宝・小林 奈央



主催 足利銀行

参加校一覧

白鷗大学足利高等学校、栃木県立矢板東高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校

申込みチーム数 17チーム (5校)

運営スタッフ感想

コロナ禍での集合形式による開催ということで、不安もありましたが、スタッフの協力と参加者、観覧者の理解もあり無事に開催することができました。

決勝ラウンドは大いに盛り上がり、参加者だけでなくスタッフも楽しむことができました。

金融教育の一助となれるよう、今後も楽しい大会運営を目指していきたいと思えます。

栃木大会代表 栃木県立矢板東高等学校 2年 黒崎 心宝

私は経済に興味があり、エコノミクス甲子園は中学一年生の時から知っていて高校生になったら出場してみたいと思っていました。そこで、高校一年生の時に地方大会に出場したところ結果は三位でした。あと一年頑張って絶対全国に行ってみせる、全国大会はどんなに素晴らしいところなのだろうかと胸に希望や期待を抱きながら勉強し続けて、その翌年のリベンジ戦で迎えた優勝の瞬間は言葉では表しきれないほど感慨深いものでした。

ずっと待ち焦がれて、楽しみにしていた全国大会は去年とは違ってオフライン開催となり、各地方大会を勝ち進んできた全国の皆さんにお会いすることが出来るのは、非常に光栄なことでした。グループディスカッションラウンド(GDR)やエコノミカ大会で皆さんと交流するのはとても刺激的で、充実した時間を過ごせました。また金・土の講演会や講義は、お笑い芸人さんや金融機関に勤めていらっしゃる





る方々から直々に最先端の話を聞かせて頂けるという豪華なプログラムで、大変勉強になりました。どのプログラムも楽しかったのですが、中でも特筆すべきはポイントトレーダーです。筆記試験と GDR で手に入れたポイントをお金と見なして、仮想的に実在する 10 種類の株式銘柄に 10 年分運用して殖やそうというもので、私自身株の運用はまだしたことがなかったので、ここで体験できてとても嬉しかったです。しかも各銘柄は、実際の過去の値動き通りに変動していて、当時のニュースを思い出しながら運用しても、思っているより上手いかわないのが、興味深かったです。エコノミクス甲子園で過ごした 3 日間は私にとって大変有意義なものでした。

最後に、エコノミクス甲子園に携わった全て皆様に心からの感謝を申し上げます。このような貴重な機会を手厚いサポートと共に提供して下さい、本当に感謝してもしきれません。エコノミクス甲子園で得た経験をもとに、これからも金融知力を磨き、そして次に繋げていきます。

栃木大会代表 栃木県立矢板東高等学校 2年

小林 奈央

社会の授業で世界恐慌について学んだ時だった。ルーズベルトのニューディール政策に奇妙な感動を覚え、経済に興味湧いた。その直後に知ったのがこのエコノミクス甲子園である。経済学部を志望していた黒崎氏を誘い、勉強を始めた。

大会に向けた勉強は情報リテラシーを高める上でとても価値あるものだった。というのも、配布された教材の発行年は 2000 年代後半であり、今は存在しない制度、全く違う数値などが氾濫していた。教材のページをめくり、不確かな項目を見つけては、信頼できる情報源からダブルチェックを行い、統計は必ず最新版のものを入手するようにした。途方もない作業に心が折れそうになった時もある。そんな時に助けになったのは、チームメイトである黒崎氏の存在だ。彼女はとにかく愚直である。八時間以上勉強会をしたあと、疲れていても愚痴一つ言わない姿に感服した。彼女と身近に関われたことは、本大会に参加した中での一番の収穫だ。

大会期間中に一番印象に残っているのは、友人の「頭がいいだけの人間にはならない。」という言葉だ。頭がいいだけなら代わりは沢山いる。自分にしかできないことを探し続けて、人に良い影響を与えられるような人間になりたい。大会を通して、沢山の尊敬できる人や言葉と出会えたこと

は、人生の大きな糧となるに違いない。このような素敵な大会を運営して下さった方々に感謝する。





群馬大会 12月18日(日)開催

群馬銀行

私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

優勝チーム 群馬県立中央中等教育学校
(5年連続5回目)
「ヴィーエヌ」
笠原 綺乃・阿佐美 龍生



主催 群馬銀行

参加校一覧

群馬県立高崎高等学校、群馬県立渋川女子高等学校、群馬県立桐生高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立前橋商業高等学校、群馬県立中央中等教育学校、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

申込みチーム数 23チーム (9校)



群馬大会代表 群馬県立中央中等教育学校 2年 笠原 綺乃 (2年連続出場)

「来年、またここに戻ってきたい」
全国大会の報告書にそう書いた1年前。相方の阿佐美くんのおかげで、その希望が叶いました。
数年ぶりとなったオフラインの全国大会は、私にとってはもちろん初めてなので新鮮なことばかりで、出発から帰宅までずっと夢見心地だったように思います。全国から集まってきた精鋭たちと対面し、実際にクイズで戦うのだと考えると、オンライン大会とはまた違う緊張がありました。正直なところ逃げ出したかったくらいガチガチなまま大会当日を迎えましたが、改めて振り返ってみると、経験したことひとつひとつが輝いて見えます。特に、全国の高校生との交流を持てたことが、私にとって大きな財産となりました。生活している環境も、得意分野も、趣味も、何もかも異なる同世代の人々と関わる機会は大変貴重なものです。エコノミカやディスカッション等でのコミュニケーションを通じて多様な価値観に触れ、多くの刺激を受けました。また、大会期間中の様々なアクティビティや講演会を経て、積み重ねてきた知識が生きたものになったと実感しています。経済に対する理解がより深まり、日常に溢れている経済ニュースにも興味をより強く持つようになりました。自分自身の金融知力には全く自信がありませんが、それでも、ニュースを通じて世の中の情勢を何となく掴めるようになった気がしています。その「何となく」が「ほぼ完全に」となるよう、今後も勉強を続けていきたいと思っています。
最後に、今大会の運営に関わる全ての方々には心より感謝申し上げます。そして、クイズにめっぽう弱い上に緊張しいでダメダメな私を一切責めることなく2年間支え続けてくれた相方の阿佐美くん、大会で出会って仲良くしてくださっ



た高校生みなさん、応援してくださった方々、感謝してもきれません。かけがえない時間を、本当にありがとうございました。

群馬大会代表 群馬県立中央中等教育学校 2年
阿佐美 龍生 (2年連続出場)

まずは、今大会の開催、運営に関わってくださった皆様及び、当日の移動をはじめ様々な場面でお世話になった群馬銀行様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。私たちは、昨年度に引き続き2年連続の参加となりましたが、1年目の昨年は他県の代表に圧倒されてしまい、全国大会ではほとんど歯が立たなかったような感覚を覚えました。今年は、昨年の悔しさを思い出し参加を決定しましたが、数年ぶりの東京での現地開催となったことを伺い、2人で喜びあったことをよく覚えています。全国大会中には、定期試験なども重なり、学習時間を確保するのに苦労しましたが、隙間時間を活用しつつ、金融学習の楽しさを感じながら学習を効率的に進めることに専念しました。

大会1、2日目には、各地方大会代表と非常に濃密な交流ができたと感じています。初対面ではありながらも、宿泊生活や講義、エコノミカといった活動を通じて、予想していたよりも遙かに多くの高校生と交流ができました。(特に、同室であった福岡県代表のお二人は非常に親切で、数多くの思い出を共有できました。)

大会3日目には、それまで仲を深め合った他県代表と戦うことになり、それまでには緊張感を感じる場面も多くなりましたが、私たちの実力は十分できたと感じています。また、敗者復活戦をはじめ、大会全体が参加者を惹きつける非常に魅力的な構成だったと思います。

大会が終わった日々の生活の中でも、経済時事への関心や理解が以前より深まっていることを実感しています。これからも自らの金融知力を高めつつ、社会に貢献できる人間になりたいと思います。2年間、本当にありがとうございました。





埼玉大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 栄東高等学校
(4年連続8回目)
「くろねこピザ屋」
今井 絵梨・渡邊 壮誠



主催 埼玉りそな銀行

参加校一覧

花咲徳栄高等学校、獨協埼玉高等学校、栄東高等学校、早稲田大学本庄高等学院、山村学園高等学校、埼玉県立浦和商業高等学校、埼玉県立大宮高等学校、さいたま市立大宮西高等学校

申込みチーム数 26チーム (8校)

埼玉大会代表の栄東高等学校は、諸事情により出場辞退となりました。



【組み合わせ抽選会の様子】







千葉大会

12月18日(日)開催



優勝チーム 昭和学院秀英高等学校

(初出場)

「海鮮丼」

赤松 虹太郎・平野 恭祐



主催 千葉銀行 / 千葉興業銀行

参加校一覧

渋谷教育学園幕張高等学校、東邦大学付属東邦高等学校、木更津総合高等学校、昭和学院高等学校、昭和学院秀英高等学校、市川高等学校、千葉県立千葉高等学校

申込みチーム数 24チーム (7校)

運営スタッフ感想

千葉大会は3年ぶりのオフライン大会でした。高校生たちの熱戦ぶりを直接目にすることができ、大変感動しました。ご参加いただいた皆さん、ありがとうございました！今後も、より良い大会となるよう、千葉銀行と千葉興業銀行の2行で協力し合い、千葉大会を更に盛り上げてまいります。次回の参加もお待ちしています！



千葉大会代表 昭和学院秀英高等学校 2年 赤松 虹太郎

このエコ甲を時系列順に振り返りをしたいと思います。エントリー時：前から大会の存在があることは知っていたが組む相手も経済という分野にそこまで興味関心があるわけでもなかったが、優勝時の特典であるニューヨークへの研修旅行にはすごい興味があった。そんな時に、後輩の平野に「エコ甲ってどうしますか？」と聞かれた時に即答で「出よう！」と言った。

地方大会への対策：送られてきたテキストには軽く目を通した。その他に、私は普段クイズ研究会で活動しているのでクイズの問題集で勉強するときに経済のジャンルの問題に印をつけたり、ノートに書き留めたりして覚えた。また、家庭科の授業でクーリングオフや家計など経済に繋がる範囲を勉強していたのでそこも押さえた。

地方大会：予選ラウンドのペーパーでは対策した所も多く出たが後半の考える系の問題があまり得点できなかった。早押しはクイ研らしくお互い正解もしてベストパフォーマンス





スができた。決勝ラウンドでは、勘違いや忘れなどで他のチームに比べ出遅れた。しかし、最後の一回で単独正解して全国への切符を掴んだ。夢のようだった。

全国大会への対策：地方予選とあまり変わらない感じでやった。

全国大会：宿舎で色々な学校の人達と他愛のない話をして盛り上がった。エコノミカをしたりと新鮮で楽しかった。本選1日目はペーパーと投資、エコノミカであまりうまくいかず、明日頑張ろうと平野と共に切り替えた。2日目、1日目の悪い流れを断ち切ることができなかった。平野が勢いをつけるプレイングをしていたのでただただ申し訳なかった。敗者復活戦でも、いつもの誤答癖が出てしまった。それでも最後に早押しクイズができて楽しかった。

最後に：自分が望んでいた結果とは程遠い結果に終わってしまい満足とは言えません。しかし、普段交流することのない人達と話したり遊んだりして様々な刺激がありました。経済の勉強をしたことで新聞などに載ってる経済ニュースの意味が少しずつ分かるようになりました。この大会での経験をいつか活かせるように頑張ります。運営の皆さんありがとうございました

千葉大会代表 昭和学院秀英高等学校 1年

平野 恭祐

最も印象的だったのは全国大会決勝で、写真判定の前の5カウント。あの瞬間、その場にいた出場者たちはきっと心が躍ったのだろう。なぜか。——私は1年生として先輩と千葉大会に出場した。地方大会ではなんとか決勝に進出したが、最終問題前の段階で決勝6チーム中5位と、優勝は絶望的だった。「優勝以外は無意味」という精神で最終問題に臨んだ結果、奇跡的な単独正解で逆転優勝を果たした。全国から集まった45チームは皆、同じように地方大会を優勝して来たはずだ。だからである。優勝した時のえも言われぬ充足感、脳を揺らすような喝采、全身が震える衝撃を味わったはずだ。その経験を全員が共有しているからこそ、倒れる金塊の塔に悲鳴をあげ、心が重なった5カウントを生み出したのだ。きっと、全チームが勝ち得た。それでも札幌開成のお2人が優勝した最大の理由は精神の強さだと思う。あの5カウントは札幌開成だけでなく、決勝を演出した4チームへの賞賛を意味すると、私は思う。自分は全国大会では全くと言っていいほど活躍出来なかったのに、楽しかったと思ってしまった。負けに満足していいわけがないのに、楽しかった。勝利は得られなかったが、実は

得たものが多かった。たくさんの人と会って、仲良くなった。金融経済を考える時間を持てた。他人の勝利に心動かされた。あんな瞬間見せられたら、諦めたくなくなるじゃないですか。





東京大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 筑波大学附属駒場高等学校
(初出場)
「よじよし」
三好 理輝・武藤 真



主催 リそな銀行

参加校一覧

開成高等学校、足立学園高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京都立第一商業高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立国際高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、早稲田大学高等学院、慶應義塾女子高等学校、広尾学園小石川高等学校、巣鴨高等学校、城北高等学校、国際基督教大学高等学校、八王子学園八王子高等学校、光塩女子学院高等科、三輪田学園高等学校、お茶の水女子大学附属高等学校

申込みチーム数 21 チーム (17 校)



東京大会代表 筑波大学附属駒場高等学校 1年
三好 理輝

エコノミクス甲子園全国大会は、地域の枠を超えて多様な人々と出会い、切磋琢磨できる最高のイベントでした。

私はもともと経済に強い関心はなかったのですが、この大会の優勝者にはニューヨーク研修旅行が与えられると知り、相方を誘い参加しました。予選通過は厳しいだろうと感じながらも、東京都代表として出られることが決まり、その時は大変うれしかったです。

全国大会の順位は真ん中くらいで、研修旅行は獲得できませんでしたが、全国大会に参加できて本当に良かったと感じています。

1日目はTKO木本さんの講演があり、投資の失敗の話はとてもためになりました。また、彼の芸人としての話をつなげる力の高さ、笑いを生み出す技術に感心しました。彼の言葉「自分を特別に思わないことが大事」には、「他人は自分を特別だと思っている、という勘違いをしないことが大事」という意味があると考え、肝に銘じるようにしたいと思いました。

2日目の午前のプレゼンラウンドでは、講師の方々が経済にとどまらず、パーパス経営など社会で必要な事を分かりやすく教えてくれました。また、同期の仲間と熟議をする貴重な時間を過ごしました。その後は投資でポイントを増やすポイントトレーダーという活動を行い、大勝とはなりませんでした。現実社会のような堅実な投資を通じてそこそこ稼ぐことができました。この日最後のアクティビティはエコノミクス大会で、僕たちのチームは特に力を入れて臨みました。相方との練習では勝率が2割ほどだったのですが、本番は他のチームの方々に全勝することができ、相手も全勝で、チームとして優勝することができました。ゲー



ムでこんなに熱くなったのは初めてで、全力を尽くすことの楽しさを味わいました。

本番のある3日目は、朝ごはんからほんのりと緊張感が漂っているのを感じました。本番はあっという間でしたが、特に緊張することなく楽しんで参加することができました。第2ラウンドで全問間違えてしまいがっかりしていましたが、相方が責めることなく明るくふるまってくれたので救われました。決勝ラウンドは観客として楽しんでいましたが、チーム同士の死力と知力をふり絞る戦いと、手に汗握る大波乱の展開に興奮しました。

全国大会を通して、様々な都道府県から訪れた人と交流できたのは大変貴重な体験となりました。日本全国の異なる視点の人とたくさん触れ合うことができ、自分が過ごしてきた学校や塾というコミュニティの狭さに気づかされました。他の参加者は気さくに話しかけてくれる人が多く、知識量的にも人間的にも尊敬できる人ばかりで、多くの刺激を与えてくれました。個人的には、様々な方言を耳にすることができたのがとても楽しかったです。

このエコノミクス甲子園を通じ、投資やお金の将来設計について考え直す機会を得ることができ、これまで疎遠だった経済を身近に感じることができるようになったと思います。最後になりますが、この大会に関わったすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

東京大会代表 筑波大学附属駒場高等学校 1年
武藤 真

今回の大会に参加できて本当に価値のある経験をすることができました。東京予選は問題を解く前も終わった後も、まさか僕らが通過するとは夢にも思ってもいなかったこともあってか喜びもひとしおでした。今回の大会に参加できたことは僕の人生で嬉しかったランキングトップ10に入ります。そんなエコノミクス甲子園第17回の楽しかった思い出について話していきたいと思います。

一つはたくさんの人と友達になれたことです。全国各地から学生が集まってくる機会なんてなかなかないし、友達になる機会もほとんどないので貴重な経験でした。みんなフレンドリーに話しかけてくれたおかげで緊張もほぐれて、尊敬できる人たちと話すのはとても楽しかったです。また、ところどころに出てくる方言がものすごく好きです。

二つ目はグループディスカッションラウンドです。これは少し一つ目と被るんですが、みんな凄いなと感じることが多かったりでした。なんか難しいことを話したり、こんな思

考の仕方、まとめかたがあるんだと驚かされたりしました。特に二回目のラウンドは、絶対に僕1人では辿り着けない最高な発表をすることができすぎてワクワクしました。もちろんどちらの講義も面白く、議題も考えさせられるもので、久しぶりにあんなに真面目に議論したと思います。三つ目はエコノミクス大会です。相方を練習でボコボコにして調子になり、大会前に友達に挑んだら普通にボコされるなどして紆余曲折ありました。しかし、本番では運を制することができて全勝。相方もなんか全勝と、優勝することができました。同じように全勝チームがもう一チームいて同率優勝だったことには驚きました。正直、賞金が出て喜びが倍増しました。

健闘したペーパーや惨敗だったが面白かった本戦など他にも色々思い出はありますが、こころで締めたいと思います。最初にも述べましたが、今回の大会は最高の経験でした。来年も挑戦してみたいと思います。最後に、札幌開成優勝おめでとう！他の高校もドンマイ。そして、今回の大会を支えてくれた、スタッフさんなど全ての人に感謝を伝えたいです。





神奈川大会 12月18日(日)開催



Bank of Yokohama

横浜銀行

優勝チーム 慶應義塾高等学校
(7年ぶり2回目)
[6-3]
今泉 開・柏谷 脩太



主催 横浜銀行

参加校一覧

聖光学院高等学校、立花学園高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立希望ヶ丘高等学校、浅野高等学校、洗足学園高等学校、桐光学園高等学校、栄光学園高等学校、慶應義塾高等学校、慶應義塾湘南藤沢高等部、中央大学附属横浜高等学校

申込みチーム数 25チーム (12校)



神奈川大会代表 慶應義塾高等学校 3年 今泉 開

去年の7月中旬頃、期末試験を終えて社会科教室を通り過ぎようとした時が、エコノミクス甲子園との出会った瞬間だった。小学校の旧友で、高校で再会した柏谷に電話をかけ、大会を知ってすぐに調べた情報だけ手短かに伝えて出場を決意した。最後の大会を終えてバスケットボール部を引退した私にとって、本大会の存在は経済・金融についての知識を深めるための大いなる動機となり、送付された事前教材に取り掛かった。

とは言っても、私たちは進学先を決定するための試験や課題が控えており、実質的に取り組むことができた時間は僅かだった。それでも臨んだ地方大会では、お互いの不足する知識を補填し合いながら見事神奈川大会を優勝することができた。

地方大会を優勝することができてよかったと思っていたのも束の間、すぐに全国大会の出場可否のメールが送られてきた。私たちは初出場のチームであったし、何より全国大会の対策方法がわからなかったため、闇雲に金融や経済の単語帳や参考書を読み漁った。

そして迎えた1日目。まず驚いたのは、会場が緊張で張り詰めていなかったこと。皆がそれぞれの地方の代表として全国大会に臨んでおり、交流の場ではなく戦場のような雰囲気だろうと思い込んでいた私は驚愕すると同時に、すぐに他校の生徒と交流を深めることができ、安堵の思いで1日目を終えた。

そして2日目。流石に得点に関わるゲーム/クイズということで少し緊張しており、あるセクションでは好成績を収めることができたものの、投資シミュレーションなどのより実践的なゲームで失敗してしまった。3日目に



その結果が響いてしまい、結果的には予選勝ち抜け、準決勝ラウンド敗退となってしまい悔いの残る結果となってしまった。それでも本大会での経験は素晴らしいものであり、金融知力をより高める良い機会となった。私たちは高校3年生で来年からの出場資格はないので、優勝という目標は今後の神奈川県大会優勝者に託したいと思う。本大会を開催して下さった運営の方々、ありがとうございました。

神奈川県代表 慶應義塾高等学校 3年
柏谷 脩太

夏休み前、ペアの今泉と一緒に参加しないか、と誘われどんな大会なのか調べないまま了承したエコノミクス甲子園。改めて本当に参加して良かったと思う。部活動を引退してから大学入学までの暇潰しになればいいな、そんな軽い気持ちで地方大会には出場していた。しかし、相方のお陰で全国大会への切符を手に入れ自分自身も本格的に勉強を始めると金融、経済分野の面白さに引き込まれていった。自ら進んで勉強をしたのなんていつぶりだろう、それくらい楽しく準備することができた。

高校生活がコロナウイルスの流行と重なってしまい、他校との交流やイベントを満足に経験出来なかった自分にとってオフライン開催の全国大会の3日間は刺激に満ち溢れたものだった。イベントの合間合間に全国の優秀な人たちと交流できたのはとても貴重な経験だった。

大会の結果は準決勝敗退、今年高三だった自分たちにとっては最初で最後のエコノミクス甲子園だ。もしも1年生、2年生のときから参加していたら大学でやりたいことも変わっていたかもしれない、そう思うほどに貴重な体験だった。自分のような内部進学で受験のない高校生ほど是非参加して欲しいと思う。学部選択、そしてその先の自分の人生に必ず役に立つと断言できる。学校での金融教育があまり普及していない中エコノミクス甲子園はお金のこと、社会の仕組みのことを楽しく学ぶことができる最高の機会だ。「学んで損は「ない」 こういう風にいう人がたくさんいると思うが自分は「絶対に学んだ方がいい」 そう言いきれぬ。改めて、このような貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。





新潟大会 12月11日(日)開催

第四北越銀行

優勝チーム 新潟県立新潟高等学校
 (5年連続7回目)
 「エイブラ公・林間」
 小林 航己・林 典宏



主催 第四北越銀行

参加校一覧

新潟県立長岡高等学校、新潟県立柏崎高等学校、新潟県立新発田高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新潟商業高等学校、新潟市立明鏡高等学校、敬和学園高等学校、北越高等学校

申込みチーム数 12チーム (8校)

運営スタッフ感想

新潟大会にご参加いただいた高校生のみなさん、ありがとうございました！

3年ぶりに集合形式での開催となった新潟大会は、大混戦の末、見事「エイブラ公・林間」のお二人が優勝を決めました。おめでとうございます。

大会全体を通じて、高校生のみなさんが楽しみながらクイズに参加していた姿がとても印象的でした。この大会が、生涯役に立つ「金融知力」を身につけるきっかけとなっていたら幸いです。

本当にお疲れさまでした！



新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 2年
小林 航己 (2年連続出場)

自分は今大会で2度目の出場でした。しかも、1度目はオンライン開催、今回は集合形式と両方の形式に参加できました。これだけで光栄なことです。本来は、大会と経済・金融知力について感想を言うべきなのですが、それよりも書き留めたいことがあります。

とは言いつつ、軽く触れたいと思います。筆記クイズ…抜き打ちで告げられたときの空気感、難問に突きつけられる現実は今でも鮮明に覚えています。GDR…午前の部は抽象的な問いで、ファシリテーションに苦戦しましたが、メンバーに助けられました。心から感謝します。午前も午後も、「投資を通して社会を成熟させる」という視点が新鮮でした。幸い、自分のグループは午前午後共に1位を獲得でき、安心しました。トレード大会、エコノミカ大会ともにゲームセンス抜群の相方の大活躍に助けられました。本番…準決勝で自分を信じ切れなかったことを後悔すると共に、予選4位で準決勝の舞台に立てたことを誇りに思います。時の流れは人の虚をつくものです。

この大会での率直な感想は、「オフラインでの大会は最高」というシンプルなものです。前回大会では、他の人と関わらないまま事前ラウンドが始まりましたが、心苦しいものでした。いくら通信手段が発達しても、生身の人と触れ合うことは言葉では形容しがたい何かを感じます。多くの人と関わり持つ金曜日から、大浴場で一緒になった、談話室で一緒になった、前回大会で共に出場していた、様々な機会を通して全国の人と交流できました。それだけで人生の時計の針が加速した心地がします。講演会で木本さんがおっしゃったように、多くの人と関わりも持つことで、様々な側面に気づくことができました。国内にいてもカルチャー



ショックを感じるほどです、刺激的でした。

大会が終わった今も、その快さがいちばん心に爪痕を残しています。この機会に感謝しなければなりません。大会を準備していただいたスタッフの皆様、恥ずかしながら車で帰りの切符を紛失した際に対応してくださったスタッフの方々、そして、経済や金融知力に興味がなかったにも関わらず、無理な誘いに乗ってここまでついてきてくれた相方の林に心から感謝いたします。

新潟大会代表 新潟県立新潟高等学校 2年

林 典宏

まさか自分がエコ甲にでるとは思っていなかった。エコ甲の存在自体は昨年から知っていたが、相方に誘われたときは戸惑いを隠せなかった。

テスト後新幹線に乗り、東京へ向かう。緊張より興奮が強かった。いざ会場入りすると緊張した。早い時間に会場入りできたことが救いだろう。

暫くして木本さんの講演会が始まった。FXと不動産でトラブルになったことはメールで来てから知ったが詳しくは知らなかった。話し方のレベル感が違った。引き込まれた。自分が特別に思わないわけがない。他の人には見せない顔、他の人には秘密なことを言われると優越感が生じてしまうのはどうしようもない。話を聞く限りは木本さんは騙された被害者でなぜ誹謗中傷が木本さんに向いているのか謎だった。話し中相方が写真を撮ってもらう台詞を考えていたのがシュールだった。全然関西人じゃないのにメモ書きが似非関西弁。

その後部屋の鍵を貰い色々準備してお風呂に行ったら、新居浜高専と対馬の人と仲良くなった。いわゆる裸の付き合い。自分達と全く違う環境についてだったり趣味についてだったりすることを話した。とても新鮮な感覚がした。ちなみに、お風呂は2つあって左の方は混んでいた模様。偶々右側に行ったらがらがらだった。さらにその後談話室で寛いでいたら人が集まってきて会合？が始まった。全国大会でしか関わることのない地域の人と関わるととても貴重な体験に感じた。関西の人が多かったのは気のせいではないはず。お湯を沸かしに来た竹刈の正体分からずじまいだった。

次の日は分科会ごとに分かれた。なんと、第二希望だったにも関わらず英語の分科会を引き当ててしまった。午前の部では対馬の人と話しながら参戦した。隣に座った鶯谷の人とも仲良くなった。スピーカーをやることになったが3

位以内に入れなくて申し訳なかった。しかし、いい経験になったと思う。午後の部は講演中に質問を当てられてピンチに陥った。両隣が奇跡的に英語ペラペラで昭和秀英の人に意味を教えてもらった。結局答えられず託した。本当に助かった。たぶん、多くの人が当てられなくてよかったと思ったのではないか。隈研吾さんの話だけは理解できた。なんと午後の部では3位だった。イギリスでホームステイしたことのある高田の人のスピーカーと昭和秀英の人の司会と岡崎の人のinto the worldのおかげである。なお相方はどちらも1位だった模様。

結果発表後株取引が始まった。我が校の先輩の会社であるDeNAの株を買ったら爆上がりした。883円で買ったのがでかかった。楽天も買い叩いて。一時期、保有株価の時価総額が7000万を越えた(4年目くらい)。その後相方が過去のデータに気づき、予測するもみずほに固執してしまい。最終的には4000万くらいで終わった。正直1億狙えたので悔しい。取引後岐阜の人から誉められてけっこう嬉しかった。

食後、エコノミカ大会が始まった。正直誰よりも対策していたと思う。昼休みにクラスの友達とひたすらやっていた。案外ルールを完璧に理解している人が少なく驚いた。把握しておいてよかったと感じた。最終決戦を除き、5分で試合が終わったのでずっとフリートークしてた。話したことない人とさらに話せて幸せだった。最終決戦は4連勝対決だった。初手で3ハンドス(ねずみ講)をくらい、さらにパンプキン喰らって惜しくも負けてしまった。パンプキンの後に札束おじさんが出てきた時は流石にお札が嫌いにはならなかった。

次の日は入湯税。これに尽きる。

合唱の助っ人をやっていなかったらエコ甲にはでていないと考えると、合唱にはまった小穴の自分に感謝したい。今はあらゆる過去の上でなりたっていてその一つが今である。このような催しを創造し実行に移し継続することは容易ではない。企画運営の方々には感謝してもしきれない。また、世論がシビアな中オフラインで開催していただいたことで様々な出会いがあった。とても幸運なことだと思う。さらにコロナ禍で東京へ送り出してくれた親にも感謝しておく。正直断られるのではと思っていた。人生勝ち組になるためにも経済に敏感になっていきたい。そしてお金持ちになる。お金でできないことなんて片手で数えられるくらいの世の中にしたい。







富山大会 12月11日(日)開催



優勝チーム 富山県立高岡高等学校
(2年連続7回目)
「蛭雪」
松本 居凄・柳原 祐紀



主催 北陸銀行

参加校一覧

高岡龍谷高等学校、片山学園高等学校、富山高等専門学校射水キャンパス、富山県立高岡高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立砺波高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立呉羽高等学校、富山国際大学附属高等学校

申込みチーム数 23チーム (10校)

運営スタッフ感想

今回は21チーム42人に参加いただきました。

オンライン開催 (YouTube 配信) のため、参加者の様子を伺えず残念でしたが、YouTube のチャット欄で交流出来て良かったです。

クイズ中の演出として、司会者もクイズ解答に挑戦しましたが、銀行員でも分からない問題がありました。この大会で出題される問題の難しさを実感すると同時に、学生のうちからお金や社会のことを学ぶきっかけとして有意義な大会であると改めて感じました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。



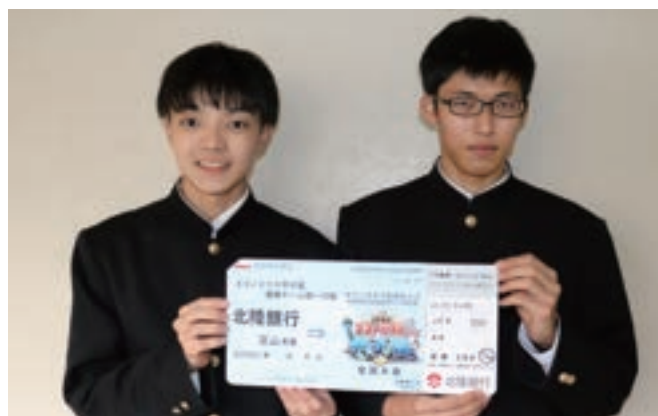
富山大会代表 富山県立高岡高等学校 2年
松本 居凄 (2年連続出場)

私は相方に恵まれたこともあって、2度目のエコノミクス甲子園出場を果たしました。

昨年の大会はコロナウイルスの影響でオンライン開催となってしまう、全国各地の高校生と交流を深めることができずに終わってしまいました。しかし、今年は東京で集まって開催するということを知り、より一層勉強に身が入り、地方大会は相方の柳原のおかげで何とか通過できました。

そして迎えた本戦。全国の賢い高校生達が一堂に会するというのに、とてもわくわくしていたのと同時に、コミュニケーションが取れるのだろうかという不安も抱いていたが、その不安は抱く必要もありませんでした。先輩、後輩関係無く、話かけてくれる人達ばかりで、すぐに打ち解け合うことができたからです。楽しさのあまり、3日間はあっという間に過ぎてしまいました。

肝心の本戦の結果は良いというものではなかったけれど、全国の高校生と仲を築くことができたということが今回のエコ甲での1番の大切な経験になったと実感しています。





本当に楽しかったので、次回大会も3年で出場しようか迷っています（笑）

終わりになりますが、今回の開催が無事迎えられたのも、金融知力普及協会の方々や、大学生スタッフの方々、大会スポンサーとなっていた企業の方々のご尽力のおかげです。特に、水谷昌弘様にはとてもお世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。金融知力を正しく正確に身につけ、これからの長い人生に役立てたいと思います。

そして、僕を誘ってくれた柳原、大会終了後の「楽しかった。ありがとう。」と言って交わした熱い握手は一生忘れません。最高の思い出をありがとう。

富山大会代表 富山県立高岡高等学校 2年

柳原 祐紀

今回のエコノミクス甲子園への参加で、私はいくつかのものを得ることができた。

まず第一に、大会への参加をきっかけに経済や投資に対して興味を持つことができた。大会への参加を決める前まで、私は投資に関する関心が薄く、学校の授業で習う程度の知識しか持たなかった。そのためFXなどのリスクの大きな一面のみを見て投資とは危険なものであると認識していた。

しかし、大会に向けた勉強によって投資にもさまざまな種類があり、価格差を利用して利益を出すものばかりではないということを知れて、投資に対する印象をかなり前向きなものにでき、将来の資産形成や人生設計のために投資や経済についてより深く知り、学びたいと思うようになった。また、大会への参加を通じて、経済に関心のある多くの人と知り合い、親交を深めることができ、このことによって経済、投資について学びたいという意欲が上がり、知識をつける目標も立てることができた。

私たちは今回の大会で目立った成績は残せなかったが、参加によってこれからの人生に役立つ大切なことを知れた。このような素晴らしい機会を私たちに与えてくださった金融知力普及協会、各地方銀行、学生ボランティアなどの大会関係者の皆様に深くお礼したい。また、私たちの挑戦は今年で終わりとなるが、これから先の世代にも大会に参加し、それを通じて経済を学ぶ機会を与える手助けをするべく、ボランティアなど何らかの形で大会に関わり、支えていきたい。





石川大会 12月18日(日)開催

北國銀行

優勝チーム 金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属高等学校 (9年連続 15回目)
「早起きできない組」
竹内 莉生・稲荷 青



主催 北國銀行

参加校一覧

金沢高等学校、金沢学院大学附属高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢商業高等学校

申込みチーム数 6チーム (4校)



石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年
竹内 莉生

エコノミクス甲子園に出たいと思った理由は、経済学を将来学んでみたいという思いと、東京やニューヨークに行きたいという思いであった。地方大会で事前資料が送られてきた時、「こんなに!？」と目を見張った。その資料の中にも保険関係のものがあれば、投資信託のものや、奨学金のものなど多種多様であった。経済という一つのジャンルをとっても、多くの分野が存在し、たくさん学ぶことができると分かり、より大学で深く学んでみたいと感じた。

地方大会では、早押しによってプラスでポイントを多く稼ぐことができたため、一年生ながら全国大会へと出場することができた。

全国大会でもなんとかなるだろうという楽観的な気持ちで臨んだのだが、無論そんなに甘くはなかった。抜き打ちテストではそれなりにうまくいったのだが、GDRでは自分はあまり、率先的に発言できず、うまく自分の思いを表現できなかった。また株のトレーディングシミュレーションはリスク許容度が低かったがために、あまりプラスにできなかった。本番ではとても緊張しており、特に4択問題では、自分の準備不足で相方にも迷惑をかけてしまった。結果としては16位と惜しかったがために、自分があの時答えていればという感情が湧いてきた。

この大会に出たことで、同学年の高校生には、自分よりもすごい人たちが沢山いるということが実感できた。

来年は今回の悔しさを活かして、万全の準備でリベンジを果たし、ニューヨークに行きたい。



石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 1年

稲荷 青

エコノミクス甲子園の存在を知ったのは学校に貼ってあったポスターを見た時でした。元々文系で公民や経済に興味はあったもののあまり学びを深めることはなく、少し参加してみたいなと思っていた矢先、友達に誘われ出場することになりました。地方大会の際は事前に配られた教材を使って学習しましたが、私自身も知らないことが多いのだなと気付かされました。正直今年は1年目で1年生なのでこれで負けても来年があるからいいやと思って望んだ地方大会でしたが運よく学習の成果が実って見事優勝することができました。全国大会の際は事前に配られた教材と各金融機関がインターネットでまとめている経済の用語などで重要だと思えるものをまとめて勉強しました。地方大会よりも深くて難しいものが多く最初のうちは困惑しましたがどんどん面白さもでてきました。全国大会の1日目はTKOの木本さんのご講演がありました。その中で話されていた自分を特別だと思っている人はある意味詐欺にハマりやすいというのは「ああそうだなー」と思い印象に残りました。また2日目に行ったGDRでは色々な分野の方のお話を直に聞くことができ非常に貴重な機会でした。そして3日目に行われた本戦では1ラウンド目はなんとか答えることができ2ラウンド目は悲しい結果になってしまいましたが、私は自分の勉強してきたことをやりきれたのでよかったです。自分の出番が終わった後も決勝みたいなクイズだけでない要素を入れたものはすごく面白かったです。今回エコノミクス甲子園に参加した中で私は経済・金融の面白さに気づくことができましたし、同時により詳しくなれたと思います。また経済は日々変わっていくものなので継続して勉強していくことの必要性も痛感しました。ですので、今後も経済の勉強を続けて来年もエコノミクス甲子園に出れるよう頑張りたいです。





福井大会 12月11日(日)開催

 北陸銀行

優勝チーム 福井県立藤島高等学校
(2年連続7回目)
「ふっくらおとこ」
織田 康誠・古川 春樹



主催 北陸銀行

参加校一覧

福井県立高志高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立武生高等学校、福井県立武生東高等学校、福井県立敦賀高等学校、福井県立勝山高等学校、北陸高等学校

申込みチーム数 19チーム(7校)

運営スタッフ感想

19チーム38人に参加いただきました。

オンライン開催(Youtube配信)のため、参加者の様子を伺えず残念でしたが、YouTubeのチャット欄で交流出来て良かったです。

クイズ中の演出として、司会者もクイズ解答に挑戦してみました。この大会で出題される問題の難しさを実感すると同時に、学生のうちからお金や社会のことを学びきっかけとして有意義な大会であると改めて感じました。

来年もより良い大会にできるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。



福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年
織田 康誠

私はクラスの後ろにあったエコ甲のパンフレットを見て、なぜか出てみたいと思った。そこで私は共に出てくれそうな友人を誘うことにしたが、説得するのに時間がかかり申し込んだのは締切当日の放課後となった。期末考査と時期が被ったが、送られてきた教材や今まで見たことのない新聞の経済の欄を見ながら考査の期間中も少しずつ勉強し、友人と経済関係の話について振り合ったりしていた。

考査が終わりオンラインで行われる福井大会がやってきたが、友人が濃厚接触者となり同じ空間で挑めず二人の間でビデオ通話しながらの参加となった。正直このとき僕は「金融・経済について勉強する機会ができて二人でこんなイベントに参加できて満足」と思っており全国大会に出場できるとは微塵も思っていなかった。

結果的に参加できた全国大会。2日目のグループディスカッションでは与えられたかなり難しいお題について短時間で意見をまとめ、発表する。私はお題を出される前の講師の方の話について行くのも難しかった。しかし知らない話題について触られるのはいい経験でとても楽しかった。その後のエコノミカ大会では肝心のエコノミカの方では5戦5敗と悲しいこととなったが、他校の方と関わりを持てたので全体では良かったと思う。そして迎えた3日目、前日のグループディスカッションでも思ったが改めて他校の方の知識の多さに圧倒された。私達の答えられない問題をどんどん答えて行くのである。

エコ甲がきっかけで金融・経済の勉強をするようになったが、今後も大会の様子をモチベとして少しずつ知識をつけていこうと思う。そしてその知識で人生を豊かにしていきたい。最後となるが、楽しい経験をさせてもらったこの工



コ甲を運営された方々を始め、この大会に関わった方々ありがとうございました。

福井大会代表 福井県立藤島高等学校 2年
古川 春樹

エコノミクス甲子園に出場したのは、同じ学校の織田くんが「高校生活の思い出作りにどうだ」と言ってきたからでした。

正直なところ、私は特別経済に興味があったわけでもなかったのですが、彼とは中学校からの付き合いであり良き友人だったので、「せっかく誘ってくれたんだ、やってみるかあ」と軽い気持ちで申し込みをしました。

予選大会では新型コロナウイルスの濃厚接触者になってしまったため一緒に参加できませんでしたが、織田くんが大奮闘して福井県で優勝してくれたおかげで東京での全国大会に行くことができました。

織田くんは理系選択でありながら非常に教養があり、全国大会でもとても頼りになりました。私なりに勉強はしていたのですが、それを上回る知識量はとても頼もしかったです。

エコノミクス甲子園に出場したことで、これまであまり意識してこなかった投資や資産運用などに興味が出てきました。これから社会人となり、自分で自分の財産を守らなければいけない身として、とても良い経験だったと思います。





山梨大会

12月18日(日)開催



ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

優勝チーム 駿台甲府高等学校
(3年連続3回目)
「旗掛松」
湊 達希・井出 健太郎



主催 山梨中央銀行

参加校一覧

駿台甲府高等学校、山梨県立韮崎工業高等学校、山梨県立都留高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立甲府東高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立日川高等学校、山梨学院高等学校、北杜市立甲陵高等学校

申込みチーム数 27チーム (9校)



山梨大会代表 駿台甲府高等学校 2年
湊 達希 (2年連続出場)

私は去年に続き参加しましたが、実際に集まって大会に出るのは初めてだったので、とても緊張しました。1日目にはTKO木本さんの講演会がありました。直接話を聞き、質問もできて良かったです。2日目にはグループディスカッションラウンドがありました。これにはかなり自信があったのですが、その自信は午前中の会で打ち砕かれました。みんな積極的に意見を出しているのに圧倒されて自分はあまり貢献出来ませんでした。午後には英語の会に参加しました。自分の英語力では講演にも議論にも付いて行けず、結果も振るわなかったのが悔しかったのを覚えています。その後のトレーディングラウンドでも上手く行かず、逆転を期した大会本番。他の問題は全部わかったのに、私たちのところには知らない問題が回ってきて敗退し、運営を恨みました。しかし今は、自分の実力不足だったと受け止めています。他にもエコノミカ大会やお風呂や食事など書ききれないことが多くありますが、大会スタッフやスポンサーの皆さん、競い合った仲間、そして一緒に参加してくてくれた井出くんには本当に感謝しています。ありがとうございました。井出くんには来年優勝してこの無念を晴らして欲しいと思います。



山梨大会代表 駿台甲府高等学校 1年
井出 健太郎

私がエコノミクス甲子園に参加するきっかけになったのは部活の先輩に誘われたことです。先輩は昨年に続いて2度目の出場で初出場の私が足を引っ張らないか心配でした。私は、金融・経済についての知識があまりなかったからです。金融・経済は私たちの生活に密接に関わっているが意外と知らない、そういった分野でした。

しかし、エコノミクス甲子園に参加するにあたって事前に配られた多種多様な豊富な資料を使い勉強することでより深い知識を得ることができました。また、普段はあまり触れることのない金融・経済用語についても詳しく知ることができたと思います。

そして何よりも今回はオフライン大会であり、全国各地から集まった高校生と実際に会って交流することができました。GDR(グループディスカッションラウンド)で同じグループになった人たちと話したり、夜に経済トレーディングカードゲームの「エコノミカ」で交流したりと普段、山梨に住んでいるとなかなか交流の機会のない各都道府県の高校生と話すことができ、とてもいい経験になりました。高校生活での忘れられない思い出を作ることができました。

本戦では予選敗退となってしまいましたが、実に充実した2泊3日の大会でした。僕はまだ高校1年生なので次回も挑戦してリベンジしたいと思っています。

最後に応援して下さった山梨中央銀行の皆様、このような大会を開催して下さった金融知力普及協会の皆様、スポンサー様ありがとうございました。





長野大会 12月4日(日)開催

八十二銀行

優勝チーム 長野県松本深志高等学校
(2年連続6回目)
「げねいおん」
西村 結人・藤森 実莉



主催 八十二銀行

参加校一覧

長野県長野高等学校、長野県松本深志高等学校、長野県上田高等学校、長野清泉女学院高等学校

申込みチーム数 7チーム (4校)

運営スタッフ感想

長野大会は今年で10回目を迎え、4校7チーム14名の高校生に出場していただきました。3年ぶりに集合形式で開催し、オンラインでは味わえない臨場感のあるゲーム内容にハラハラドキドキしながら観覧していました。参加した高校生からは「すごく楽しかったです」、「来年もぜひ出たいです」という声をいただき、スタッフ一同大変嬉しく感じます。エコノミクス甲子園を通して、長野県の未来を担う高校生を今後も支援して参りたいと思います。参加いただいた高校生の皆さま、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。引き続きよろしくお願いいたします。

長野大会代表 長野県松本深志高等学校 1年
西村 結人

エコノミクス甲子園に長野県代表として参加致しました、西村というものです。

私は元々、経済や金融といったことに関心が薄く、この大会にも出るつもりはなかったのですが、かくかくしかじかという経緯があり、出場することになりました。

参加者の多くは学業で優秀な成績を取っていたり日頃から金融・経済に興味があったりして、どちらも持ち合わせて





ない僕がそうした人たちに勝つには僕なりの戦い方で工夫しなければいけないと考えました。

僕は普段はクイズ研究会で日々競技クイズの腕を磨いています。クイズには経済や金融に関わる問題もある程度出題されるので、(大会の方から配布されたテキストの勉強に加えて)それらの知識を活かしていくことが大切だと思っていました。

地方大会で優勝できたのは僥倖だと思っています。昨年度の大会で全国大会へ勝ち進んだ先輩方が最大の敵となりましたが、最後の問題で私たちしか正解できず、そこで逆転し、優勝できました。色々な方から驚きを持って祝福されましたが、一番驚いていたのは私たちだったと思います。

本戦は東京で行われました。私たちは2Rで脱落してしまいました。知識不足を感じさせられた場面もありましたが、たとえ全問正解だったとしても負けていたので、運が悪かったとしか言いようがありません。楽しい大会でした。

当初は、この大会への出場はこれきりにして、あとはクイズに専念しようと考えていましたが、終わってみれば想像以上に充実感があり、また来年も参加してみてもいいかなと考えている最中です。

長野大会代表 長野県松本深志高等学校 1年

藤森 実莉

エコノミクス甲子園には、クイズ研究会の同期が出たいと言っていて、地方大会の申し込み最終日に滑り込みでエントリーしました。そのため、まさか自分たちが地方大会で優勝し、全国大会に行けるとは思っていなかったので、とてもうれしかったです。期末考査と全国大会の開催時期が重なっていたため、大会に向けた準備とテスト勉強を両立させることが難しかったです。

全国大会では、ペーパーテストであまり点数が取れず、勉強不足を痛感しました。あと時事問題に正解できなかったため、ちゃんと調べておくべきだと思いました。本番の第一ラウンドでは、分かっている問題も高得点を狙おうとすると他のチームに解答権を取られてしまい、もどかしい思いをしましたが、最後まで粘った結果、90ポイントという高得点を取れたので良かったです。準決勝では最初に誤答してからルーレットによる決定で解答権が回ってこず、巻き返すチャンスがなかったため、悔しかったです。

相方には何度も助けられた場面があったので、とても感謝しています。初出場で、準決勝まで駒を進めることができ

たので良かったです。

授業で公共の科目をまだ習っていなかったため、金融経済について学ぶのは新しい単語だらけで大変でしたが、何も知らなかった時に比べて金融に対する様々な事柄、例えば「投資する」ことに対しての見方が変わったので、とても良い機会だったと思います。エコノミクス甲子園がなかったら、このジャンルについて勉強する機会もなかったと思いますし、絶対に将来役に立つことだと思うので、出場して良かったです。来年も出場して優勝を目指したいと思います。

最後に関係者の皆様、このような機会を作っていただき、本当にありがとうございました。





岐阜大会 12月11日(日)開催

十六銀行

優勝チーム 鶯谷高等学校
(初出場)
[$x^2+y^2=r^2$]
徳田 有花・横井 裕多



主催 十六銀行

参加校一覧

鶯谷高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立岐山高等学校、岐阜県立大垣北高等学校、岐阜東高等学校、多治見西高等学校

申込みチーム数 12チーム (6校)

運営スタッフ感想

本年は6校12チームにご参加いただきました。

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症によって、友人たちとの思い出を作る機会が減少した高校生の皆さまに、本大会で早押しクイズにチャレンジするという珍しい経験や、チームメイトと戦略を考え、勝負を勝ち抜く貴重な体験などを通して、かけがえのない思い出を作っていただきたいとの思いから、「集合形式」での開催を決断いたしました。

難問が続き、全チームが苦戦した決勝ラウンドで、見事最終問題にて逆転し、全国大会への切符を手にしたのは、鶯谷高等学校1年生の「 $x^2+y^2=r^2$ (まる)」チームでした。参加者からは、「普段あまり気に留めることのない経済についての知識を深められるいい機会となった」「戦略を考える必要のあるルールで面白かった」等の感想が多く寄せられ、スタッフ一同大変嬉しく感じております。

最後になりましたが、岐阜大会開催にあたりご支援賜りました金融知力普及協会の皆さま、ご後援を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

岐阜大会代表 鶯谷高等学校 1年

徳田 有花

まずは地方大会から、全国大会まで支えてくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。皆様のおかげで、充実した、最高の大会を経験できました。

地方大会に参加すると決めたときは、正直、経済や金融に関して興味は無く、部活の活動の一環として「とりあえず出てみるかあ」というくらいの心持ちでした。しかし、勉強を重ねていくうちに、お金の回り方、投資の仕方、保険





の仕組みなど、直接的に自分に関わることでありながらも、学校では教えてくれないことをたくさん知ることができ、面白さを感じたのを今でも覚えています。

全国大会では、参加者のレベルの高さに終始圧倒されました。自分のようにただ知っているだけで無く、知識を自分の物にしている、その勉強量と、興味を持って深めている姿勢に感動しました。そして、何より素晴らしい友達がたくさん出来たことがうれしかったです。オフラインで多くの人に出会い、経済の話だけでなく、学校の話、クイズの話、将来の話など、住んでいる環境から違う人と話すことができ、とても楽しかったです。同じ目標をもつ友達にも出会え、今でも学習のモチベーションになっています。また、もちろん自分自身の成長も感じました。経済に全く興味が無かった私が、今では、ニュースで聞いた経済の用語を自分で調べたり、投資家の人の本を読んだり、景気の動向を見たりするようになるまで、経済や金融を身近な物として捉えています。今このように学んでいることは、今後の自分の人生において必ず役立つ知識だと思います。最後に、このような一生の思い出になる大会を開催して下さったスタッフの皆様、本当にありがとうございました！来年もよろしくお祈りします！

岐阜大会代表 鶯谷高等学校 1年

横井 裕多

私は中等部の頃から「エコノミクス甲子園」という大会があるという事を聞いていて、先輩方が岐阜大会に出場する姿を見て「自分も高校生になったら出場してみたい！」と思うようになりました。こうして高校生になって、高校から鶯谷に入ってきた相方に声をかけて、臨んだ岐阜大会、たまたま本番の直前に読んでいたところが優勝を決める最終問題に出て岐阜大会を優勝することができました。鶯谷高校が全国大会に出場するのは初めてで、一つ上のステージで戦えることにわくわくしました。

しかし、全国大会はそう甘くはありませんでした。グループディスカッションラウンドでは相方が英語の分科会で発表者をしている中で、人と話すのが苦手な自分は話し合いの流れに飲まれて何もできず、完全に不意打ちの筆記テストで心が揺らいでいたこともあって、かなり激しい自己嫌悪に陥ってしまいました。でも、相方のことを考えるとこうしてはられないと奮起して本戦を迎えました。第1ラウンドは正解できませんでしたが、第2ラウンドでは1問目で抜けて相方に託すことができました。予選順位 28 位だ

ったので第3ラウンドには勝ち残れませんでした。意地を見せたいと思いながら敗者復活ラウンドの舞台に向かいました。張り詰めた空気の中、早押しで押し勝つことができ、クイズの面白さを感じました。今思えば、あの早押しはこれまでの人生で最高の早押しだったと思います。

全国 28 位という数字を見て、あと 2 年あれば全国制覇も夢ではないなと感じました。この全国大会に出場した経験を中等部も含め後輩たちにも伝えていきたいと思います。もちろん、私は来年もエコノミクス甲子園の全国大会の舞台は狙っていきたいと思っています。まだまだ後輩たちに負ける気はありません！

最後に、自分の弱さを見つめ直し、未来に生きる経験をくださった金融知力普及協会の方々、大学生ボランティアの方々、本当にありがとうございました！





静岡大会

12月18日(日)開催



静岡銀行

優勝チーム 静岡県立沼津東高等学校

(初出場)

「野球芸人」

森下 裕太・佐藤 瞭



主催 静岡銀行

参加校一覧

静岡雙葉高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡県立清水東高等学校、静岡県立沼津東高等学校、静岡県立沼津商業高等学校、静岡県立小山高等学校、静岡県立伊東高等学校、静岡県富士見高等学校、静岡北高等学校、藤枝明誠高等学校、知徳高等学校、浜松学芸高等学校、沼津市立沼津高等学校

申込みチーム数 32 チーム (13 校)

運営スタッフ感想

12 回目を迎えた静岡大会には、32 チーム 64 名の高校生がエントリーしてくれました。

オンライン開催となり、高校生の皆さんと直接ふれ合うことができなかったのは残念でしたが、オンラインだからこそ、自宅や学校などからリラックスして参加してもらえたのではないかと感じています。

2月の全国大会には、地方大会を勝ち抜いたチームが集まり、熱い戦いが繰り広げられることでしょう。沼津東高校の「野球芸人チーム」には、静岡県代表というプライドを持って、全国の仲間とともに楽しみながらがんばってほしいと思います。静岡大会をともに戦った高校生の皆さんといっしょに応援しています。

がんばれ野球芸人！

静岡大会代表 静岡県立沼津東高等学校 2年

森下 裕太

教室の後ろに貼ってあった一枚のポスター。「エコノミクス甲子園」の名前は普段クイズをしている僕は知っていた。金融の知識には、人よりも自信があったのでクイズの仲間を誘って参加しようと思った。

送られてきた事前学習教材。知っている知識もあったがそれ以上に知らないことの連続だった。なんとか隙間時間を見つけては資料を読み込んで知識を増やした。そして静岡予選を勝ち抜き、全国の舞台に進むことができた。

全国大会では、前日ラウンドから抜き打ちのペーパーや突然始まるポイント運用ゲームなど、驚きの連続であった。中でも GDR では、全国各地の高校生と交流することができ、自分の発想だけでは絶対にでてこないような話も多くあり、おおいに刺激を受けた。そして発表では、僕らのチームは全ての回で 2 位以内に入っていたのも嬉しく、かなり自信になった。また、前日ラウンドは 2 人とも絶好調だったのが、本戦での躍進にも繋がり嬉しかった。

本戦の午前中はあまり調子が良くなかったが、前日ラウンドと合わせた予選順位はまさかの 6 位で、2 人とも大喜びであった。そして迎えた第 3 ラウンド。多答クイズは 2 人とも得意としている分野だったので、お互いの知識を補完しあい、話し合いながら進められたので正直一番楽しかったラウンドでもある。ルールの特性上、僕らは全問正解したがポイントを沢山稼ぐことができずここで敗退となったが、悔しさと同時にやりきったという達成感もあった。敗者復活は爪痕を残せなかったが、とても楽しくクイズができたと思う。

今回の全国大会では、クイズのために多くの知識を身につけたということよりも、オフラインで全国のライバルと会



うことができ、協力することができたというのが一番の財産であったと思う。運営の大学生をはじめとしたスタッフのみなさん、対戦相手のみなさん、本当にありがとうございました。

静岡大会代表 静岡県立沼津東高等学校 2年
佐藤 瞭

「金融経済」という分野は、理系の自分にとってはあまりなじみのないものでした。しかし、今勉強して損は絶対はないと思って参加しました。投資についてのことや、経済学については、今まで知らなただけで勉強してみるとかなり興味を持つことができました。

全国大会では、全国から集まった博識な高校生たちと話しているだけで楽しい時間でした。クイズが強く全国大会に出場した人と金融経済に詳しく出場した人の両タイプがいて、特に後者はあまり関わる機会がないので、とても貴重な経験だったと思います。東京に泊まり込む、と聞いたことは家に帰りたと思っていたのですが、今考えると絶対に集団生活をする必要があったと思います。非常に楽しく貴重な体験でした。

大会は、2日目のグループディスカッションラウンドで好成績を納めることができ、かなり楽に予選を戦うことができました。日ごろから社会の出来事を注意して見ていた成果だと思っています。また、3日目に行った4択のクイズでは、大会前に勉強して印象に残っていた部分がそのまま出て、非常にうれしかったです。

大会期間と学年末テストが重なっていたこともあり、そんなに好成績が取れるとは思っていなかったのですが、予選6位という結果で準決勝に進出したときは非常に驚きました。準決勝では運が悪く全問正解したのに決勝に進むことはできませんでしたが、悔いのない戦いだったと思います。

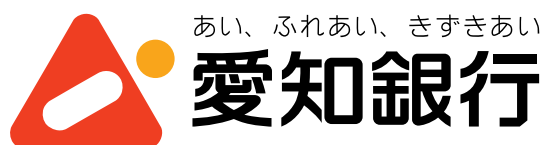
金融経済について勉強したことと全国の仲間と交流し共に戦ったこと、その両方を今後の人生に生かしていきたいです。





愛知大会

12月18日(日)開催



優勝チーム 愛知県立岡崎高等学校
(初出場)
「せんよろ」
清水 忠勝・三浦 舜真



主催 愛知銀行

参加校一覧

聖霊高等学校、東海高等学校、愛知県立愛知総合工科高等学校、愛知県立岡崎高等学校、愛知県立一宮高等学校、愛知啓成高等学校、名古屋高等学校

申込みチーム数 8チーム(7校)

運営スタッフ感想

愛知大会は3回目のオンライン開催となりました。当日は接戦で、どのチームも事前によく勉強されたことがうかがえました。参加された高校生の皆さま、本当にお疲れさまでした。この大会に向けて身に付けた知識、そしてご友人と切磋琢磨し努力された経験はこの先の人生で必ず生きてくると思います。そして、見事優勝した愛知県立岡崎高等学校「せんよろ」チームのお二人、おめでとうございます！全国大会では実力を存分に発揮していただきたいと思います。愛知銀行は今後も金融教育活動に注力してまいります。次回のエコノミクス甲子園愛知大会にも、多くの高校生の皆さまにご参加いただければと思います。



愛知大会代表 愛知県立岡崎高等学校 1年 清水 忠勝

僕は中学2年生ごろからあるドラマ(小説)をきっかけに経済や金融というものに興味を持ち、新聞を読んだり図書館で本を借りたりして知識を漁っていた。そんな中姉がこのエコノミクス甲子園の県予選に出場し結果は予選敗退だったが、自分も高校生になったら出場したいと興味を持った。これが僕がエコノミクス甲子園に出場しようと思ったきっかけだ。

12月に行われた一斉オンライン予選では早押しの一四択だった。焦りすぎてミスをしてしまったがペアと協力し合い乗り越えた。ただ予選突破は無理そうと思っていたため、結果発表の際「岡崎高校」の名前が呼ばれた時はとてもうれしかった。

東京での本戦は簡潔に言ってとても楽しかった。全国から予選を勝ち抜いたペアが集まって3日間ともに過ごした。全国大会と言ってもそんなにバチバチしているわけではなく、食事やイベント、お風呂などを通じて仲良くなることのできた。全国各地から集まった高校生と話すことで、今まで自分がいたコミュニティの狭さを痛感するとともに、日本の広さを感じ刺激を受けた。

事前に何をやるかは詳しく説明されておらずいきなり始まる筆記試験など驚きの連続だった。1番エキサイティングだったのはGDRで得たポイントをお金に換算しそれを株で運用するポイントトレーダーだ。「今が底だ。」「もう損切りすべきだ」とペアの子と言いつつ取引し、株取引の面白さを知るとともに、怖さも感じた。僕たちはポイントトレーダーで好成績を収めたこともあり予選7位で次に進むことができた。準決勝では1位タイとなったが予選結果で負けていたため敗退となってしまった。悔しい気持ちもあった



が何より楽しく充実した3日間だった。

愛知大会代表 愛知県立岡崎高等学校 1年

三浦 舜真

私がエコノミクス甲子園に参加したのは、友人の誘いからでした。はじめは全国大会に出場するなんて私は思ってもおらず、軽い気持ちで参加したのですが、その友人が大活躍で、全国大会に出場することになりました。

決まった当初は地方大会で全くと言っていいほど活躍できなかったのですが、私自身は出場を辞退しようかと考えていましたが、今振り返れば、出場して良かったなと感じています。そう考えた理由の一つは、なかなか聞けない貴重な話を聞いたことです。大会初日には TKO の木本さんの講演がありました。金銭トラブルの当事者からのお話はすごく身に染みまし、自分が同じ目に遭わないように気をつけなければと改めて感じる機会になりました。また、2日目にはグループディスカッションラウンドがあり、そこでも実際に経済に関する仕事をされている方のお話を聞くことができ、自分の将来についても考える良いきっかけになりました。

大会に出て良かったと考える理由の二つ目は、経済について楽しく学ぶことができるということです。大会に出るまでの過程でもたくさんを知れたし、大会当日の問題を見て、初めて知ったこともあり、クイズを楽しみながら経済について知ることができたと感じています。

そして何より、この大会を通してたくさんの高校生と関わったことが一番の思い出です。食事の間に話したり、エコノミクス大会で盛り上がり、クイズでの健闘をたたえあったりしたことは、今もとても印象に残っています。

この大会に出場して良かったなと感じているし、次回も出場して、今度こそ優勝できればとも思っています。





三重大会 12月18日(日)開催

百五銀行 FRONTIER BANKING

優勝チーム 高田高等学校
(2年連続2回目)
「チーム専修寺V」
佐藤 大起・谷村 陸斗



主催 百五銀行

参加校一覧

高田高等学校、暁高等学校、三重県立津高等学校、三重県立津西高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立四日市高等学校、三重県立伊勢高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校

申込みチーム数 17チーム (8校)

運営スタッフ感想

今年もオンラインでの開催となりましたが、各チーム優勝を目指して真剣な戦いが繰り広げられたと思います。

結果は、昨年優勝した高田高等学校が2連覇を果たしましたが、最後までどのチームが優勝するのか分からない、接戦でした。

見事優勝された「チーム専修寺V」のお二人には、三重県代表チーム初となる全国大会制覇を目指して頑張ってくださいと思います。応援しています！

三重大会代表 高田高等学校 2年
佐藤 大起 (2年連続出場)

なぜ今年もエコノミクス甲子園に出場をしたのか？その答えは単純であったと思う。それは、昨年の自分を超えたいということであった。結局のところその想いは果たされたのかと考えてみると、自分の中では果たされた結論付けることができる。

エコノミクス甲子園の出場を通して、自分が変わったことがある。それは経済分野について自然と興味を持てるようになったことだ。正直、過去の自分はニュースや新聞を見ても、知らない単語が多々存在し完全に理解をすることはできていなかった。だが、エコノミクス甲子園のために証券会社の用語集などを見ているうちに知識が連関していき、過去自分が解らなかったこともその事柄のもたらす影響をも含めて深く思考できるようになっていった。人間とは恐ろしいもので解らなかったことが解るようになると興味が湧いてきた。今、私は2年前は暗号文書のような日経新聞を毎日かかさず読んでいた。これはエコノミクス甲子園に出場をする以前の私からは想像もできなかったこと





だ。

他にも私が得られたものが沢山あった。事前ラウンドでの貴重な講演を通して学ばせていただいた考え方。新たに得た沢山の友人。県代表として大舞台上で戦えたという自信と誇りによってなど挙げだしたらキリがない。そのいずれも去年の経験を活かして積極的に吸収することができたと思う。本当に多くのことをこの2年間のエコノミクス甲子園を通して学び、得ることができた。

最初の問いに戻るが、私はすべてにおいて去年よりも良かったと心から思える17回大会であった。この貴重な経験を必ず自らの未来の大きな糧としなければならないと思う。

末筆ではあるが、このような貴重な経験を与えてくださった金融知力普及協会様、百五銀行様、スポンサーの皆様、そしてボランティアスタッフの皆様に厚くお礼を申し上げます。

三重大会代表 高田高等学校 2年

谷村 陸斗

私は初めて当大会に参加させていただき、多くの経験と共に私自身が想像していた以上の学びがあったことに私が誰よりも驚いています。このような機会を下さった運営機関の皆様とパートナーの佐藤君、そして出会えた各都道府県の代表の方々に心から感謝の気持ちを込めてこの大会を振り返りたいと思います。

私は学生同士で2泊3日もの旅にでかけるというような経験はこれまで一度もなく、今回の旅はまずパートナーの佐藤君と旅程を相談する上で多くの議論をする機会を得ることができました。私たちはお互いに大変強い個性がある者同士であり、それぞれの主張が強いため、何時の新幹線に乗り、集合時間までにどのように過ごすのかという事柄も真剣に何日も話し合いをしました。共同で1つのことを決めるために必要な「聞く力」「寄り添う心」そして相手に丁寧に忍耐強く伝える「コミュニケーション能力」を実際に関わる中で身につけていったように感じています。時には自分が折り合いをつけるために妥協すること、決めたことに納得すること、感情をひきずらず切り替えることの重要性について考えさせられました。普段は学業に追われ、友人との交流はSNSを通じてが主流となる中、全国大会に参加するためにパートナーと真の協力を図ることができたと思負っています。

また大会に参加させていただき、全国各地からの参加者との出会いは私の財産となるでしょう。私と似たライフプラ

ンミッションを持つ仲間に出会い、意見交換し、連絡先を交換したことで現在も繋がりがつづけていることができるこの時代に生きていることを感謝したいです。今回の大会は知識を問う大会ではなく、仲間との対話の中で自分の専門性や人間力が問われているように感じました。私はグローバルな視点で、語学力を巧みに使いチームに貢献することができた一方、自分の実力と経験値に物足りなさを感じました。その悔しさがバネとなり、現在、知識を学ぶことと同時に、知識を駆使して実体験を丁寧に重ね、運用力を重視する姿勢、謙虚さを身に着けることができたのはこの大会に参加できたからこそです。

私は高校2年生ですので、来年も必ずこの大会に挑戦し、今年は成し遂げられなかった悔しさをさらなる専門性を高める原動力にしたいです。「経済」をテーマに高校生同士で交流できる機会をこれからも追及していきたいです。





滋賀大会

12月18日(日)開催



優勝チーム 滋賀県立守山高等学校
(3年ぶり3回目)
「うさぎとかに」
前田 明日香・三宅 陽由



主催 関西みらい銀行

参加校一覧

滋賀県立守山高等学校

申込みチーム数 1チーム (1校)



滋賀大会代表 滋賀県立守山高等学校 1年
前田 明日香

エコノミクス甲子園に出場したことはとても貴重な体験となりました。この大会があると聞いたときに、面白そう！ということ、難しそう！ということの二つことが頭に浮かびました。経済と聞くととても難しい社会の動きを想像していましたが、教材が届き、中身を見てみると経済は意外と私たちの生活に深く関わっているということを知り、驚きました。エコノミクスの勉強をしていると、契約や税金などの身近なものも経済の一つであるという、今までは実感しなかったことを実感し、経済について考えるきっかけができ、自分の視野が広がったと感じています。

この3日間では、投資のトラブル、相方との協力、初対面の方々とのディスカッション、ステージ上でクイズを通して自分達の勉強の成果の発揮など、経済だけでなく、自分の人生の視野が広がった充実した3日間を送ることができ、とても楽しかったです。

出場を通じて、私はエコノミクスについての知識を深め、興味をもつことができました。

何かについて考えるときも、この大会を通じて手に入れた経済からの視点をもつことによる幅広い考察ができるようにもなりました。将来、私はこの経験から知識や考え方を活かし、経済を含めた様々な方面から現代の問題などの解決を手助けできるような人になりたいと考えるようになりました。この大会があるとということを知った時は経済には全く興味がなく、経済は自分と疎遠であっても構わないようなものだと考えていましたが、この大会では経済をはじめ、多方面から様々なことについて考えるきっかけができました。

私はこの大会は高校生のためにたくさんの方々情熱を注



いくださっているということを知り、相方、家族、大会に関わっている方々への感謝をしています。本当にありがとうございました。これからの人生においても、この貴重な経験を活かしたいと思います。

滋賀大会代表 滋賀県立守山高等学校 1年

三宅 陽由

エコノミクス甲子園では、とても貴重な経験ができ、本当に参加してよかったとおもっています。

全国大会では、レベルの高い高校生たちに刺激を受けました。特に前日のラウンドでは、グループで話し合ったり、エコノミクスで対戦したりと他校の方々と交流できる機会が多くあり、とても楽しむことができました。本番のクイズでは、初めての大きなクイズ大会、初めての早押しボタンに胸が躍りました。しかし、なかなか答えることができず、勉強不足を痛感しました。観客席から準決勝、決勝を見て、クイズに答える姿にとっても憧れました。来年も全国大会に出場し、勝ち進めるよう、金融・経済について深く知ろうと思いました。私は経済に興味はありましたが、難しいイメージがあり、また、今でなくてもよいという考えから知ろうとしませんでした。けれども、大会を通して、難しいよりも面白いイメージに、そして、すぐに使うことになる知識だと感じました。エコノミクス甲子園は金融・経済の面白さ、大切さを知るきっかけとなりました。

最後になりましたが、今大会に関わったみなさま、出場に際して支えてくださった家族や先生方、相方、本当にありがとうございました。





京都大会 12月18日(日)開催

京都銀行

優勝チーム 京都府立洛北高等学校
(2年ぶり6回目)
「らくほっくん2」
武藤 優介・磯江 源太郎



主催 京都銀行

参加校一覧

花園高等学校、京都府立鳥羽高等学校、京都府立洛北高等学校、京都市立日吉ヶ丘高等学校、京都市立塔南高等学校、京都共栄学園高等学校

申込みチーム数 15チーム (6校)



京都大会代表 京都府立洛北高等学校 2年 武藤 優介

今回のエコノミクス甲子園全国大会への出場までいわゆる「全国」の舞台に臨んだことのなかった私にとって、今大会への出場はわくわくするものであると同時に緊張と不安を覚えるものでした。きっととんでもない猛者の集う場なのだろう、私のような者は場違いではないのか。そんな不安が私を捉えて離しませんでした。

小学生の頃から今に至るまで社会科が好きで、成績も抜きん出ていた自負があります。新聞にも毎日欠かさず目を通し、今起こっていることを貪欲に知ろうとし続けてきました。しかし、社会を変動させる大きなファクターである経済については、学校の授業で習った理論を一通り押さえているだけでした。だからこそエコノミクス甲子園に挑戦して、経済の理論とその実際について学ぼうと決意しました。昨年度は京都府予選で敗退しましたが、今年は雪辱を果たすべく臨んで無事京都大会にて優勝を勝ち取りました。しかし、全国大会に出場するせっかくの機会を手にしたが、その後の学習やチーム・メイトとの打ち合わせは明らかに不足していたと思います。大会当日も相手の体調が芳しくなかったこともあり極めて不本意な結果に終わり、関係した方々に本当に申し訳ない気持ちに襲われました。前述の勉強不足に加え、エコノミカスの拙いプレイや、話し合いの場において他の人の話について考えてばかりで自分の意見を積極的に発信できなかったことを悔やんでいます。しかし、それでも、予選の教材と全国大会に向けて提供いただいた資料はこれから社会に出るにあたって必要となる情報の詰まったものであり、これからも積極的に活用しようと思います。また、全国大会の場にて多くの方々を知り合うことができたことも他の場では得難い貴重な経験でした。



これらを糧にして、より一層複雑化していくであろう経済や社会にコミットする立場に立てるようになりたいと思います。

京都大会代表 京都府立洛北高等学校 2年

磯江 源太郎

京都に帰った今では全国大会をもっと楽しめば良かったという後悔があります。

喜びの地方大会。僕たちのグループは前年度は準優勝だったので、今年こそは優勝するという思いで参加しました。通信のトラブルなどを乗り越えて優勝できたのは本当に幸運なことで嬉しかったです。ここで気を引き締めていたら、なんて今更考えても詮のないことですが。

悲しみの全国大会。結果は悲惨でした。反省点として、勉強不足・相方とのコミュニケーション不足が挙げられます。特にエコノミクス甲子園に即した一問一答形式のクイズの対策が不十分でした。経済の理論面の学習に時間を割きすぎる傾向があったように感じます。それでも、全国大会の対策をする中で普段関わらない経済に触れる機会を増やせたことは良かったです。私は進路について明確な答えを出せていないので、経済学を学ぶという選択肢を得られたのは大きな財産になると思います。

全国大会で最も印象に残っているのはGDRです。与えられた議題に対して豊富なアイデアを出し、議論の状況に応じた発言をする参加者のレベルの高さに驚きました。また、ある参加者が、グループのプレゼンターが発表しやすいような雰囲気を作ろうと努力していて、その視野の広さは私に足りていないものだと感じました。

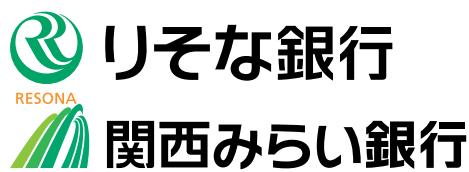
最後に、多くの刺激を与えてくれたエコノミクス甲子園には非常に感謝しています。本当に素晴らしい大会です。多くの卒業生がスタッフとしてエコノミクス甲子園に携わり続けていることからそう感じられます。もう少し採点をわかりやすくしてほしい、エコノミクス甲子園のさらなる発展を願ってひとつだけこの要望を書きます。

3日間ありがとうございました。





大阪大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 大阪星光学院高等学校

(4年ぶり6回目)

「前途多難」

小林 敦彦・前田 康正



主催 リそな銀行 / 関西みらい銀行

参加校一覧

関西学院千里国際高等部、関西大学第一高等学校、興國高等学校、桃山学院高等学校、大阪星光学院高等学校、大阪府立天王寺高等学校

申込みチーム数 24チーム (6校)



大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 2年

小林 敦彦

「他の代表も学校の授業受けてから来るやろうから会場に着く頃は真ん中らへんやろなあ〜」とか思い、学校の授業を午後まで受けて新幹線に乗り東京の会場に到着。するとまさかのブービー賞。着いたのが遅かったため、TKO 木本さんの講演は当然終わっており、全体のオリエンテーションも既に済んでおり何とも言えないまま終わってしまった1日目。後ほど他の出場者に聞くと、公欠して来た学校も多く、自分達もそうしたら良かったかな... と思いました。

2日目、筆記ラウンドで予想してたインボイス制度についての問題が出たのにも関わらず、間違える大実態を犯す。グループディスカッションラウンドも面白かったが、これといった活躍が出来ずに終了。株式投資ラウンドは狙った株自体は3倍に跳ね上がったりが、攻めなさすぎて投資株式数が少なく思った程稼げずに終了。それでも最終20位くらいで終われたのは良かった。エコノミカ大会は1戦目に筑駒(後に5勝0敗の結果を残した人)に面白いくらいぼっこぼこにされたり、色んな都道府県の代表の人と話せてとても楽しかったです。(結果は2勝3敗とかいうビミョーな記録)

3日目、Round1ではCAO制度に惨敗。Round2ではOptとふたたび惨敗。「対策した問題あんま出んかったなあ」と黄昏れながら準決勝を見ているとノーベル経済学賞の問題などの予想した問題がたくさん出てきてさすがに笑ってしまった。決勝はすごすぎて衝撃でした。あんな難問どれだけ勉強したんだろうと感心するばかりでした。優勝した札幌開成が優勝インタビューで「分散投資しといて良かった」という言葉を述べた時、すごすぎて鳥肌が立ちました。ここまで述べた通りいいとこ無しで終わってしまった大会



でしたが、エコノミカ大会や各 Round の前後で色々な人と話せてとても楽しい大会でした。

主催の金融知力普及協会をはじめ、スポンサーのみなさん、各地方銀行のみなさん、スタッフのみなさん、他関係者のみなさん、このような素晴らしい舞台を用意して下さい本当にありがとうございました。

大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 2年
前田 康正

第 17 回エコノミクス甲子園に出場した 3 日間を振り返ろうと思います。予選（大阪大会）はオンラインで運も良く勝ち上がったように思います。

1 日目（金曜日）学校終了後すぐ新幹線で東京まで行きました。講演があったそうですが、都合がつかず参加できず残念でした。

2 日目（土曜日）筆記試験ではペアでテストを解き一枚の解答用紙を仕上げる事自体初めてで、解きにくかったです。その後、3つのグループに分かれた講義・ディスカッションについて、一つ目では、考え伝えるという会社のポリシーが僕のマスメディアに対する考えを変化させてくれました。また、企業理念の存在価値についても学びました。二つ目の英語講義では、思っていたよりも英語が聞き取れずショックでした。両講義を通して、新しいアイデアを即興に近い形でグループ内で形成していく過程で、新しい考えを知ることができ、楽しかったです。

午後からの株式投資ゲームでは学校の経済の授業で株を仮想で買う事はした事があったのですが、運用までするのは初めてでした。今振り返るとトヨタに投資してればよかったです。ゲーム性があり楽しかったのですが、10 年間は少し長く感じました。その後、エコノミカでは、出場者たちとの仲を深めることが出来ました。あと、細かいルールまで知れて面白かったです。

3 日目（日曜日）大会当日初めての早押しクイズで戦略性のみならず瞬間的に反応できる知識の定着が必要でありそれが上手くできなかったことが悔しかったです。

全国から集まっている人と話をすると色々思うことが多く自分の恵まれた環境に感謝することが出来ました。又、普段は意識することの少ない全国で勉強している人の姿が見られ、励みになりました。大会に携わってくれた方々、ありがとうございました。





兵庫大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 灘高等学校
(2年連続9回目)
「トリアゾール」
岩田 崇史・池田 高啓



主催 池田泉州銀行

参加校一覧

関西学院高等部、神戸女学院高等学部、甲陽学院高等学校、灘高等学校、東洋大学附属姫路高等学校、兵庫県立東灘高等学校、兵庫県立宝塚東高等学校、兵庫県立伊丹西高等学校、六甲学院高等学校

申込みチーム数 10チーム (9校)



兵庫大会代表 灘高等学校 2年 岩田 崇史 (2年連続出場)

私がエコノミクス甲子園の門を叩いたのはオンライン開催となった第16回大会のことでした。インターネット予選から全国大会への出場を決めて臨んだものの、結果は呆気なく1回戦敗退。他の参加者の知識のレベルに圧倒され、全く太刀打ちできず悔しい思いをしました。ただ同時に、来年も全国大会に出場したいという強い願いが湧き上がり、リベンジを誓いました。

そして今回、必死の思いで予選を勝ち抜け、たどり着いた全国大会。100人近くの参加者と何十人ものスタッフの熱気に接し、オフラインの全国大会に参加できたことの喜びを噛み締めました。

オンライン大会との1番の違いは合間の時間に他の参加者と他愛ない会話をできたことでしょうか。大会期間を通して友人はみるみる増えていきました。すれ違う度に「よっ!」と声を掛け合い、お風呂ではのぼせそうになるまで雑談を続けられる、そんな関係です。

そんな友人たちは、もちろん大会中は対戦相手であり、負けれない存在ではあるのですが、一種の仲間意識のようなものを共有できていたと思います。私たちが予選ラウンドで高得点を出したときは多くの人達に「凄かったね」「鳥肌たったわ」と声をかけてもらいました。1次ラウンドや2次ラウンド終了後はお互いの点数を聞き合い、次に駒を進めることができることを全員で祈り合っていました。決勝ラウンドの舞台上上がる前に自然と「みんなで写真を撮ろう!」と口に出すことができたこと、みんながそれに賛同してくれたこと、決勝の舞台を降りてから沢山の仲間が「お疲れ様」と声を掛けてくれたこと、これらのことがまさに今大会の「良さ」を象徴していると思います。



私には、第17回大会がオフラインで開催されたからこそ得られたものが多くあります。そして、オフライン開催だからこそ、この大会を作り上げてくださっているスタッフの方の数とご尽力に改めて気付くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。第17回エコノミクス甲子園、心から参加して良かったと思っています。皆様ありがとうございました！

兵庫大会代表 灘高等学校 2年

池田 高啓 (2年連続出場)

僕たちにとって2回目のエコ甲全国大会となった今回、オンライン開催になった去年とは打って変わって完全オフラインでの開催となり、とても充実した3日間を送ることが出来ました。ペアと2人、がらんとした教室でパソコンを見つめていた去年のことを思い出すと、今でも寂しくなります。やっぱりオフラインの熱気、臨場感はそれだけで素敵な思い出になりますね。少しずつコロナ前の景色を取り戻しつつある日々を噛み締めつつ、素晴らしい大会を作り上げて下さったスタッフの皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

さて、エコノミクス甲子園を通して感じたことは昨年から変わっていません。身の回りには、世の中を理解するための道具が溢れている、ということ、この2年間のエコノミクス甲子園から学ばせて頂いた気がします。

この1年も大きく情勢が動いた1年でした。去年のエコ甲の時期に始まったウクライナ侵攻は今でも続いており、止まらない物価上昇、急速な円安も起こっています。一見すると、様々な事象が複雑に絡み合ったように見えますし、実際そうだと思いますが、表面的な構造理解だけでなく、少し踏み込んだ構造理解だって僕らにはできます。

「知識を蓄える」ということは、世の中を見る僕たちの姿勢を変えてくれると思います。例えばエコノミクス甲子園で勝とうとして覚えた金融の事細かい単語なんて、普通に生きてて目にする機会はほとんどありませんが、その単語を覚えた経験、理解できた経験は、僕たちが何か新たなことを理解しようとする一歩を助けてくれている気がしてなりません。

僕はクイズプレイヤーではありませんが、知識を蓄えることの真髄は、そういった学びの姿勢を整え、複雑に絡み合った現代社会に立ち向かう勇気をみなぎらせることにあるのではないかと感じました。

最後になりましたが、この2年間、エコノミクス甲子園に

参加できて本当に楽しかったです！！
本当に本当にありがとうございました！！





奈良大会 12月18日(日)開催

NANTO 南都銀行

優勝チーム 西大和学園高等学校
(初出場)
「どすこい」
南浦 哲寿・四方 美妃



主催 南都銀行

参加校一覧

西大和学園高等学校、東大寺学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、帝塚山高等学校、奈良工業高等専門学校、奈良学園高等学校、奈良学園登美ヶ丘高等学校

申込みチーム数 9チーム(7校)



奈良大会代表 西大和学園高等学校 1年
南浦 哲寿

夏休みにツイッターを見ていると「第十七回エコノミクス甲子園開催、一位はニューヨークに行ける」というツイートを見つけて面白そうなクイズ大会があるなと最初は思った。自分は金融の知識が浅かったけど、これもいい人生経験になるだろうと思って出ようと思い、経済学部志望だと言っていた四方先輩を誘って出ることにした。最初送られてきた事前学習用教材の量の多さに絶望したけれど、一個ずつ読み進めていくうちに今まで全然知らなかった経済の知識を知ることができ、投資と一口にいても不動産投資や投資信託など様々な種類があることを知ったり、自分にとって将来必要な奨学金の仕組みも学べて普段の生活では学べない知識を得ることができて良かった。全国大会では三年ぶりのオフライン開催ということで普段なら出会えないような人と話をしたり、一緒に戦ったりするのが楽しく一瞬の夢のような感じでした。一年前までは全くわからなかった金融のニュースも、今はその仕組みや用語の意味を理解することができ、自分が目を向けることがなかった世界の金融の動向などにも注目していきたいと思いました。

自分は経済学部志望ではないけれど、これからの社会では自分の財産を防ぎ、増やしていくためにも必要だと思う金融の知識をこのエコノミクス甲子園に参加したことで得ることができいい経験をしたと思いました。

最後に一緒に参加してくれた先輩の四方さん、エコノミクス甲子園の運営の方々、本当にありがとうございました。



奈良大会代表 西大和学園高等学校 2年
四方 美妃

8月某日、「エコノミクス甲子園って知ってます?」とクイズ研究部の後輩から一件のLINEが届いた。これが私のエコノミクス甲子園に向けた半年間の始まりであった。

最も大変だったのは事前学習だ。地方大会で優勝してから、全国大会に向けて新たに3冊の事前学習用冊子が配布されたのだが、地方大会の際の資料よりも内容が圧倒的に難しくなっていた。特に金融システムや企業の業績評価指数などは、数え切れないほどの種類があり、何度も心が折れそうになった。しかし知識が身についていくにつれて、政府・日銀の金融政策などのニュースを見ると、今までは情報を字面通り受け取るだけだったのに対し、その政策の目的や制定理由まで考えられるようになった。さらにその政策に対して自分の意見も持てるようになり、学習の成果を実感した。

今年は2年振りに全国大会が実地開催され、全国の高校生と交流することができた。学校では経済の授業がないため、普段の生活で経済に関することを共有できる同世代は少ない。しかし全国大会の会場にいる人は全員、経済や金融に関心を持っている人である。全国大会の3日間では、その人たちと交流したり勝負したりすることのできる、とても刺激的な時間であった。

私は経済学部を志望しており、ミクロやマクロなどの経済分野はこれまでも個人的に学習していたのだが、金融分野についてこれまでも詳しく学習するのは、このエコノミクス甲子園が初めてだった。この度の金融学習は、自分が深く学びたい分野について改めて考えるきっかけにもなった。このような実りある半年間を過ごせたのは、ひとえにエコノミクス甲子園関係者の皆様の御陰です。本当にありがとうございました。

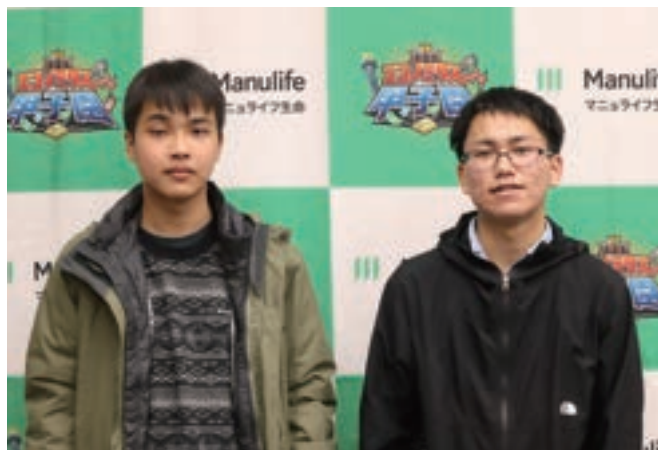




和歌山大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 智辯学園和歌山高等学校
(4年ぶり3回目)
「臥薪嘗胆」
秦 幸生・中西 康太郎



主催 紀陽銀行

参加校一覧

開智高等学校、近畿大学附属和歌山高等学校、智辯学園和歌山高等学校

申込みチーム数 6チーム (3校)



和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 3年
秦 幸生

私は、受験が一段落つき、受験生であるクラスメイトが勉学に勤しむ中、何か自分も打ち込めるものがないかと考え、中学生からの友人である中西康太郎とエコノミクス甲子園に参加することを決めました。合格発表を受けてエコノミクス甲子園に応募したため地方大会までそれほど長く勉強時間が取れたわけではありませんが、初めて学ぶ知識もたくさんあり、すごく濃密な学習をすることができました。地方大会優勝の知らせを聞いたときには嬉しさで中西とともに叫んだことを今でも明確に覚えています。それから、本腰を入れて金融知力普及協会様から届いた教材を勉強し始めました。地方大会のときに配布されたものと比べると格段にレベルが上っており、苦勞しましたが中西と協力しながら一つ一つの事柄に理解を深めていくことができましたように感じます。全国大会に出場したときは、国公立大学二次試験と同日程であるため高校3年生である僕たちと同学年の人が少なく、あまり他県のチームの方々とは仲良くなれなかったり、良い距離感がつかめなかったりするのではないかと心配していましたが、そのことは全くの杞憂でした。他県の厳しい選抜を勝ち抜いた良きライバルたちは、とてもフレンドリーで、3日間という全国大会の日程がまるで一瞬のように過ぎ去ってしまいました。この体験は私の人生にとってかけがえのないものになったように感じます。私は、学年的にこれが最初で最後の出場になります。このような素晴らしい大会に出場することができてとても嬉しかった反面、なぜ数年早くこの大会の存在に気づかなかったのかという後悔を少し感じています。もし、あなたがエコノミクス甲子園のことを知っていて、参加しようかどうか迷っているならば、今すぐに仲間を集めて参加するべき



であると思います。

和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 3年
中西 康太郎

僕がエコノミクス甲子園地方予選への参加を決めたのは親友で相方である秦幸生君の誘いがあったからです。お互い進路が決まって一段落ついていたし自分が政治経済系の学部に進むこともあって、勉強して知識を蓄えることが将来のためになると思い応募しました。地方予選まで残り2週間という限られた時間の中で、お互いが勉強する分野を決め一生懸命勉強した結果優勝することができて、とても嬉しかったです。全国大会にむけて時間が流れる中で金融知力普及協会様から全国大会用のレベルの高い教材や航空機のチケットが届いたときには本番への緊張感がより一層高まり、不安にもなりましたが相方との協力のもと無事本番を迎えることができました。3年生が出場している学校が少なく3日間他のチームの子達とうまくやっていけるか心配でしたが2日目のGDRといったプログラム等で各都道府県代表のチームの子とたくさん話す機会を持つことができたおかげでたくさん友達もでき、3日間明るく楽しく過ごすことができて本当によかったです。最初で最後のエコノミクス甲子園は15位と少々悔しい結果に終わってしまいましたが、3日間という短い期間の中で良きたくさんの思い出が作れたりたくさんの素晴らしい経験ができたことに心から感謝しています。次は大会ボランティアとして再びこのエコノミクス甲子園の場に戻って来たいとも考えています。

最後になりましたが金融知力普及協会様を筆頭にたくさんの大会関係者の方々、僕達高校生のためにこのような場を設けていただき本当にありがとうございました。ここで学んだことを近い将来、各分野で十分に発揮できるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

そしてこれを読んでいる後輩、エコノミクス甲子園は高校生の時には普通なら学ぶことができない金融経済や保険を勉強することができる、またとない機会だからみんなで参加しよう！





鳥取大会 12月18日(日)開催

山陰合同銀行

優勝チーム 鳥取県立米子東高等学校
(初出場)
「きび団子」
足立 成優・小坪 愛翔



主催 山陰合同銀行

参加校一覧

鳥取県立鳥取商業高等学校、鳥取県立米子東高等学校、鳥取県立倉吉総合産業高等学校、鳥取県立倉吉東高等学校、鳥取城北高等学校

申込みチーム数 9チーム (5校)

鳥取大会代表 鳥取県立米子東高等学校 2年 足立 成優

僕がエコノミクス甲子園を知ったきっかけは学校に貼ってあったポスターを相方が見つけて誘ってきてくれたことです。僕は大学で経済系の分野をやりたいと思っていたので丁度いいなと思い参加しました。しかし、僕は勉強を始めたとき、金融経済に対して少し苦手意識を持っていました。というのも金融経済は似たような単語や法律があり、なにせ漢字がとても多いことがハードルを高くしていました。しかし、放課後に相方と自習室で横並びになって事前学習教材をしっかりと勉強したことで、最初は辛かった経済の勉強も段々と楽しくなり、地方大会で優勝することができました。全国大会に向けては学年末テストの勉強をせず、黙々と経済の勉強をしました。迎えた全国大会では、他県の猛者たちに圧倒されながらも、少しでも成長して帰ろうという思いでのぞみました。結果はずっと練習していたエコノミクス大会で優勝し、本戦でも敗者復活で勉強してきた成果が出せたりと、満足の行く結果となりました。特に敗者復活では、早押しの経験は皆無でしたが、相棒やクラスメートに問題を出してもらったかいあってとても楽しく、クイズに興味を持ちました。このエコノミクス甲子園を通して良かったことは、①他県に友達ができただこと②金融経済の知識を楽しみながらつけられたこと③最高に楽しい経験ができたことです。本当に参加できてよかったです！誘ってくれた相棒、運営に携わって頂いた大学生スタッフや多くの大人の皆さん本当にありがとうございました！楽しかったです！





鳥取大会代表 鳥取県立米子東高等学校 2年

小坪 愛翔

今年度のエコノミクス甲子園は数年ぶりのオフラインでの開催だったので、金融経済の知識を競うだけでなく、他の都道府県代表の高校生とディスカッションなどをして交流もすることができたのでとても思い出に残るものになりました。この文章でこの3日間でしたこと、感じたことなどを振り返っていききたいと思います。

私達は金曜日の6時すぎに会場に到着しました。午前中に高校があったため東京観光ができなかったことに少し悔いが残っています。受付を済ませたあとは、TKOの本木さんによる投資についての講演でした。笑いを含めつつ自身が経験した投資トラブルについて講演してくださいました。面白おかしく話して下さったのでリラックスして聞くことができました。

土曜日はまず筆記テストがありました。知識問題だけでなく、計算問題もあったので難しかったです。しかし、ペアで協力して自分たちの力を出すことができました。筆記テストの次はディスカッションラウンドでした。午前は「いい会社をつくるためには」というテーマでディスカッションを行いました。また、午後は「差別化」についてディスカッションをしました。私は初対面の人と複数人でディスカッションをすることが苦手だったので、午前は上手く話せないことがありましたが、午後になるとその雰囲気になんだん慣れてきてディスカッションに積極的に参加することができました。ディスカッションラウンドの結果発表の直後に株式投資で自分たちのポイントを増やすというゲームをしました。株式投資の雰囲気と似たゲームで楽しむことができました。土曜日は夜ご飯を食べた後、エコノミカ大会がありました。相方が勝つためのポイントを考えていたので、それをもとにゲームを進めると予想外にも全勝することができました。その結果にはとても驚きました。

日曜日には本番のクイズ大会がありました。とてもこの日を楽しみにしていたため、朝からわくわくしていました。そのおかげか緊張をしていませんでした。午前中のラウンドではクイズをするということに慣れていなかったので上手く進めることができませんでした。しかし、午後の敗者復活ラウンドでは相方の力もあり、決勝にあと一歩のところまで行くことができました。敗者復活ラウンドの最後で負けてしまったけど、シンプルな早押しクイズの楽しさを感じることができました。もっとクイズをしたいというような気持ちにもなりました。また、エコノミクス甲子

園を通じて、金融経済の知識をもっとつけたいと思いました。特に、将来に活かせるような実用的な知識についてもっと深く知っていききたいと思います。

私がエコノミクス甲子園に参加して1番良かったことは講演を聞いたことやクイズをしたことではなく、全国各地の金融経済の知識を持った高校生や過去にエコノミクス甲子園に参加した大学生と会場で直接交流をすることができたということだと思います。先程述べたように私は初対面の人と話すことが得意ではありません。しかし、積極的に話しかけてくれるような方がたくさんいてくれたおかげで私はこの3日間を楽しむことができました。高校生の皆さん、大学生の皆さん本当にありがとうございました。





島根大会 12月18日(日)開催

山陰合同銀行

優勝チーム 島根県立矢上高等学校
(初出場)
「ハッピーカレー」
永倉 琉晟・岡 星次朗



主催 山陰合同銀行

参加校一覧

開星高等学校、松江工業高等専門学校、島根県立矢上高等学校

申込みチーム数 5チーム (3校)



島根大会代表 島根県立矢上高等学校 1年 永倉 琉晟

僕がエコノミクス甲子園に出場して感じたことは、この経験は将来にも役立つ大切な経験になるだろうということでした。

エコノミクス甲子園に先輩に誘われて、全国大会に出場することとなり、事前教材では学校の授業では本来習わないような金融に関する多くの知識を学びました。将来、社会を生きる上で必要不可欠になるお金の知識を高校生のうちから学ぶことで大きな差が出来たと思います。

エコノミクス甲子園の全国大会に出場が決定した時は嬉しく思った反面、とても緊張していました。しかし、全国各地から来た優秀な生徒さん達との交流を楽しんだり、ただのクイズ大会とは違い、多くのスタッフさんが様々なプログラムを用意してくださり、様々な方のご講演も聞くことができたりなど、楽しんで大会を過ごすことが出来ました。本戦のクイズ大会も面白いルールで戦いが繰り広げられ、駆け引きなどをする場面もあり、色々と頭を使って取り組むことも重要でした。そこがエコノミクス甲子園の特徴であり難しいところだなと感じました。

最終的な結果としては予選敗退してしまいましたが、大会に出場ただけでも多くのよい経験ができ、大会の中でも新たな知識を学べて、とてもよかったです。それと同時に自分の知識の足りなさも実感したので、大会が終わったこれからはさらに知識をつけていこうと決めました。

この大会を紹介して共に戦ってくださった先輩や、運営してくださった多くのスタッフさんにも、感謝します。本当にありがとうございました。



島根大会代表 島根県立矢上高等学校 2年

岡 星次郎

僕は高校一年生のとき、担任の先生からもらった職業一覧表を見て営業マンという職業に注目しました。営業マンは人と人とのコミュニケーションでお金を稼ぐというものでした。僕はコミュニケーション力が自分の利点だと思い僕に合う仕事はこれしかない、これがきっかけで経済のことについて調べてみようと思いました。しかし中々経済の勉強ができませんでした。何をしたら良いのかお悩んでいた時に、担任の先生に「エコノミクス甲子園」出てみたらといわれました。この時英検の勉強とかぶっていて出ようか悩みましたが、経済を学ぶチャンスはここしかないと思い出場を決めました。高校二年生の時でした。

地方大会は事前にもらった参考書をひたすら読んで見事優勝することができました。その時に経済ってこんなに面白いんだなと思いました。

そして次は全国大会に向けての勉強が始まります。地方大会のときとは比にならないほどの分厚い参考書が届きました。ペアの永倉と毎日のように経済のクイズを出したり、参考書へアンダーラインを引いたりと日々精進して毎日の勉強に励んでいました。

そして全国大会当日、今までしてきた事を出し切ろうと思い早押しボタンのボタンを押そうとしていましたが、全国の舞台でプレッシャーと緊張で思うような成績は出なかったです。全国大会に行くと周りとの知識の差や、コミュニケーション能力など自分よりさらに高い壁にぶつかりました。全国大会が終わった後、毎日経済の単語10個を覚えたり、授業で積極的に発言したりと全国大会の悔しさをバネに日々生活しています。

そして自分の将来の夢については、最初は営業マンになりたいと思っていたけれど、経済の知識を身に付けたことで様々な職業を知り、投資アドバイザーや保険会社など多くの職に興味を持ちました。将来自分は国立大学進学を目指しているので勉強はもちろん大切ですがこの大会で学んだことは今後必ず必須になっていくと思うので毎日経済の知識を取り入れていこうと思いました。この大会を開催していただき本当にありがとうございました。





岡山大会 12月18日(日)開催

中国銀行

優勝チーム 岡山県立岡山南高等学校
(初出場)
「文旦ガリ」
萩原 寧音・黒崎 美愛



主催 中国銀行

参加校一覧

清心女子高等学校、明誠学院高等学校、岡山高等学校、岡山県立岡山芳泉高等学校、岡山県立岡山東商業高等学校、岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山県立岡山南高等学校、岡山白陵高等学校

申込みチーム数 22 チーム (9 校)



岡山大会代表 岡山県立岡山南高等学校 3年 萩原 寧音

私はこの大会を通して社会を学ぶことができました。グループディスカッションやエコノミカ大会など二日間の活動は私にとって難しい内容でしたが、なかなか経験することができない貴重な時間になりました。

グループディスカッションでは出題された問いに対して参加者の皆さんが次々に自分の意見を端的に述べている姿に圧倒されて私は話の内容を理解するのが精一杯でしたし、会話に加わることさえ難しかったのですが、自分なりに気になったことは質問してみたり、少しでも自分の中にある考えを発言することはできました。もともとグループディスカッションのようなものは苦手だったので以前の自分ならこの場合諦めていたと思うけど、今回のグループディスカッションで諦めずに積極的に活動に参加して良かったなと思いました。

この大会に出場し、これからはもっと自分が得意な分野を伸ばしていこうという前向きな気持ちになりました。最後にこの素晴らしい機会を与えてくださった方々と相手には本当に感謝してます。ありがとうございました。

岡山大会代表 岡山県立岡山南高等学校 3年 黒崎 美愛

そもそも私が参加したきっかけは学校の授業の一環でした。商業高校である我が校は毎年授業のまとめとしてこの大会に参加しています。今年の大会で学校初の県代表になった私たちは先生方から沢山の期待をいただきました。

しかし、ひとつ問題があったのです。それは私たちは3年生だったことです。2人とも第一志望に合格し、あとは卒



業を待つのみとはいえ新生活に向けての準備が忙しく、なかなか勉強する時間が取れませんでした。というかひとつも勉強せずに大会の時が来てしまったのです。こんなことなら棄権して2位のチームに譲っておけば良かったと思う理性も日本中の高校生と話してみたいという欲の前には敵わなかったのです。

こうなったら大会で一緒になった子と話まくってやるぞと意気込んで行った東京。学校に登校する必要も無いので朝から新幹線に乗って行きました。そこで前から行きたかった明治神宮に行き、お土産を買い、みたらし団子を食べ、渋谷を満喫してからオリセンに行きました。最終日に結局ゆっくりお土産を買う時間が無かったので正解だったなあと思います。

最初のプログラムはTKOの木本さんのお話でした。芸人さんだけあってトーク力があり、面白くも為になる話を聞かせていただきました。その後、オリエンテーションがあったから解散になってしまい、他の学校の生徒さんとはあまり話すことが出来ませんでした。それが悲しくて脱衣所で隣になった子に話し掛けたら大学生スタッフの方でした。悲しくなりながら部屋に帰ると布団がとても薄くて凍えそうになりながら眠りました。布団の中で大会に来たことをかなり後悔しました。

2日目の朝。部屋の大窓から登る日を見ながら朝の支度を進めます。朝ご飯はオリセンでの食事でした。お味噌汁サーバーが楽しかったです。

いよいよ本番の点数に関わってくるグループディスカッションラウンド(GDR)…の前に抜き打ちの筆記テストが入りました。もちろん全く分かりません。72の法則の証明とか意味分かりません。誘導っぽい所もありましたがそもそも数IIを学習していないのでlogとか理解出来ません。半分ヤケクソで解きました。

その後GDRが2回に分けて始まりました。どちらも優秀な生徒さん達と議論が交わって有意義な活動が出来たと思います。私だけでは思いつかないような意見が出たり、ぐちゃぐちゃになった議論を纏める手腕だったり得られる物はとても多くありました。また、休憩時間にはそれぞれの県の話をしたりだとか求めている活動が出来てとても楽しい時間でした。

2回に分けて開催されたラウンドですが、途中で昼ごはん休憩がありました。そこで相方が連れてきた子ととても仲良くなり、その日の夜も部屋でお互いの事を話し合ったり岡山土産のきびだんごをあげてお供にしたりと盛り上がりました。

夜に行われたエコノミカ大会では2人とも全敗という酷い有様でしたが、皆さん優しくルールを教えてください、なんとかプレイする事は出来ました。東北の子が「布団が寒い」と言っていたので布団が薄いのは私だけじゃないんだと思い安心しました。その日はシーツにくるまって寝た方が暖かい事に気がついたので比較的快適に寝られました。

他の方が感想に書かれていると思いますがポイントトレードに関しては今思い出しても悔しさでうまく言葉に出来ないので省略させていただきます。

ついに迎えた3日目の本戦。みんな緊張していましたが、最初にも言った通り全く勉強出来ていないのでまあ最下位だろうと思いつながら参加したので緊張のきの字もありませんでした。銀行の方々の法被に個性があって面白いと思っていくらいです。第1R第2R共に最初のブロックだったので、他のブロックが見れず残念でした。後ろに広島代表の子達が居て、方言がとっても可愛かったので岡山との違いはなんだと悲しくなりました。多分県の差では無く私と彼女達の美意識の違いだったんだと思います。

第1R第2Rが終わり、昼休憩に入りました。配られたカツサンドがとても美味しかったです。同じように3年生で代表になっているチームと一緒にご飯を食べ、最後に更に楽しい時間が過ごせました。

その後、チーム毎に黒いワッペンが配られました。私たちのチームは【43】。多くのチームが「何だこれ？」と首を傾げている中、私はなんとなく順位だろうなあ…と思いつながら付けました。白い制服なので目立っていて少し恥ずかしかったです。次のラウンドについての説明があり、質疑応答でかなり鋭い事を聞いている人が居て感服しました。スタッフさんも上手いこと返して見てるだけで面白かったです。

最終ラウンドでは前の方の座席で金塊が積み上げられていく所、それが最後崩れる瞬間まで見ることが出来てとても楽しかったです。帰りの時間がギリギリになってしまい、あの感動を他の人と共有出来なかった事が悲しく思います。1ヶ月前経った今でもあの日が夢だったんじゃないかと思うほど非日常的な時間でした。来年からはスタッフとして参加出来るようになります。今度はあの問題を作る側に回れると思うと今からドキドキします。



広島大会 12月18日(日)開催

もみじ銀行

優勝チーム 広島県立広島高等学校
(3年連続3回目)
「りくてんご」
篠永 恭子・横山 環子



主催 もみじ銀行

参加校一覧

近畿大学附属広島高等学校 福山校、近畿大学附属広島高等学校 東広島校、福山暁の星女子高等学校、広島翔洋高等学校、広島県立祇園北高等学校、広島県立広島高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島県立広島叡智学園高等学校、広島市立広島商業高等学校、広島市立基町高等学校、広島女学院高等学校、広島大学附属高等学校、崇徳高等学校、修道高等学校、ノートルダム清心高等学校、AICJ 高等学校

申込みチーム数 38 チーム (16 校)



広島大会代表 広島県立広島高等学校 2年 篠永 恭子

相方からの誘いを受けて参加したエコノミクス甲子園。経済、金融に当時は興味を持っていたという訳もなく、「大人が関わるもの」という意識を持っていました。しかし、本大会の配布資料等から経済・金融を学んでいくうちに、私の身近にあることを実感しました。積極的に行っていたお金のやりとり、ニュースで聞く小難しい金融用語たち。私の知見が広がっていくにつれ、未知であった「キンユウ」や「ケイザイ」が色を持つようになったのです。社会の構造を少し知れた気がして、当該の分野の奥深さを知りました。

そんな0から始まった私の、私たちの対策勉強の成果を示そうと挑んだ地方大会。結果優勝することができ、ただただ嬉しかったです。そして、より多くの方のサポートを受け、臨んだ全国大会。工夫されたクイズ、イベントに翻弄されたけれど、何よりも嬉しかったです。良い結果を残せず悔しさもありますが、大会までの努力、大会での経験が財産となりました。





本大会を通して、私が出たものは知識だけではありません。エコノミクス甲子園によって生まれた、人との関わりが私にとって大きな利益です。一昨年、昨年と広島大会代表となり活躍された先輩からの支援、指導して下さった先生方。また普段は関わることのできない各県代表の高校生。大会期間中、緊張でガチガチだった私と話してくれた参加者みんなの存在があったから、全力で楽しむことができました。感謝でいっぱいです。そしてこのような機会を設けて下さった関係者の皆様、本当に有難うございました。最後に相方の横山さん。あなたのお陰で一生忘れられない思い出ができました。あなたの隣でエコノミクス甲子園に参加できて私は幸せでした。ありがとう。

広島大会代表 広島県立広島高等学校 2年
横山 環子

エコノミクス甲子園を通して、経済とは教材で覚えた知識だけではなく人と話し合いを重ねた共同作業によって成り立っていることを実感しました。出場前は先生や先輩方の力を借りながら勉強しました。経済を詳しく勉強したことがなかったため、学ぶこと全てが新鮮で、楽しみながら勉強をしていました。しかし、全国大会となると、知識だけではなく知識を使って話し合いをしなければなりません。全国のレベルの高さを実感し、刺激を受けたと同時に、共同作業の重要性を実感しました。

例えば、グループディスカッションラウンドでは、グループ全員が意見を出し合い、お互いの意見を関連させて他のグループと差別化できる良い提案をしようと議論が白熱しました。それぞれの個性のコンビネーションでまとまった案は、一人では作り上げられない最高の物だと思います。

また、普段話すことのない、違う地方の人と話すことができたのも新鮮で楽しかったことの一つです。エコノミクス大会や、本戦の舞台裏では、地方大会を勝ち抜いた精鋭たちと話す時間がありました。普段の学校生活で関わることのない高校生たちと会話でき、コミュニティを広げられたと思います。

この三日間で、様々な刺激を受けました。エコノミクス甲子園を通して、もっと自分の経済の知識を広げ、得た知識を活用できる人になりたいと思いました。このような素晴らしい機会を提供して下さった方々、及ばない多くの人に助けてくれた相方、本当に感謝しかありません。ありがとうございました。





山口大会

12月18日(日)開催



優勝チーム 山口県立岩国高等学校
(初出場)
「岩国高校」
江崎 光賀・佐藤 海都



主催 山口銀行

参加校一覧

聖光高等学校、慶進高等学校、徳山工業高等専門学校、山口県立萩商工高等学校、山口県立岩国高等学校、山口県立下関双葉高等学校、山口県立下関西高等学校、宇部フロンティア大学附属香川高等学校、下関市立下関商業高等学校

申込みチーム数 12チーム(9校)

運営スタッフ感想

ご参加いただいた高校生の皆さん、大変お疲れ様でした！昨年引き続きオンラインでの開催となりましたが、ペアで協力し回答を導きだす姿や最後の一問まで諦めずに回答する姿からモニター越しでも本大会にかけける熱量が伝わってきて、大変嬉しく思いました。

優勝された岩国高校チームのお二人、おめでとうございます！

幅広い分野から出題されるクイズに、迅速に正確に回答されていた姿から、事前教材の学習だけでなく、新聞やテレビ等でも知識を深められたのではないかと感じました。

また、惜しくも敗れてしまったチームの皆さんにとっても、本大会が思い出に残る大会となれば幸いです。ぜひ来年度もチャレンジいただけるのを楽しみにしております。

当行では今後も金融経済に興味を持っていただけるような金融教育を行って参ります。

山口大会代表 山口県立岩国高等学校 2年 江崎 光賀

私は昨年、初めてこの大会の存在を知った。クイズは未経験で、ましてや金融経済のことなどこれっぽっちもわからなかった。大会に応募してからしばらくして、本部から勉強用の教材が届いて驚いた。こういうのは自分で集めて勉強するものだと思っていたからだ。教材の内容はとてわかりやすく、テンポよく読み進めることができたが、とても専門的なことばかりで、学校の先生に聞きながら内容を掴んでいくことができた。この大会に出て1番良かったと思うのは、何より知識が身についたことだ。それまで未知なものに感じていた株や投資について知ることができ、もっと勉強してみようと興味が湧いた。地方大会から全国大会が終わるまでの約三ヶ月間で、私は前よりとても成長したと思う。また、全国大会では、他地方の優秀な人たちと話をする機会が多くあり、同じ話題で盛り上がることもできてとても楽しかった。全国からくる高校生たちからは、自分たちが住んでいるところ以外の話が聞けて、とてもためになったと思う。大会の本戦については、悔しい結果になったが、それ以上に、たくさんの方が学べて良かった。まだまだ知らないことがあるということに気付かされた。他のクイズ大会と違い、最後まで何が起ころかわからないような問題形式がすごく面白く、敗退が決定した後も楽しく見ることができた。もし来年もまた出る機会があればベンジしたい。そして、できることならいつの日かエコ甲の正式スタッフとして大会に関わっていきたいと思う。



山口大会代表 山口県立岩国高等学校 2年
佐藤 海都

あの全国大会が終わって早一週間。本大会で感じた貴重な経験や体験をこの感想文に記していきたいと思います。

まず私が「エコノミクス甲子園」に出場しようと思ったきっかけは、友人の江崎君が誘ってくれたことと、私が政治に興味があり政治と経済は密接にかかわっているこの機会を機に深く学びたいと思ったからです。

私は初めての出場だったので前回出場した江崎君にアドバイスをもらいつつ必死に勉強しました。来る地方大会、前日まで修学旅行に行っていた私は満身創痍でした。私は初めての早押しでしてとても苦手だということがわかりました。でも優勝して東京行きが決定してとてもうれしかったです。その後、新聞社の取材を受けたりして改めて本大会の大きさがわかりました。

全国大会出場が決まってから先生に質問したりして再び必死に勉強しました。私の学校は政治経済は3年生で習うので予習のつもりと思ってモチベーションをたもっていました。途中の模試では政治経済だけ異様に高かったりと楽しかったです。

そして迎えた一日目、TKO 木本さんの講義では自分をおごりすぎてはいけないなと思いました。

二日目、午前と午後で講演を聞き話し合いをする企画では全国のレベルの高さを思い知らされました。自分がいなくてもいいくらい勝手に話が進んでいき好成績を残すことができました。

最終日、私たちは敗退しましたがTVでクイズ番組を見ているようで面白かったです。

最後に私はこの大会に出場出来て本当に良かったです。誘ってくれた江崎君、後援して下さった山口銀行さん、ボランティアの皆さん本当にありがとうございました。





徳島大会 11月26日(土)開催

阿波銀行

優勝チーム 徳島県立徳島中央高等学校
(初出場)
「リベラルアーツ」
佐藤 秀星・日下 真魚



主催 阿波銀行

参加校一覧

徳島県立阿波高等学校、徳島県立徳島中央高等学校、徳島県立富岡東高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城ノ内高等学校、徳島市立高等学校

申込みチーム数 17 チーム (6 校)

運営スタッフ感想

3年ぶりのリアル開催で不慣れな点もありましたが、参加された高校生の皆さんが非常に楽しみながら、また相手チームの健闘を讃えながら、クイズ大会に臨まれている姿に感動しました。これからも、金融経済知力を高め、賢い消費者となってくれるよう応援していきたいと思えます。



徳島大会代表 徳島県立徳島中央高等学校 3年 佐藤 秀星

今回初めて全国大会に出場をさせていただきましたが、その中で様々なことを思うことができました。まず初日は銀行の方にお世話になり、東京のさまざまな場所に連れていただきました。レインボーブリッジを車で渡ったり、浅草のドジョウ鍋や夕飯に餃子をご馳走して頂いたりしてとても楽しい経験をさせていただきました。また、自分たちでも渋谷やアメ横そして秋葉原など有名スポットを回る事が出来て感激でした。その日の夜にはTKO 木本さんの貴重なお話を聞かせていただき、ナマの体験を知って自分にも活かしていける所があると感じました。2日目からはいよいよ本番が始まり現場で活躍するプロフェッショナルの方々から素晴らしい講演を聞いて自分の知らない世界にとっても興味がそそられました。3日目はなんとか予選を潜り抜けることが出来ましたが、やはり自分はまだまだ知らない事が多く、即敗退となりましたが、自分の出来るところまでは出来たのでは無いのかなと感じたので満足な結果だと思っています。





徳島大会代表 徳島県立徳島中央高等学校 3年

日下 真魚

二月二十六日。僕は東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにいた。

ふだん二つのアルバイトを掛け持ちしながら生活費を稼ぎ、空いた時間にレポートをこなし、日曜日にはスクーリングに出席している僕にとって、東京はまさに異空間だった。

隣には相方の佐藤秀星君がいた。佐藤君とはスクーリングの体育で一緒にバドミントンをしたことで顔見知りになった。その佐藤君から、秋に突然、「エコノミクス甲子園と一緒に出てもらえませんか」と頼まれた時にはびっくりした。

というより、「エコノミクス甲子園って何?」というのが率直な気持ちだった。それがどうして出場を承諾したのかというと、僕が人の頼みを基本的には断れない人間だからだ。そのせいなのか、アルバイトも店長から頼まれるとつい引き受けてしまい、スケジュール帳はバイトでいっぱいだ。

でも今度ばかりは、その性格が幸運を引き寄せたように思う。十一月に行われた徳島県予選。正直あまり準備することなく会場に向かった。会場にいたのは、地元の進学校と言われる高校の生徒ばかり。僕がここにいるのは場違いな気がした。

しかしなんと、そんな出場メンバーのなかで、僕たちは優勝し、東京行きが決まったのだった。東京。僕の胸は高鳴った。しかし同時に思った。

「このまま、佐藤君におんぶにだっこの状態でいいのか?」僕の勉強がそこから始まった。仕事とレポートの合間を見つけて、テキストを読み込んだ。そして僕は今、ここにいる。周りは全国的に名の知れた名門校ばかりだったらしい。しかし、あまりその辺の事情に詳しくない僕は、そんなことはあまり気にならなかった。それが功を奏したのか、僕はあまり緊張することなく、のびのびと大会を楽しむことができた。県大会とは違い、全国大会では二人ではなく個人で答えなければならない問題もあり、勉強してきて良かったと思った。

僕たちはベストを尽くし、準決勝まで駒を進めることができた。全国の舞台でここまで来ることができたことに満足はしているが、「あと一問、僕が正解することができていれば」という悔いも残った。こんな悔しい気持ちになったのは、本当に久しぶりのことだった。深夜のアルバイトに毎日のように入り、通信制のレポートとスクーリングをこなすことで毎日が精一杯の僕にとって、今回の大会への出場は、まるで新しい世界が目の前に広がったように感じられ

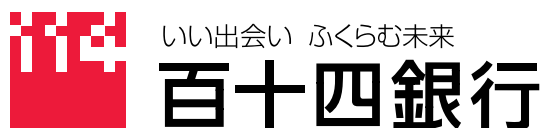
た。本当にいい経験になった。

大会を主催してくださった皆さん、東京行きをサポートしてくださった阿波銀行の方々、そして、この素晴らしい大会に僕を誘ってくれた相方の佐藤君に心からお礼を言いたいです。ありがとうございました。





香川大会 12月11日(日)開催



優勝チーム 香川県立高松西高等学校
(2年連続2回目)
「シカマル」
造田 隼佑・佐伯 峻平



主催 百十四銀行

参加校一覧

高松第一高等学校、香川誠陵高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高松西高等学校、香川県立高松桜井高等学校、香川県立観音寺第一高等学校、香川県立坂出高等学校

申込みチーム数 17チーム (7校)

運営スタッフ感想

香川大会は7校17チームの高校生に参加いただきました。3年ぶりの対面開催でスタッフ一同、スムーズな運営ができるか少々不安がありましたが、盛り上がっている高校生をみて、開催できて本当に良かったと感じました。

特に決勝ラウンドは最後までどのチームが勝つか分からない手に汗握る展開で、高松西高等学校の「シカマル」チームが最終問題で逆転し、見事その栄冠を手に入れました。

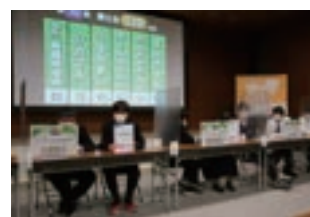
「シカマル」チームのお二人、2年連続での全国大会出場、本当におめでとうございます！

全国大会での活躍を期待しております！

今後も多くの高校生に参加いただけるように、楽しい大会運営につとめたいと思います。

香川大会代表 香川県立高松西高等学校 2年
造田 隼佑 (2年連続出場)

悔しくもうれしい、そんな大会だった。もちろん、目指していたのは優勝だけだった。それでも現実には厳しく、運も振り向いてくれることがなかった。実は、途中順位は8位ほどで優勝の見込みが十分あり、「これはいける」とワクワクを膨らませていた。しかしここまでペアの佐伯さんと相乗効果で勝ち上がってきたので、自分1人で行うときでは他のペアに及ばず、大幅なロスをしてしまった。この文面でも謝りたいと思う。このロスで、届きそうだった優勝は手のひらからこぼれ落ちていった。本戦も不甲斐なく、準決勝に進めなかった時はひどく肩を落とした。ここまですごい悔しかった思い出である。次はうれしかったことだ。数少ないうれしい思い出として、ディスカッションで他の都道府県代表と活発に話し合えたことが挙げられるだろう。特に心に残っているのは英語のディスカッションの時に、英語の楽しさをアクティブに感じる事ができたことだと思う。これによって、はじめて会う人と話すことにためらい





がなくなった感じがした。

そしてここからは今回のエコノミクス甲子園で得たことを書きたい。まず自分は勉強が苦手ではなく、根拠のない自信を持っていた。しかし全国の代表を見て、まだまだ世の中は広いということを感じた。そして経済だけでなく普通の勉強も、自分はまだ足りていないと痛感した。さらにペアの佐伯さんと2泊3日を過ごし、家族でない人と長時間過ごすことはただ楽しいだけではないということが学べた。自分だけで泊まっているわけではないので、ペアの気持ちも考えながら、例えば疲れていそうな時は敢えて静かにしたりということができた。そうはいつでも色々な人にたくさん迷惑をかけてしまったことは間違いないので申し訳ないと思っている。またお世話になった百十四銀行の方々、エコノミクス甲子園を実行していただいた方々、全国代表のみんな、そして何より佐伯さん、本当にありがとうございます。

香川大会代表 香川県立高松西高等学校 2年
佐伯 峻平 (2年連続出場)

一昨年の11月、エコノミクス甲子園のポスターを見かけました。当時経済に関心を持っていた僕は「とりあえず、面白そうだから出てみよう」という軽い気持ちで出場することを決めました。

そして、前回の香川県大会では優勝し、全国大会に出場しました。しかし、前回の全国大会では1問も答えられずに初戦敗退という悔しい結果となりました。そこで、今年は去年の雪辱を果たそうと決めて、一昨年よりも勉強をして香川県大会に望みました。そして、再び優勝し全国大会に出場しました。今回は前回とは異なりオフライン開催ということで、ドキドキしながら会場に着きました。最初にあったイベントはTKOの木本さんの投資に失敗した経験を元にした講演でした。投資の失敗談だけでなく、芸能界事情なども聞くことが出来、とても楽しく充実した時間でした。その後オリンピックセンターに泊まり迎えた一日目には予選としてGDRと筆記試験、そしてポイントトレードを行いました。

結果、筆記試験とGDRの合計得点で8位になることができ、とても嬉しかったです。

2日目には、いよいよ本戦がありました。本戦の会場について感じたのは、「去年とは何もかもが違うな…」という事でした。

第1ラウンドでは、自分たちの番の時に分からない問題が

来てしまいましたが、早めに損切りをすることが出来たので良かったです。

第2ラウンドでは、自分の番になってすぐに正解できたので、「勉強してよかったな。」と思いました。

最終的には予選敗退で38位という結果でしたが、それでもこの大会を通して得られたことがたくさんありました。

特に、エコノミクス甲子園を通じて改めて経済知識の大切さを実感しました。もはや、今では何一つとして経済と切り放せるものは存在していません。だからこそ、老若男女問わず経済知識を得ることが大切だと感じました。これからの時代、急速に変わっていく社会の中で、この大会で得た知識を基に頑張りたいと思います。

最後になりますが、エコノミクス甲子園関係者の皆様、この度はありがとうございました。





愛媛大会 12月11日(日)開催

伊予銀行 IYO BANK

優勝チーム 新居浜工業高等専門学校
 (初出場)
 「新居浜高専勝機」
 鈴木 紫己・藤田 翔



主催 伊予銀行

参加校一覧

新居浜工業高等専門学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立新居浜東高等学校、愛媛県立新居浜工業高等学校、愛媛県立川之石高等学校、愛媛県立小松高等学校、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立南宇和高等学校、愛媛県立今治西高等学校、愛媛県立今治東中等教育学校、愛媛県立三崎高等学校、愛媛大学附属高等学校

申込みチーム数 28チーム (12校)

運営スタッフ感想

長引くコロナ禍の中、集合形式での開催を無事に終えることができ安心しております。参加を決意し、大会を盛り上げてくれた愛媛県内の高校生の皆様に感謝しています。参加した高校生たちは真剣に金融や経済に向き合っており、とても感銘を受けました。高校生たちの金融・経済に対する興味・関心・知識が年々高まっているように感じています。来年以降も引き続き多くの高校生に参加いただけるように、高校生により身近な方法を模索しつつ、さらに「エコノミクス甲子園」を広められるように邁進してまいります。本大会を主催して下さった金融知力普及協会の皆さま、愛媛に帰ってきてくれた学生スタッフの皆さま、そして、第17回エコノミクス甲子園に参加してくれた愛媛県内の高校生の皆さま、本当にありがとうございました。

愛媛大会代表 新居浜工業高等専門学校 2年 鈴木 紫己

エコノミクス甲子園で過ごした時間は常に刺激的で、あっという間に時間が過ぎていきました。今3日間を振り返ってみると、何か遠い過去の事のような気さえます。私はエコノミクス甲子園に参加してから、より経済について知ろうと興味を持つようになったし、将来投資をやりたいと思うようになりました。エコノミクス甲子園に出なければここまで毎日のニュースに関心を持つようにならな





かっただろうし、資産形成とは無縁の人生でもおかしくなかったと思います。人生の早い段階で経済について勉強できたのは自分にとって財産だと思います。

エコノミクス甲子園で特に印象に残ったことが二つあります。まず一つ目は、他の高校生の方々とたくさん交流できたことです。チーム同士ライバルの関係にあるので、他のチームとはピリピリした雰囲気かと思ったら全然そんなことなく、気さくに話しかけて下さってほっとしたことを覚えています。優勝するという目標に向かって互いに励ましあえて本当に良かったです。

二つ目は全国大会のレベルの高さです。予選で敗退して敗者復活の早押しクイズでは勝ち抜いてやるぞと気合十分で挑んだのですが、問題が読まれてからすぐに相手に答えられてしまい状況がつかめないままあっという間に敗者復活戦敗退となってしまいました。準決勝、決勝と観戦していると自分が知らなかった用語や指標がまだまだ多くあることが分かりました。

エコノミクス甲子園で感じた悔しさはエコノミクス甲子園でしか晴らせないと思うので、頑張って愛媛大会で優勝してまた全国に戻ってきたいです。

最後にこの大会を支えてくださった全ての皆さんありがとうございました！！

皆さんのおかげで濃密な時間を過ごせました！！

愛媛大会代表 新居浜工業高等専門学校 2年
藤田 翔

地方大会で優勝して、全国大会出場を目指し、最初は勉強に取り組んでいました。大会に向けて勉強していくうちに、財政や株価のニュースなどが自然と理解できるようになり、より勉強を楽しめるようになりました。

授業では習わないことでも、社会に出るうえで必要な年金の知識や保険など広い分野を学ぶことが出来ました。

以前までは理系専攻だからとあまり経済について勉強していませんでしたが、工場などいろんなところに経済は関わっており、避けては通れないものだというのを、勉強を通して学ぶことができました。

TKO 木本さんの講演では、身近に投資などによる詐欺の危険性が潜んでいるということ以外にも、こういった危険性は金融知力によってしっかりと防げるんだという、自分が今後経験する可能性があることを実体験に基づいた話を聞くことができたのはいい経験になりました。

大会期間中は休憩時間やエコノミカ大会の時に、たくさん

の人と話ができてとてもいい刺激になりました。

自分の早押し問題や4択問題の成績は納得いくものではなく、他のチームとのレベルの違いを感じました。部活動としてクイズをやっているのもモチベーションを高めるいい刺激になりました。

大人になる前に、経済について楽しみながら勉強できる機会を得ることができてとても良かったです。悔しいという感情よりも楽しいという感情や、学びが非常に多く、とてもいい経験になりました。次回の大会や自分の人生のためにも、経済の勉強をこれからも続けていきたいです。





福岡大会 12月18日(日)開催

北九州銀行

優勝チーム 福岡県立東筑高等学校
(初出場)
「萩原保育園」
伊藤 よつば・中田 涼雅



主催 北九州銀行

参加校一覧

自由ヶ丘高等学校、福岡雙葉高等学校、福岡県立育徳館高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立新宮高等学校、福岡県立小倉南高等学校、福岡県立八幡高等学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、上智福岡高等学校

申込みチーム数 27 チーム (12 校)



福岡大会代表 福岡県立東筑高等学校 2年 伊藤 よつば

私はエコノミクス甲子園に出場して、目標に向かって努力することの大切さと大変さを学びました。大会に出場するにあたり、今まで自分には馴染みがないと思っていた投資や財政、それに関わる制度などを勉強しました。授業で習っていたこと以上に難しく、止めたくなる時もありました。しかし今では、経済のニュースが少しわかるようになり、経済を自分の身近なことだと思えるようになったので頑張っていて良かったです。

また、全国大会は他県の人と知り合うとても貴重な機会になりました。様々な方言や可愛い、かっこいい制服はもちろん、福岡ではなかなか見ない名字なども知ることができて自分の知識の幅が広がりました。学校生活などもコロナで制限が多い中、全国大会をオフラインで開催でき、自分がそれに参加できたのはとても幸福なことだと思います。GDRでは、講義を通して金融と社会との繋がりや、金融的な視点から見る社会などを知ることが出来ました。ディスカッションも時間が短く、もっと話したいと思う部分もありましたが、班のみんなで考えたプレゼンで上位の順位になれた時はとても嬉しかったです。

ポイントトレーダーは全く思ったようにポイントが増えなくて、全国大会を通して1番難しいラウンドだったと思います。今回は投機的な部分が多いルールだったのですが、企業を応援するための投資や、ESG投資の要素があればより現実的でもっと面白くなるのではないかと思います。

前述の通り、私はこの大会を通して様々な「財産」を得ました。これは私の将来で必ず役に経ち、人生をより豊かにしてくれるものだと思います。

何より、私がこの大会を通して出会った大切な友人たちと



の思い出はこれからもずっと私を支えてくれると思います。改めて、この大会を企画して下さった金融知力普及協会の皆さん、大学生スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

福岡大会代表 福岡県立東筑高等学校 2年
中田 涼雅

今大会は昨年の地方大会の雪辱を果たすため、同じ相手と挑みました。昨年以上に予選の対策をしたので、かなりのプレッシャーの中、何とか全国大会に出場できました。初めての全国大会で、東京に着くまでは本当に予選突破したのかなという気持ちと初めての東京で嬉しいという気持ちが入り混じっていました。全国大会だから、みんなバチバチしているかと思ったが、雰囲気はとても和やかで多くの人と会話できました。

1日目のTKOの木本さんの講演会や2日目のGDRはとても貴重な体験で全国大会に行ってよかったと思える理由の一つです。GDR後のポイントトレーダーは初めての経験でニュースと株価の関係を予測し、上手くお金を増やすのはとても難しかったです。エコノミカではたくさん練習してきたが、あまり良い結果とはならなかったが、対戦後のちょっとした時間の会話はとても楽しかったです。

そしてあっという間に3日目になりました。ボラティリティクイズや事業承継クイズはエコ甲特有のルールでとても苦戦しましたが、とても楽しかったです。敗者復活のときは、少しためらい押し負けてしまい、これまでで一番悔しかったです。それでもクイズって面白いなと実感しました。決勝の最後までわからない戦いを会場で見れたことはとても光栄に思います。

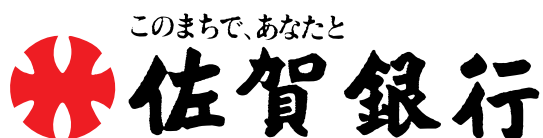
この大会を通して、金融・経済の知識が深まっただけでなく、周りの人の支えを大きく感じました。男女ペアだからこそ、一生出会わなかったかもしれない人と交流し、仲良くなり、自分は運が良いんだなと思いました。来年は受験で出場出来るかわからないが、どんな形でも全国大会での経験を活かしていこうと思います。

最後に、エコノミクス甲子園の運営に関わって下さったスタッフの方々、スポンサーの方々、そして応援して下さいました北九州銀行の方々、部活のみんな、心から感謝を申し上げます。相方の伊藤さん、2年間ありがとう。





佐賀大会 12月18日(日)開催



優勝チーム 佐賀県立鳥栖高等学校
(初出場)
「鋏形」
三浦 央輝晴・山田 敦椰



主催 佐賀銀行

参加校一覧

早稲田佐賀高等学校、佐賀県立鳥栖高等学校

申込みチーム数 2チーム (2校)

佐賀大会代表 佐賀県立鳥栖高等学校 2年
三浦 央輝晴

「エコノミクス甲子園という大会を見つけて少しでも興味をもったならば、絶対に参加したほうがいい」

そう強く思ったのが全国大会終了後の率直な感想です。大会開催目的の核となる「金融知力の向上」が達成されたのはもちろんのこと、全国の高校生と共に戦い交流することで刺激を受け、より経済・金融分野に対する興味が湧いてくるようになりました。

この大会は、日本の教育課程で金融知識を深く学ぶ機会がほぼ無い状況下において、非常に有意義なものであると思います。

さて、私は昨年の秋、学校の先生の紹介で大会出場を決意しました。エントリー後に送付される事前学習用資料の多さに驚愕しつつも、ペアとなる友人と資料をチェック。ほかにも、経済に関するニュースを見る、経済用語を調べるなどして地方大会に臨みました。

地方大会はオンラインでの開催で、比較的基礎的な問題が出題されました。しかし明確に答えを出せない問題があるなど、他校のチームと接戦を繰り広げながらも優勝。

その2か月後、待ちに待った東京での全国大会。まずはTKO 木本さんの講演を楽しく拝聴しました。だがその翌日から想定外のことが連発。タイムスケジュールに書いていないプログラムが突然始まっていきました。金融知識を身に着けた上で、急遽教えられるゲームのルールに適應する力が要求されました。

そんな荒波の中を楽しみながら航海し、私たちのチームは筆記で1位、総合で4位という成績を残すことができました。まさか決勝まで進出するとは思ってもいなかったのですが、決勝が終わった後は「もっと勉強しておけば…」という少々





の後悔の念も頭に浮かびました。しかしそれ以上に、全国大会では充実した時間を過ごし、数々の思い出を作れたことに満足しています。

最後に、エコノミクス甲子園の開催に携わっていただいた皆様、本当にありがとうございました。

佐賀大会代表 佐賀県立鳥栖高等学校 2年

山田 敦椰

今回のエコノミクス甲子園で印象に残っていることといえば、まずはお笑いコンビ・TKOの木本さんによる投資についての講話だろう。金融トラブルでかなり大きなニュースとなっていた木本さんのお話が聞けると知った時は、正直驚いた。安全な投資とはどんなものかという投資の基礎から、以前の木本さんのように大きなトラブルに巻き込まれてしまった人にどう声をかければ良いのかといった、単に金融の枠に収まらない、木本さんだからこそできる貴重な話を聞かせて貰えた。

次に書いてみたいのは、プレ日程最初の早朝に、抜き打ちで行われた筆記試験だ。朝食を摂って会場に集まり、これからの競技について説明が始まる……と思いきや第一種目・ペーパーテストの開幕である。かなり面食らったが、チームメイトと二人で協力して解答した。お互いの解答を修正したり、相手のわからない問題は自分が考えたりして、なんとか筆記試験では我々鳥栖高校が一位を獲得できた。二人で一緒に掴んだ一位だ。

そして、最も思い出深いのはやっぱり決勝戦のこと。クイズに正解すると金塊を獲得し、それを時間内に積み上げた高さで競うルール。決勝では財政分野の出題も多かった。チームでは自分が財政担当だったのだが、緊張で頭が回らない。全然増えない正解数……。他チームより圧倒的に少ない金塊で勝つには、安定を捨て、攻めに出るしかない。そう判断し、他とは違う積み方で勝負に出た。……ダメだった。不安定に積まれた自分達の金塊は、二段と残ることなく完全に崩壊した。勝利への道は、脆くも崩れ去る。しかし試合終了間際に異変が起こった。他のチームの金塊が倒れ始めた。安定していたかに見えた金塊は、実はギリギリのバランスに立っていたのだ。こんなことなら、攻めたりせず安定して金塊を積んでいれば。あの状況で周りを見渡す胆力が自分にあれば。いや、自分がもっと正解できていれば。反省や後悔は絶えないが、それは今回の大会がとても良いものだった証だろう。大会を通して金融経済について学び、他の高校生やスタッフ・講師の皆さんと交流

し、培った知識を実践し、敗北して自分の至らなさを知れた。素晴らしい経験だったと思う。今回の大会で得た知識・経験・友達。そしてこの大会にかけた熱い思いは間違いなく自分だけの、一生の宝なのだと思う。様々な状況の中、今回の大会を開催して下さった運営やスタッフの皆さん、今回の大会に参加して一緒に戦ってくれた皆には感謝してもしきれない。本当にありがとうございました。





長崎大会 12月18日(日)開催

十八親和銀行

優勝チーム 長崎県立対馬高等学校
(初出場)
「バサラ」
黒岩 春人・桐谷 直起



主催 十八親和銀行

参加校一覧

長崎県立長崎南高等学校、長崎県立諫早高等学校、長崎県立島原高等学校、長崎県立対馬高等学校、長崎県立佐世保北高等学校、長崎市立長崎商業高等学校

申込みチーム数 8チーム (6校)



長崎大会代表 長崎県立対馬高等学校 2年 黒岩 春人

私はエコノミクス甲子園に参加して貴重な体験を得ることができました。

私がエコノミクス甲子園を知るきっかけとなったのが、過去にエコノミクス甲子園に参加された方のnote記事でした。偶然その記事を見つけてエコノミクス甲子園という大会があることを知り、そこから調べていくうちに参加してみよう、という思いが強くなり参加しました。

大会では、全国から沢山の高校生が集まっていました。初対面のなか緊張しながらもコミュニケーションを取ろうし中々大変でしたが、仲良くなった方もいました。特に、青森の方とはディスカッションを通して知り合い、食事を一緒に食べたりしてとても楽しかったです。参加者の多くは、本当に同級生かを疑うほどにレベルが高く、また価値観も多様であるためとても良い刺激を受けました。また、大会の形式は様々で、ディスカッションや株トレード、ペーパーテスト、クイズ、どれも楽しく、面白かったです。特にディスカッションでは他校の方と議論を交えながら交流することができてとても良かったです。結果はあまり振るいませんでしたが、一生の思い出に残る大会となりました。

そして、今回は奨学金を頂けることになり大変嬉しく思っています。面接の時は緊張しましたが、審査員の方が優しく質問してくださり、自分が将来やりたいことを言うことができて良かったです。本当にありがとうございます。

今回の大会を通じて本当に様々なことを学ぶことができました。この大会を開催してくださった金融知力普及協会の皆様、運営して下さってスタッフの皆様、その他の関係者含め多くの方に感謝したいと思います。ありがとうございました。



長崎大会代表 長崎県立対馬高等学校 2年
桐谷 直起

私がエコノミクス甲子園に出場して感じたことを、書いていきたいと思います。

まず1つ目は、出場するためにした勉強です。私は友達に誘われて出場を決意しましたが、最初は経済、金融のことなど何一つ知らないひよっこでした。その後教材が届き資料を見ていく中で、多くのことを学びました。縁がないと思っていた投資信託や保険のこと、経済の動き方など様々なことを学んでいく中で、経済の面白さを感じていくようになりました。普段ニュースで見っていた何気ない日経平均株価などの意味がわかるようになり、とても楽しくなりました。それと同時に、この事は今後生活していく上でとても大事になっていこうと思いました。大会は終わりましたが、これからも学習をつづけていきたいと思います。

2つ目は、地方大会と全国大会に出場して思ったことです。地方大会はインターネットでした。私はこのような大会に出たことがなく、いつになく緊張していました。しかしいざ始めると、わかる問題が多く、自分が勉強してきたことが糧になっている気がしてとても嬉しい気持ちになりました。相方のおかげで、私たちは長崎県大会を優勝することができました。YouTubeで私たちの名前が呼ばれた時のあの感情は忘れることができません。

全国大会では、周りがクイズ研究部だったり偏差値の高い学校だけで少し不安でした。自分がこの中に混じって対等にクイズをすることに実感を持つことができませんでした。東京に行くのも初めてだったので、不安と期待を抱えながら会場に着きました。

私が本番を通して感じたことは、周りのレベルの高さです。ディスカッションでは、多くの人々が持っている知識が多く、それらを適切に活用しながら的を射た結論へと昇華させていました。英語の講義においても皆内容を理解し、高度なディスカッションを行っていました。私もみんなについていこうと思い、一生懸命に話しました。また、他県の人と話すことにより、自分の知らなかったことを多く知ることができました。

これらの経験は、私にとってかけがえのない経験になったと思います。





大分大会 12月4日(日)開催



優勝チーム 大分県立大分上野丘高等学校
(初出場)
「楠木の乱」
日高 大翔・福本 龍生



主催 SBI 損害保険

参加校一覧

大分県立日田高等学校、大分県立大分雄城台高等学校、大分県立大分豊府高等学校、大分県立大分舞鶴高等学校、大分県立大分商業高等学校、大分県立大分上野丘高等学校、大分県立別府鶴見丘高等学校、大分東明高等学校

申込みチーム数 23 チーム (8 校)

運営スタッフ感想

このたび大分県での地方大会を、当社として初めて開催しました。

何人くらいの応募があるか、また当日どのような雰囲気になるか、非常に不安に思っていたのですが、ふたを開けてみれば当日 46 名もの高校生たちが集まってくださって、大会も皆さんの熱気で盛り上がり、ほっとしました。過去の様子もわからない中で、各校の先生方のご協力の下、多くの高校生にご参加いただいたこと、そして地方のVIP・来賓の方々が大きくサポートしてくださったことに、心から感謝しています。初めての開催ということで、進行の大部分を金融知力普及協会の方々に頼ってしまい、至らない点が多々あったことは反省すべき点ですが、高校生たちの真剣な眼差しや正解した時の輝くような笑顔が見られたこと、短いながらも彼らと同じ時間を過ごせたことは、私たち社員にとっても得難い経験となりました。

参加した高校生たちが「エコ甲のおかげで、金融や経済に興味を持てるようになった」と思ってくださったなら、当社としてもこれ以上嬉しいことはありません。これからも本大会がますます発展していくことを、心から祈念いたします。

大分大会代表 大分県立大分上野丘高等学校 2年 日高 大翔

私は学校からのお知らせで初めてエコノミクス甲子園の存在を知りました。相方とは元から一緒にクイズに取り込んできた仲だったので、エコノミクス甲子園に参加することはすぐに決まりました。金融や経済に関する知識はほとんどない状態でしたが、頂いた事前教材のおかげで対策をすることができました。

大分大会はSBI損保さん主催での初めての開催でした。大分大会の開催日は2学期末考査の直後の週末でした。その





ため大会直前は思うように勉強できていませんでしたがテスト期間前にコツコツ勉強していたのと前日の追い込みで、ある程度の水準までは達していたように思います。予選では、筆記クイズは自信があったのですが、その後の早押しクイズがうまくいかず、予選で敗退かと内心ドキドキしていました。しかし結果的には3位で予選を通過できました。決勝はルールが複雑なボードクイズでしたが、問題運にも恵まれ、見事優勝することができました。優勝の決め手となった「会報『四季』」はこれからの人生で忘れることはないでしょう。

全国大会の率直な感想は「悔しい」です。もうちょっと深く調べていたら、もうちょっと関連する単語まで覚えておけばと後悔するばかりです。特に「ライドシェア」が答えの問題で「シェアリングエコノミー」と答えてしまったことが一番悔しいです。正解していれば準決勝に進んでいた可能性があったことを考えると本当に残念でなりません。しかし、それらを含めても、エコノミクス甲子園全国大会は本当に楽しいものでした。私にとっては何か一つのことには夢中になって全国大会にまで出場したというのは初めての経験でした。しかも実生活に役立つ金融経済の知識となれば、私の人生の大きな糧となるであろうことは言うまでもありません。現代日本では金融知力がますます重要になっているため、私は全ての高校生に「ぜひエコ甲に挑戦を！」と声を大にして言いたいです。

大分大会を主催してくださったSBI損保さん、本当にありがとうございました。大分大会が開催されていなければ、私がエコノミクス甲子園に参加することはもちろん、存在を知ることすらなかったでしょう。

最後に、エコノミクス甲子園の準備、運営をしてくださった学生スタッフの皆様、金融知力普及協会の方々などの全ての関係者様をはじめ、応援してくれた家族・先生方、共に戦った相方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

大分大会代表 大分県立大分上野丘高等学校 2年
福本 龍生

まずは、このエコノミクス甲子園の開催、並びに運営に尽力されましたボランティアの方々等関係者の皆様に深い感謝を申し上げます。

私はこの大会に参加して、さまざまなものを得ることができました。まずは金融等に関する知識です。地方大会から全国大会にかけて、教材を中心に学習を進めることで、金

融や政治、経済学の幅広い知識を得ることができ、それにより日頃のニュースなどをさらに深掘りするようになりました。また、それらの分野について興味を持ったので、大学の進路についても経済学の分野も考えるきっかけとなりました。また、他県の人たちとの交流も大きな経験となりました。そこでいろいろな会話をしたことは得がたいものでした。また、将棋の全国大会で会った人と再び会うことができたことも驚きました。このような貴重な経験をたくさんできたのは、この大会に出ることができたからで、とても面白かったです。

結果としてはあまり良くないものとなりましたが、たくさんのもので得られ、出場して本当に良かったと感じました。これも、今年をはじめ大分大会を開催してくださったSBI損保様をはじめとする、さまざまなスポンサーの皆様のご厚意によるものであり、このような方々の金融教育への思いからこの大会が行われているのかなと感じました。改めてこの大会に関わった全ての皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。





宮崎大会

12月18日(日)開催



優勝チーム 宮崎第一高等学校

(4年ぶり5回目)

「大月氏」

兒玉 悠仁・那須 遥斗



主催 宮崎銀行 / 宮崎太陽銀行

参加校一覧

鵬翔高等学校、延岡学園高等学校、宮崎第一高等学校、宮崎県立都城商業高等学校、宮崎県立延岡高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立宮崎大宮高等学校、宮崎県立宮崎商業高等学校

申込みチーム数 26チーム (8校)



宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 2年

兒玉 悠仁

昨年に引き続き今年もエコノミクス甲子園の地方大会に申し込みました。去年の地方大会で負けたことが悔しく、今年こそは全国大会に行きたいという思いを胸に相方の那須君と2か月前から放課後に経済の勉強をした。やれることはやった。そしていざオンラインでの地方大会の幕開け！50問の四択問題を解いた。はじめは順調に正解していったが後半になるとミスが増え、50問終わった時には今年も負けたなと心の中で思った。しかし宮崎第一高校の名前が出たとき私たちは喜び合った。次は全国大会への勉強が始まった。エコノミクス甲子園の過去の動画を見ると難易度の高い問題も多くあり那須君と二人で問題の研究をした。こうして気が付くと東京に着いていた。会場に着いたとき高校生がたくさんいてはじめは仲良くできるか不安であった。まずはTKO木本さんの講演を聞いた。自分も投資で失敗したくないなと感じた。そのあと自分の部屋へ移動をした。土曜日にあるエコノミカスのルールがわからなかったので大分の上野丘高校の部屋に行ってずっとエコノミカスをしていった。上野丘高校の日高君と福本君と仲良くなることができた。次の日はディスカッションがあった。ほかの高校生のレベルが高くてついていくのに精いっぱいだった。次のエコノミカ大会ではほかの高校と触れ合うことができた。ついにエコノミクス甲子園の本選日になった。緊張したが冷静に判断することができたため第一ラウンドで100点をとれた。この100点はかなり大きかった。第二ラウンドでは私がやらかしてしまった分を那須君が取り返してくれた。そして予選順位は9位であった。土曜日で取れなかった点数分を日曜日でとりかえすことができよかった。第三ラウンドではなかなか運を味方につけることができず敗退し



てしまった。しかし後悔はなかった。やれることはやったのだから。

県外の高校生と触れ合えたことは自分にとって大きな経験になった。大会を運営してくださった皆様、主催してくださった銀行の皆様、私たちに協力してくださった皆様、ありがとうございました。最後に相方の那須君、本当にありがとう。

宮崎大会代表 宮崎第一高等学校 2年

那須 遥斗

昨年の9月、パートナーの兒玉君に誘われてエコノミクス甲子園の参加を決めました。今年の全国大会は東京で開催されると聞いたので、思い出を作りたいと思い毎日放課後彼と勉強してきました。予選では問題を読み間違えたりなど焦りましたが努力が報われたので嬉しかったです。そして先日全国大会が開かれましたが、各班に別れて公演を聞いているディスカッションや、エコノミカ大会など様々なイベントがあり全国からの猛者たちと勝負する機会が沢山あり、刺激を受けられる大会になりました。本番では予選で作戦勝ちして準決勝まで進出できましたが、決勝には行くことができず悔しい結果となりました。しかし私はこの大会を通して非常に良い経験ができました。各都道府県で優勝したチームと交流し、共に戦えたことが普段経験できないことで、みんなの話は面白く、この2日間で多くの人と仲良くなりました。特に大分県上野丘高校の2人とは終日一緒に行動し、とても楽しかったです。ありがとう。私たち2年生はいよいよ受験に向けて勉強により励まなければなりませんがこの大会に参加して、もっとやる気が出ました。初めて全国大会という場を味わうことができ本当に良かったです。また、3年ぶりにオフラインで全国大会を開催してくださった運営の皆さん、ありがとうございました。今後の学校生活も様々なことに挑戦したいと思います。ありがとうございました。





鹿児島大会 12月11日(日)開催



優勝チーム ラ・サール高等学校
(6年連続 12回目)
「幣の一般理論」
原口 蒔臣・有水 大世



主催 鹿児島銀行

参加校一覧

鹿児島市立鹿児島女子高等学校、霧島市立国分中央高等学校、ラ・サール高等学校

申込みチーム数 3チーム (3校)

運営スタッフ感想

- オンラインになって参加チームが激減
- 来年度は内定者(高校)への案内を強化したい。



鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 2年 原口 蒔臣

私は前回、相方の有水とは別のチームで地方予選に挑み、破れました。とても悔しく、来年は絶対に優勝してやる、と意気込み、負けた日から再度一生懸命対策を重ね、今回、初めて全国大会に出場することができ、本当にうれしかったです。

この大会、特に全国大会を通して思ったことが二つあります。

一つ目はコミュニケーション能力の重要性です。二日目のグループディスカッションにて他県の代表者達と意見交換し合う中、リーダーシップに優れた人がたくさんいて圧倒されるばかりでした。これからの人生の中で伸ばしていく必要があるスキルを再認識でき、この経験を次の糧にしていきます。

二つ目は三日目の本戦でのことについてです。恥ずかしいことですが、私にとってこれ以上ないほど対策を行ってきたので絶対に優勝できると思っておりました。しかし、ふたを開けてみれば、負け犬の遠吠えとなりますが、あともう少し落ち着いていれば、とか分かったはずなのだと思うようなことが続き、準優勝という結果で、他の参加者にはとても申し訳ないのですが、非常に悔しく、決勝戦後は自責の念に駆られました。また、本戦のアーカイブを見直すといくつかわからない問題があったり、あやふやな問題が出てきていて、私は今まで何をしてきたのかと思いました。ですが、もうこの先、例えば大学受験や就職活動、あらゆる機会でのこのような思いをしないように励んでいこうという意気込みにつなげることができて失敗をより多く経験できてよかったと思います。

改めてこの大会を主催していただいたスタッフやその関係



皆様方、他県の代表者、支え、応援していただいた先生や友達、家族、そして相方の有水などには本当に感謝しております。改めてありがとうございました。

いました。

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 2年 有水 大世 (2年連続出場)

「ラ・サール高校は、ここで敗退となります。」僕たちの挑戦は、一年前に負けたあの日から始まっていた。事前学習教材の隅から隅まで目を通し、先輩たちが作り上げてきた資料を参考にし、自分たちで時事対策をして、本番に挑んだ。そして迎えた大会。まずは木本さんの講演を聞いた。生の温度感を感じられるお話は本当に有意義だった。2日目には、ペーパークイズやGDR、エコノミカ大会といった事前競技を行った。僕が一番面白く感じたのはポイントトレーダーだった。素人ながらもニュースや株価の動きといった情報から将来を予想するのは本当に楽しかった。

3日目、いよいよ本番。不思議と緊張はしなかった。今までやってきたものを全力で発揮しようと思いながら壇上に立った。読まれる問題、鳴り響くブザー、その全てに興奮しクイズを答えた。気づいてみると、強豪ぞろいの全国大会にあって僕たちは予選を2位で通過することができた。しかし、準決勝では誤答に誤答を重ね、僕らは敗北のどん底にいた。そこで発表された「敗者復活戦」。予選順位の高さも相まって、かなり優位に立つことができたこの戦いで、僕らは決勝への最後の切符をつかみ取った。僕は快哉を叫んだ。それほど嬉しいことだった。決勝戦では、金の延べ棒を積み上げるといふ、資産形成にも似た形式でクイズを行った。平たい展開の中、僕たちの組んだ作戦は「2段タワー方式」だった。リスク分散を意識したこの戦略は功を奏し、かなり安全にタワーを積み上げることができた。だが、正解数で上回っていた札幌開成のタワーの高さを見て、これじゃ勝てないと思った最後の1秒、僕はタワーを1段に積み上げた。焦りの生んだ行動だった。崩れ落ちるタワー、告げられる幕切れ。「優勝は、札幌開成！」その瞬間、僕たちは敗者となった。しかし、一年前とは違って、僕は清々しい気持ちだった。それはマラソンを走り終えたときのような感覚だった。僕たちは、「リスク分散」の大切さを身をもって知った。それこそエコノミクス甲子園が僕たちに教えてくれたものだと思う。

最後に。大会を主催してくださったスタッフの方々、日々の勉強で僕たちを支えてくれた学校の先生や部活の仲間、そして何よりもパートナーの原口、本当にありがとうございました。





沖縄大会 12月18日(日)開催

◎ 沖縄銀行

優勝チーム 沖縄県立開邦高等学校
(初出場)
「喫水線」
比嘉 一星・肥後 翔太



主催 沖縄銀行

参加校一覧

沖縄県立首里高等学校、沖縄県立開邦高等学校、沖縄県立美里工業高等学校、沖縄県立球陽高等学校、沖縄県立宮古高等学校、沖縄県立宜野湾高等学校、沖縄県立向陽高等学校、沖縄県立名護高等学校、沖縄県立具志川商業高等学校、沖縄尚学高等学校、昭和薬科大学附属高等学校、N高等学校

申込みチーム数 28 チーム (12 校)



沖縄大会代表 沖縄県立開邦高等学校 1年 比嘉 一星

小学生の時に知ったエコノミクス甲子園。1年目の挑戦で全国大会という舞台に立つことができました。まず、全国大会に参加して最初に感じたことは、この大会はとても暖かい大会だなということです。運営をしている学生スタッフの皆さんの雰囲気がとても良く、大会に参加してとても楽しかったです。スタッフの皆さんはありがとうございました。全国大会の内容を振り返って見ると、日曜日の本番では、相方のおかげで予選5位という予想外の順位から準決勝に進出することができました。事前ラウンドについては、GDRでは、講演の内容がとても興味深く、学校での探究活動などを行う上での視野が大きく広がった気がします。グループディスカッションは同じグループの方々に引っ張ってもらってばかりだったので、来年参加できたらもっと積極的にいけるようにしたいと思います。特に、2回連続同じグループになった慶應の今泉さんはどちらの回も円滑に話を進めてくれ、話をとても深められました。ありがとうございます。そして、エコノミクス大会とポイントトレーダーはとにかく楽しかったなという思い出です。特にポイントトレーダーは模擬的に投資を体験できたのでとても良い経験になったと思います。エコノミクス甲子園を通して、金融・経済の知識を深めることができ、たくさんの思い出もできました。来年は全国大会優勝を目指して、もっと強くなって戻ってきたいと思います。今回全国大会を出場するにあたって

応援してくれた皆さん、付き添ってくれた金融機関の方、そして何より運営の皆さんはありがとうございました。



沖縄大会代表 沖縄県立開邦高等学校 1年
肥後 翔太

第17回エコノミクス甲子園全国大会に出場させていただきました。とても自分の実力だけでは出てこれなかった舞台で、貴重な経験をさせていただきました。まず、都会は人が多く、田舎者の自分は街を歩くだけでとても疲労が溜まりました。しかし、オリセンの食事は素晴らしく、自分でトッピングや副菜を追加できるなどとても自由度が高く、毎日食べたいです。TKO 木本さんのお話はとても興味深く、面白いなと笑ってしまいました。デモトレードなどと言うものを初めて行いましたが、実際の会社に関連してこれまでの恐慌や好況が盛り上がりを見せました。GDRにおいては、少し周りに恐縮してしまって緊張してしまいましたが、本戦では逆に吹っ切れて楽しむことができました。

決勝に進むことができず、勉強不足を痛感してしまい、次の大会にも参加して、又全国大会に出場できるように経済について学びたいと思います。今回の大会で経済についての知識と興味を深め、楽しい時間を過ごすことができました。

この大会に関わってくれた関係者の皆さんにお礼を言います。ありがとうございました





ネット大会 12月17日(土)開催



優勝チーム 兵庫県立北摂三田高等学校
(初出場)
「野活」
奥山 もにか・森本 昂太



主催 住信 SBI ネット銀行

参加校一覧

香川県大手前高松高等学校、長野県飯田高等学校、茨城県立並木中等教育学校、群馬県立前橋商業高等学校、福岡県立東筑高等学校、神奈川県立湘南高等学校、清風南海高等学校、浜松学芸高等学校、洗足学園高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、松本秀峰中等教育学校、東京都立桜修館中等教育学校、東京都立国際高等学校、愛媛大学附属高等学校、志學館高等部、広島県立総合技術高等学校、島根県立松江北高等学校、宮崎県立宮崎商業高等学校、大阪女学院高等学校、大分県立大分東高等学校、大分県立中津南高等学校、土佐塾高等学校、和歌山県立日高高等学校、兵庫県立北摂三田高等学校、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、仁愛女子高等学校、京都府立福知山高等学校

申込みチーム数 35 チーム (27 校)



ネット大会代表 兵庫県立北摂三田高等学校 1年 奥山 もにか

一言でいうと、本当に楽しかったです。

まず、人って色々な性格を持った人がいるのだなと感じました。それだけでなく、頭が良いと言うのは本当にこういうことなんだなと思いました。グループディスカッションラウンドで、率先して司会をやってくれた人がいました。その人は適度に司会として指示を回すだけでなく、間や意見が出ないときに自分の意見を挟んでいました。それがとても格好良く、私もそうなりたいと強く思いました。

大学生のボランティアさんはじめ、大会のスタッフさんがすごいなと思いました。企画や問題作成だけでなく、当日の運営までこなすスタッフさんの姿はとても格好良いです。私もやってみたいと思いました。高校を卒業し、大学生になったら絶対にエコノミクス甲子園へ携わりたいと思います。

大会が終わって、日常生活に戻りましたが、クイズの問題を忘れられません。なぜかという、生活の節々にクイズの問題の答えが潜んでいたからです。動画サイトの広告や書店の新刊コーナー。どこへいっても目につく単語が何かあります。もし大会に出でおらず何も知らなければ、きっとその単語に気が向くことはないでしょう。知っているからこそ、その単語を見つけ、単語の意味や周辺知識をまた思い出すことができます。

エコノミクス甲子園のおかげで、日々の生活に楽しみを見出すことができました。そして、学ぶことが更に楽しいと思えるようになりました。

最後になりましたがこのような機会を用意していただいた運営の皆さん、私達を応援してくださった両親、友達、先生方、金融機関の方に厚く御礼申し上げます。そして何よ



り、私のクイズへ出るという誘いを受けてくださったパートナーの森本先輩に感謝します。

ありがとうございました。

ネット大会代表 兵庫県立北摂三田高等学校 2年

森本 昂太

私は、このエコノミクス甲子園に部活と生徒会執行部の後輩であるチームメイト奥山から誘ってもらい参加することになった。参加しないかといわれるまで「エコノミクス甲子園」のことを何も知らなかったが、金融経済系のクイズ大会だということでも興味がわき、楽しんで大会に臨むことができた。

私はインターネット大会代表かつクイズ部でもないため、対面形式でのクイズは人生初であり、しかも、それが全国大会という大舞台で非常に緊張していたが、前日までの活動でさまざまな人と話すことができたおかげで、緊張も和らいだ。クイズを行うだけでなく、エコノミカ大会や、TKO 木本さんの講演、筆記テスト、模擬トレーディングなどがあるのが、このエコノミクス甲子園の良いポイントではないかと感じた。

全国大会に参加している人たちは、誰もがレベルの高い知識を持ち、かつ、知識だけでなく、意見をまとめる力やプレゼン能力を持っており、全国というレベルの高さを見せつけられた。これも、全国大会に参加することができるという非常に大きな経験をさせていただくことができたからである。「井の中の蛙大海を知らず」とはまさにこれかと身をもって実感した。

今回、エコノミクス甲子園全国大会では今しかできない非常に最高の経験を数多くすることができた。後輩の奥山にはぜひ来年も挑戦してほしいと思っている。私自身は来年、大学受験を控え、出場することはできないが、大学入学後には、運営側として、エコノミクス甲子園を支える人になりたい。人生で最高の経験をすることができ、非常に充実した3日間となった。

最後になりましたが、エコノミクス甲子園を運営してくださった、金融知力普及協会の水谷さんをはじめとするすべての皆様、運営スタッフの大学生の皆様、本当にありがとうございました。





1 日目

TKO 木本様講演

大会1日目の夜には、お笑いコンビ『TKO』の木本武宏(きもとたけひろ)様をお招きして講演会を行いました。この講演では、木本様が実際に体験された投資の失敗をもとに、投資との関わり方についてお話いただきました。真剣でありながらもユーモアを交えた語りに、高校生たちは熱心に耳を傾けていました。講演後の質疑応答では、高校生からの質問が飛び交い、とても盛り上がりました。高校生たちにとって、お金の賢い使い方を学び、将来について考える貴重な機会になりました。



2 日目

筆記クイズ

大会2日目の朝は、全国大会本番に先立ち筆記クイズが実施されました。4つの大問で構成された100点満点のクイズで、単なる金融経済の知識だけでなく、数学や時事に関連する問題も出題され、読解力や思考力が試される内容となっていました。短い制限時間の中、高校生たちはペアで協力しながらこれらの問題に挑みました。

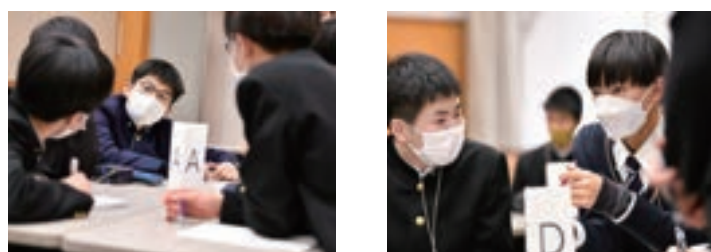


GDR (グループ・ディスカッション・ラウンド)

筆記クイズの終了後、GDR (グループ・ディスカッション・ラウンド) が行われました。このラウンドでは、金融やビジネスの最前線で活躍されている講師の方々の講演を聞いたのち、グループに分かれてディスカッションとプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションが終わると、各グループに順位がつけられ、それに応じたポ



イントが与えられました。プレゼンテーションの発表者になると、追加でポイントを得ることができます。ディスカッションでは、他のチームの高校生たちと親睦を深めるとともに、侃々諤々の議論が繰り広げられました。また、一部の講演は英語で行われ、プレゼンテーション能力だけでなく英語の能力を発揮する高校生も多くおり、多彩な能力を十分に発揮することのできる場になりました。



講師名	法人名	講義テーマ
齋藤 正弘 様	日本経済新聞社 編集 金融・市場ユニット記者	「『いい会社』って何だろう？ 企業取材で気付いた株主・経営者・社員、それぞれの幸せ」
宝蔵 花穂 様	株式会社国際協力銀行 企画部門 サステナビリティ統括部	「宮崎から世界へ ～エコノミクス甲子園優勝で広がった私の世界～」
笠井 康則 様	ロンドン証券取引所グループ (LSEG) リフィニティブ 上席執行役員	「グローバル金融データのトレンド。変わらないもの。変わりゆくもの。」
田川 道子 様	特定非営利活動法人 A SEED JAPAN 理事	「お金の流れで良い社会を作るということ」
山村 竜太 様	株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテインメント 執行役員 エンターテインメント事業部長	「差別化・ユニークネスとは何か」
Borgeaud Anselme 様 Zhou Yi 様	Pictet Asset Management (Japan) Ltd. Quantitative Investment Analyst / Multi-Asset Investment	「Our background and how it led us to finance, and eventually asset management」

ポイントトレーダー

GDRの終了後には、ポイントトレーダーが行われました。各チームは、これまでに筆記クイズとGDRで手に入れたポイントを元手に模擬投資を行い、自身のチームのポイントを増やすことを目指しました。実際の相場さながらの値動きを見せる金融商品に対して、高校生たちは機を見て売買を行い、固唾をのんで相場の行く末を見守りました。結果、ここでポイントを大きく増やしたチームもいれば、減ってしまったチームもいましたが、投資におけるリスクとリターンを実際に体験することで、大きな学びを得られました。





■ エコノミカ大会

大会2日目の夕食後には「経済TCG エコノミカ 令和対戦セット」を使用して、「三井住友DSアセットマネジメント杯エコノミカ大会」が開催されました。今年のエコノミカ大会は、勝敗がポイントとして予選順位に影響するため、高校生たちはより対戦に熱が入っている様子でした。試合を終えて時間に余裕のある高校生が再戦を行う様子も見受けられ、エコノミカを通じて高校生同士の交流する機会が生まれていました。表彰式では、成績上位者に景品が贈呈されました。三井住友DSアセットマネジメント株式会社 サステナビリティ推進室の川瀬様からは、ご挨拶と高校生への熱い応援メッセージを賜りました。社員の方々にも大会中に多大なるご支援をいただきました。末筆にはなりますが、ここに感謝の意を表します。



3 日目

■ 第1ラウンド 「ボラティリティクイズ」

このラウンドでは、45チームが15チームずつの3組に分けられ、早押しクイズが行われました。しかし、普通の早押しクイズとは一味異なります。最も早く早押しボタンを押したチームに解答権が与えられるのは同じですが、問読み後、10、20、……と10刻みで100までカウントアップされます。クイズに正解した場合、ボタンを押したタイミングのカウントが獲得ポイントとなりますが、不正解だった場合、そのカウント分ポイントが減点されるため、押すタイミングの読み合いが非常に重要となります。さらに、このラウンドでの解答権は各チーム1回のみであるため、緊張感のある駆け引きが行われていました。また、カウント100まで誰もボタンを押さなかった場合、事前に示されているCAO(Chief Answering Officer)となっているチームが強制的に解答をしななければいけないというルールもあり、より複雑な読み合いを生んでいました。獲得ポイントを増やすためにカウントが大きくなるまでボタンを押さなかったり、不正解によるポイントの減点を最小限に抑えるために早めにボタンを押したりと、多様な戦略が見受けられました。

このラウンドでは解答権を得ると、各チームの紹介ムービーが流れるようになっており、まさに今大会の幕開けにふさわしいラウンドとなっていました。





■ 第2ラウンド 「事業承継クイズ」

このラウンドでは、45チームが15チームずつの3組に分けられ、15チーム一斉解答の4択クイズが行われました。各組では問題が6問出題され、勝ち抜けるまでにかかった問題数に応じて獲得ポイントが決定します。勝ち抜ける条件は、2人のメンバーがそれぞれ問題に正解することです。ただし、各チームのメンバーはあらかじめ決めた順番で解答をしなければならず、1人目の解答者が正解するまで2人目の解答者は答えることができないため、解答順が重要となるクイズでした。さらに、解答にあたって、2人の中での相談は一切許されていないため、一人ひとりの知識が試されるラウンドとなりました。獲得ポイントは2問目で勝ち抜け、つまり最速で勝ち抜けた場合が100ポイント、以降問題が進むごとに、80ポイント、60ポイント、…と下がっていくようになっています。最速の2問目で勝ち抜けるチームもあれば、なかなか1人目の解答者が勝ち抜けられないチームもありました。このラウンドのポイントと第1ラウンドのポイント、さらに前日に行ったラウンドのポイントを合計し、合計ポイントが高い順に予選順位が決定されました。

準決勝ラウンド進出チーム（15チーム）

灘、ラ・サール、鳥栖、新潟、開邦、沼津東、岡崎、藤島、宮崎第一、徳島中央、札幌開成、松本深志、仙台二華、慶應義塾、智辯和歌山



■ 準決勝ラウンド 「誤答保険クイズ」

このラウンドには予選順位上位15位までの15チームが参加しました。5チームが1組となってクイズが行われ、各グループから1チームだけが決勝に進出することができます。このラウンドでは各グループ7問の多答問題が出題されました。解答チーム数は問題ごとに司会が回すルーレットで出た目によって決定し、事前に示されたCAO（Chief Answering Officer）から順番に解答していくというルールでした。ルーレットには、1～5の数字と保険再契約の目があり、保険再契約の目が出た場合、それまでに誤答保険を使用していたチームは、誤答保険が復活します。

このルールの見どころはなんといってもこの誤答保険の存在です。このラウンドでは、解答した順番がそのままポイントに反映されます。例えば、3番目に解答し正解するとプラス3ポイントとなり、逆に不正解だとマイナス3ポイントとなるという仕組みです。そのため、解答の順番が遅くなるチームは獲得ポイントが大きくなる分、相応のリスクを負います。そこで





発揮するのが誤答保険です。誤答保険を使用することで、誤答した時に失うポイントを0にすることができます。ただし、誤答保険の使用を宣言できるのは問題が出題された後、ルーレットを回す前であり、いつ使用するかを見極めることが重要になるルールでした。それぞれのチームは、自分たちに順番が回ってくるタイミングを予想した上で誤答保険の使用を試みていました。

決勝ラウンド進出チーム
札幌開成、鳥栖、灘



■ 敗者復活ラウンド 「レッドオーシャンクイズ」

このラウンドは敗者復活をかけたラウンドです。ここまでのラウンドで敗退してしまった42チームが参加し、勝ち抜けた1チームは決勝ラウンドに進出することができます。このクイズは1チーム対1チームのガチンコ早押し対決。予選順位が低いチームから対決を行う勝ち抜け戦で、どちらかのチームが不正解だった場合は相手チームが勝ち抜け、両チームとも無解答の場合は予選順位の高いチームの勝ち抜けとなります。最後の対戦に勝ったチームと、最多連勝チームとで敗者復活決定戦を行い、その勝利チームがこのラウンドの勝者となります。最多連勝チームとの敗者復活決定戦を行うことで、予選順位が低いチームでも勝ち抜けを狙うことができるルールとなっています。たった1チームのみ勝ち抜けられるということもあって、激しい戦いが繰り広げられており、5連勝以上するチームも現れました。最後に勝ち残ったラ・サールと最多連勝チームの米子東で敗者復活決定戦が行われ、問題文読み上げの途中でボタンを押して正解したラ・サールが敗者復活を果たしました。

敗者復活チーム
ラ・サール





■ 決勝ラウンド 「ゴールドラッシュクイズ」

決勝ラウンドは4チームで行われ、全15問のボードクイズが出題されました。決勝ラウンドの勝利条件は、最も上に高く金塊のタワーを積み上げることです。

1問あたり24個の金塊が準備され、1チームのみ正解の場合24個総取り、2チーム正解の場合各チーム12個獲得のように、正解したチームで金塊が山分けされました。正誤判定の後に30秒の金塊積み上げタイムとなり、各チームは解答台の前に用意された区域内で金塊を積み上げていきます。15問出題後の金塊積み上げタイムのみ1分間となり、最終的にどこまで攻めた積み上げ方をするかがポイントになります。最後の金塊積み上げタイムが終了してから5秒間のカウントダウンの後、積み上げた金塊の写真を撮影して、その高さが高い順に最終的な順位を決定します。

はじめは各チーム同じような積み上げ方をしていましたが、問題が進み獲得した金塊の数に差が出るにつれて、チームごとの積み方に個性が現れ、最終的な順位に大きく影響してきました。

最後の金塊積み上げタイム終了後には、なんと全チームの金塊のタワーが崩れてしまいました。しかし、札幌開成はタワーを2本作っており、そのうちの1本のタワーが崩れずに残っていたため、最も高い金塊のタワーとなり、札幌開成が優勝を決めました。

最終成績

優勝 北海道代表 札幌開成

準優勝 鹿児島代表 ラ・サール

3位 兵庫代表 灘

4位 佐賀代表 鳥栖

筆記クイズ1位 佐賀代表 鳥栖





■ 新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた 14 回大会、15 回大会の優勝者の NY 研修旅行が、2022 年 9 月 11 日～ 17 日に行われました。



第 14 回大会優勝
大阪府立北野高等学校
原 崇史

私は今回のニューヨーク研修に参加させていただいた。私自身の知識的・語学力的問題により全てを理解することはできなかったが、それでも多くを学ぶことができ、今後の大学での学習にも影響があると思う。

ニューヨークに到着してすぐに、タクシーで移動した。運転手が強引な割り込みを行ったり、道無き道で急加速したりといきなり日本との大きな文化的違いを感じた。

2 日目以降、多くの企業・機関を訪問させていただいた。どの企業でも、社員の方から自分の仕事・職場についてのお話を伺うことができた。分業が進んでおり、お話を伺ったどの社員の方も自分が担当している領域についての専門的な知識を持っていたことが特に印象に残っている。また、明るく開放感のある職場が多く、社員同士のコミュニケーションを図る工夫がなされていたり、観葉植物や熱帯魚、フルーツ等が至る所にあたりと、生産性を高める工夫が随所に凝らされていた。日本国総領事館では、業務以外にも日本とアメリカの企業や個人の姿勢の違いについても聞くことができた。さらに、アメリカにとって、日本はアジアのパートナーとして依然重要であると同様。国内では悲観的な論調の人も見かけるが、証券取引所ではトヨタやソニーの株価が流れており、市街地を走行する自動車も日本車が支配的だった。まだまだ日本には力が残っていると感じた。

企業・機関訪問に加えて、アクティビティとして種々の美術館・博物館も見学した。世界中から展示物が集められていた。どの国・地域からも誰もが見聞きしたことのある展示物が集められており、高校までで学習したことのおさらいができて楽しかった。

ニューヨーク研修に参加するだけでなく何かが変わる訳ではないと思いますが、必ず何かしらの影響を受けることになると思います。優勝を目指して頑張ってください。



第 14 回大会優勝
大阪府立北野高等学校
福岡 哉汰

アメリカは日本と近い関係にありながら、日本と正反対の空気が流れている。初めてニューヨークに滞在し、そう感じました。店員さんの態度、物価、交通マナー、道行く人のフレンドリーさ…。しかしこれらは個人旅行でも気づく違いですよ。エコノミクス甲子園の NY 研修のいいところは、普段見ることのないアメリカ社会のビジネスで、日米の違いを感じられることです。

在 NY 総領事の方には、日米がそれぞれ安定・競争の両極端であると、現地での肌感をもとに教えていただきました。アメリカの光の部分ばかり見るのではなく、影の側面も参考にすると必要があると感じました。

複数の企業も訪問させていただきました。どの企業もオフィスに自由空間を設けて異なる部署間での対話を促し、画期的なアイデアを生み出す工夫がされていました。また特に NY でしたので、diversity への配慮は顕著でした。企業が主体的に取り組んでいる様子は、日本が最も参考にすべき点でしょう。しかし他方で、アメリカがここまで diversity にこだわる背景には、根強い格差や差別の裏返しであるとも考えました。

NY 証券取引所の中へ入ったことは、一生忘れられない思い出になりました。世界金融の中心にふさわしい活況で、ここで働く人々からは、世界の経済を支えるプライドを感じ取ることができました。ちなみに訪問した次週に岸田首相が証券取引所へ来られるようなので、首相の先を越したことになる！…と思います。

最後に、私の心残りとして英語力を挙げておきます。ビジネスの世界で使う英語は、ゴマカシが効かないです。翻訳技術が今後進歩すると思いますが、対話の呼吸を重視する外国人相手には、直に話せるに越したことはないでしょう。ただ街中にいれば、大抵は OK と Thank you! で何とかできるので、気負う必要ありません！私も、とあるミュージアムで遭遇したインド人とこの 2 つですぐに意気投合しました！

エコ甲に参加した高校生たち！私たちに続いて、NY を目指しましょう！！



第15回大会優勝
千葉県立千葉高等学校
蜂巢 直暉

○はじめに

「NYへ行きたいか!？」

往年のクイズ番組の有名な掛け声です。今回、僕たちは某番組のようにエコ甲というクイズ大会を勝ち抜き、NY行の切符を手にする事となりました。初めての海外旅行ということもあり、様々な不安を抱きながらNYへ向かいましたが、研修旅行が終わった今は素直に「行っておいでよかった」という気持ちです。以下、僕がNYに滞在して思ったこと・考えたことについていくつかまとめてみたいと思います。

○より良い働き方とは

様々な企業を訪問させていただく中で、オフィスが面白かったところが特に印象に残っています。2日目に訪問した John Hancock のオフィスは緑がいっぱい。至る所が植物で彩られており、オフィスというよりもはや植物園といった感じでした。4日目に訪問した Bloomberg のオフィスは全体的におしゃれな印象。さらに、熱帯魚のいる水槽や花などが配置されており、リラックスできる空間となっていました。その他にも、カフェテリアが充実していたり、働いている人の服装がカジュアルだったり、少し遊べるスペースがあったり…何より、働いている人の雰囲気はどこか明るい感じだったのが印象的でした。このような働き方に慣れていない僕からしたら、かえって仕事の効率が落ちてしまうのではないかと少し疑問に思ったのですが、現地の人は「休む時は休み、働くときは働く」というようにしっかりメリハリを持ってやっているのだそうです。実際に Bloomberg でお聞きした話では、社員は比較的早い時間に退社するのだとか。長時間労働やら過労死やらが取り沙汰される日本でも、こういう働き方が普及したらいいのに…と思いました。

もう1つだけ話題を挙げるとしたら、最近よく聞く“Diversity”（多様性）についてでしょう。日本で「人種」を意識する機会はありませんが、今回訪問した企業はどこも様々な人種の方がいらっしゃるのを目でわかりました。加えて、性的マイノリティへの配慮についても聞かれました。“Diversity”への配慮が欠けているといわれる日本にとって、“Diversity”が著しいアメリカ（特にNY）

の働き方は非常に良いモデルになるのではないかと感じました。

これらのことを教科書等で読んだ知識としてではなく、実際に肌で感じた経験から考えることができたのは本当に貴重な経験だったと思います。

○アメリカから見た日本

物事を客観的に見ることは大事だとよく言われますが、このNY研修旅行では自分の住んでいる「日本」という国を少しでも客観的に見る事ができたのではないかと感じています。

まずは経済的な面について。3日目に訪問した総領事館経済部、5日目に訪問した Russel Investment、NY証券取引所で強く感じたことです。当然のことながら、アメリカの企業や投資家にとって、日本は「投資対象」であり、1つの「外国市場」です。実際にお話を聞いていく中で、自分が今まで日本をそのように「対象化」して捉えてこなかったことに気づきました。国内の経済状況も大事ですが、海外から見た日本の価値についても注目していかなければならないと感じました。衝撃的だったのは、故・安倍元総理の「アベノミクス」と岸田現総理の「新しい資本主義」に対する現地の方々の反応の違いです。前者についてはそれなりに評価されていましたが、後者の評価は散々でした（認知すらされていないことも）。政策における国外に対するメッセージの強さについて考えさせられました。

次に、文化的な面について。日本の常識はここではほとんど通用しません。街を歩けば、様々な人種の方とすれ違います。聞こえてくるのは基本英語です。飲み物が欲しくても自動販売機はそうそう見つかりません。コンビニもなかなか見当たりません。物価は非常に高いです。円安を抜きにしても高い。家庭ごみは朝ではなく夜に回収されます。コロナ禍ですが、もうみんなマスクを外しています。密集も気にしません。—これらのことは実際にNYを訪れたからこそ実感できたものです。そして、NYと日本との差異を通じて、自分の住んでいる日本という国の特徴をより深く知ることができたと思っています。これだけでもNY研修旅行に来た価値はあると感じました。

○英語力は大事

英語力があまりにも低かったのが今回の研修旅行における最大の反省です。今回、ほとんどすべての訪問先で英語の解説を聞くことになりましたが、その大半が理解できなかったのはかなり悔しかったです。また、英語ができないと税関で永遠に止められます（地獄です）。ありきたりな教訓で



すが、学校での英語の勉強は非常に大事です。その一方で、日常的に使う英語と学校で学ぶ英語の間にはやはりどこか違いがあるようにも感じました。積極的にネイティブの方と話す機会があるといいのかもしれませんが。僕の今後の英語学習の大きな課題を見つけることができ良かったです。

○おわりに

企業訪問をはじめ、様々な博物館・美術館を見学したり、ブロードウェイのミュージカルを見たりと、ここでしかできない貴重な経験をたくさんさせていただきました。様々なイレギュラーに見舞われながらも、こうしてNY研修旅行を無事に終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。コロナ禍でありながら、オンラインでの第15回大会を企画・運営してくださったスタッフの方々、今回のNY研修旅行を企画してくださった鈴木さん・水谷さん、引率してくださった濱元さん、尾崎さん、城さん、同行した第14回大阪代表の皆さん、相方の筧、そして、訪問を受け入れてくださった企業の方々に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。次にエコノミクス甲子園を制し、このNY研修旅行に招待されるチームはどこなのか、楽しみにしています。



第15回大会優勝
千葉県立千葉高等学校
筧 友輝

ニューヨーク・ボストン研修旅行での収穫を2つ書き記したいと思います。

まず一つ目が英語でのコミュニケーション能力の重要性を痛切に知ることができたことです。訪問した企業の方にお話をうかがったときにも、情報を断片的にしか聞き取れないという場面が多々ありました。折角私たちのために時間を割いていただいているのに申し訳ない、貴重な話をすべて咀嚼することができず、もったいないという思いが自分の中で湧き起こりました。買い物や入国審査などの場面においても英語で苦労した記憶がはっきりと残っています。在ニューヨーク日本総領事館の日本人職員の方が「本当の『グローバル化』にそなえよう」「大学生のときにきちんと英語を勉強しておけばよかった」とおっしゃっていたことも印象に残っています。比較的時間に余裕のある大学生で

ある私は、国境を越えた経済活動がさらに活発になる時代のため、英語を扱う能力を鍛えなければならないと学びました。

そして二つ目が世界経済を現実のものとして感じる事ができたことです。今回経済の現場をこの目で見て、さまざまな人々と直に接することができました。そして世界経済は画面の中だけの事象というわけではなく、現実世界で血の通った人が動かしている事柄であるという当たり前の事実を実感しました。また、トヨタやホンダなどの日本のブランドを多く目にしたり、円安によりミネラルウォーターを買うにも苦しんだりしたこともありました。それによってアメリカにとどまらない世界という舞台が私の住む日本と地続きの現実であり、私自身と関連を持っているということを、身をもって感じました。研修旅行を通して、どこか違う次元のような感覚のあった世界が実際のものとして目の前にくっきりと浮かびあがってきたのです。

この研修旅行では企業訪問のほか、美術館見学やミュージカル鑑賞などのアクティビティも含め、さまざまな貴重な体験をすることができました。初めての海外ということもあり研修旅行には不安も大きかったですが、最後には大いに満足するとともにエコノミクス甲子園で優勝して良かったと心の底から思いました。エコノミクス甲子園やニューヨーク・ボストン研修旅行に携わったすべての方々に感謝申し上げます。





飛行機での様子



John Hancock Center



在ニューヨーク日本国総領事館経済部



Bloomberg



Russell Investments



NYSE



Wall Street の Charging Bull と一緒に



The Plaza Hotel



Citi Field で野球観戦



■ 2023年4月2日~8日に、16回大会の優勝の稲葉君と、17回大会優勝の2人でNY研修旅行が行われました。



第16回大会優勝
栄東高等学校
稲葉 琉晟

こんにちは。「第16回全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園」で優勝いたしました、栄東高校の稲葉琉晟です。この度、優勝賞品のニューヨーク研修旅行に行ってきましたので、その感想文を執筆させていただきます。

本来、私の学校では高校2年生の修学旅行でアメリカへ行くことになっているのですが、新型コロナウイルスの影響により国内への旅行に変更になってしまったので、このような機会にアメリカへ行くことができ本当に嬉しく思い、行けなかった学校の友人達のみで楽しんで来ようという思いも持って行かせていただきました。学校の友人達にその話をした際には、必ずお土産を買ってくるように言いつけられました。

また、共に大会に出場し優勝した部活の先輩である佐々木遼先輩が、受験関係の予定で都合が合わず、一緒に研修旅行に行けなかったのが非常に残念であり、慣れない土地への知人がいない旅行には不安もありました。しかし、同行したスタッフの方々や札幌開成の2人とはすぐに打ち解けることができ、結果として終始楽しい旅行となりました。

私が研修旅行を通して印象に残ったことを3つ書き記そうと思います。

1つ目はボストンの街並みです。研修旅行のメインはニューヨークでしたが、4月4日はジョン・ハンコック・インベストメント・マネジメントさんに企業訪問をしに、飛行機でボストンへ行きました。市民がのんびりとくつろげる広い公園、荘厳な建築様式の図書館、歴史ある教会、オシャレな住宅街など、日本にはあまり見られない、とても魅力的な街並みが広がっていました。まだ2都市しか訪れていませんが、アメリカに住むならボストンがいいなと思いました。

2つ目はアメリカと日本の違いです。勿論何かしらのカルチャーショックがあることだろうと予想はしていましたが、アメリカ人が意外と静かだったり、赤信号でも横断歩道を渡る人がとても多かったり、電車で歌っている人たちがい

たり、等々。知らなかった、予想していなかった日本との違いを生で沢山見ることができました。中でも一番驚いたのが、地下鉄駅でのことです。電車が駅に停車している時、雑音や話し声でよく聞こえませんでした。何やら英語のアナウンスが流れ始め、すると乗客たちが異様にざわつき出し、次々に電車から降り始めました。事情の分からぬまま私達もそれに続いて降り、全員が降りたところで、電車は行ってしまいました。余程のことがない限り、日本では予告なしに電車の乗客を一斉降車させるなんてありえないと思いますが、アメリカではそのようなことも日常茶飯事なのだかと驚かされました。

3つ目はアメリカの企業のオフィスです。企業訪問をさせていただいたBloombergさんの本社には、食べ物・飲み物を自由にとり、テーブル席について社員同士でいつでも会話できるパントリーがあり、社員たちが気兼ねなく意見を交換できるスペースが用意されていました。また、食べ物(Food)・花(Flower)・魚(Fish)の3Fを色々なところに設置することで、リラックスして働けるオフィスにしているそうです。先程出てきたジョン・ハンコックさんのオフィスにも、卓球台やビリヤード台などが設置されているスペースがあり、社員たちが好きに気分転換できるようになっていました。このように、アメリカのオフィスには、「職場」ということに囚われず、社員たちが自由を感じられる空間を演出することで、仕事をより活発化させる工夫が多く見られました。このような自由性が、世界経済のトップを行く所以なのだろうなと思いました。

今回の研修旅行を通して、初めて外国との文化の違いを肌で感じ、また様々な企業を訪れることで、経済界の第一線で働く人たちの考え方を深く知ることができました。英会話の良い経験にもなり、とても充実した一週間を送ることができました。企画・引率してくださったスタッフの皆様、訪問を受け入れてくださった企業の皆様、同行してくれた札幌開成のお二方に、心から感謝しています。本当にありがとうございました。



第17回大会優勝 市立札幌開成中等教育学校 浜野 憲義

3月13日にはマスクの着用が個人の判断となり、5月8日からは新型コロナの扱いが5類に引き下げられる予定、と徐々に「アフターコロナ」の雰囲気が漂う春休み、我々一行は5泊7日のNY研修へ向かった。今回は第16回大会優勝ペアの片割れを含め高校生は3人。その前の14回・15回大会優勝者は昨年9月に研修へ赴いた。という事はこの文章が掲載される大会報告書には7人の感想文が掲載されるわけで、私はその6番目。最早、殆どの人が読み飛ばしているだろう。であるから、この文章を態々読んでくれる奇麗な人に少しだけメッセージを残しておこう。

第一に興味を持たれるのは「英語力」についてだろうか。自分は英語が出来ないけど行っても大丈夫かなあ、と心配している人も多くいるに違いない。

結論：「求めるレベルによる」

まず、買い物や人とぶつかった時など企業訪問以外の専門性を要さない所謂「日常会話」について言えば、“Yes”, “Thank you”, “Sorry”の3つを適切なトーンで言っていれば、入国審査以外では困らない。(入国審査は事前に聞かれる事を調べておいてガチガチに回答を決めておこう)

次に、美術館や博物館の展示についての解説を読む時、町の標識やポスターを読む時などのReading。これは受験英語が役に立つ。極めて。一般に大学入試対策として用いられる有名な英単語帳(仕組みを意味する英単語が入るアレや標的を意味する英単語が入るアレとかだ)に載る英単語と高校英文法を完璧にして行けば、読む事にはまず困らないだろう。近年、「受験英語」を軽視する風潮が目立つが、ことReadingについて言えばそんな事はない。

最後に、企業訪問で訪問先の外国人による英語での説明。これについては生半可な英語力では無理だ。多くの高校生には太刀打ち出来ないだろう。ただ、人によっても親切さに濃淡がある。今回の旅行でいえば領事館の人は意図的にゆっくり喋っていて、理解しやすかったし、ジョン・ハンコック社の人は容赦なくネイティブのスピードで私は1ミリも分からず、途中で諦めた。これについては自分がこれなら頑張れば聴ける!と思った時に、全集中力を傾けて聴けば良いと思う。全部を聞くという事は大多数の高校生には不可

能である。

ここまで英語について長々語ってきたが、英語を聞く・読むという事がこの旅行の全てではない。英語が分からなかったとしてもNYの街並み・雰囲気を感ずる事は普段、日本に住む我々にとって有意義な経験になる事は間違いない。NYに行けば、NYでは常に何かの臭い・匂いがする、という私の感想にも共感できるだろう。NYはアメリカの全てではない、と領事館の人も言っていたが、少なくともNYはどんな街なのか、という事が5泊あると何となく感じ取れると思う。執筆時点でNYを去って4日が経つが、未だにNYの地下鉄のあの臭いがこびりついている。

もう一つ、伝えておきたいのがエコノミクス甲子園についてだ。当然ながら空き時間・待ち時間も多くなるこの研修。その時間に引率の大人3人から大会の裏話を色々聞いた。特にこれは全国大会参加者全員がわかって欲しい、と思わされたのはエコノミクス甲子園が17回も続いている「2つの要因」だ。1つは大学生ボランティアの存在、もう1つは「オリセン」だという。オリセンはオリンピックセンターの略で言わずと知れたエコ甲全国大会の舞台である。立地に対して1泊あたりの料金がかなり安いようだ。決して資金が潤沢にあるわけではない中で工夫して運営するための策らしい。一参加者として参加していた全国大会の時はここは監獄かと思っていたが、運営側の視点になった時になんて我が儘な事を考えていたんだろうかと過去の自分が愚かに思えた。もし全国大会への参加を控えた高校生がこの文章を読んでくれているのだとしたら、運営サイドは出来る事を頑張っている、という事をぜひ理解してほしい。とまあ、他の人は中々書かないだろう事を主として私の感想文とする。次にNYへ行く高校生へアドバイスをもう1つだけするとすれば、帰りの飛行機が遅れて5泊7日の予定が羽田で一泊して6泊8日になってしまったので衣類はちょっと余裕を持って持って行く事をお勧めする。



第17回大会優勝
市立札幌開成中等教育学校
後藤 康太

優勝からとんとん拍子で予定が決まったニューヨーク・ボストン研修旅行でしたが、まさか1か月後にニューヨークに行くことになるという想定はあまり頭の中になかったので、ドタバタの準備の中でニューヨーク行きを迎える事になりました。

迎えた当日、どこかで不手際があるのではないかと不安はありましたがなんとか出国でき、無事ニューヨーク行きの便へと搭乗出来ました。12時間ほどをかけ着陸する寸前に見えた街並みからは、こんな遥か遠くの地にも人が住んでいるのかと妙な感動を覚え、同時にようやく自分はニューヨークへ来たのだと、実感しました。ニューヨーク到着後、初日はホテルへと向かったのち、自由の女神を遠くから鑑賞。マンハッタン島から見たこともあり、想定よりもかなり小さかったことに驚きました。

2日目以降は、企業や機関の訪問に加えてタイムズスクエアやセントラルパークといった代表的観光地や美術館・博物館といった様々な場所に訪問させて頂きました。特にニューヨーク証券取引所は、今回の研修の一番の目玉でもあり、私が最も楽しみにしていた場所でもあります。日々絶え間なく動く世界経済の中心地では、言葉にならないほどの活気があり、思わず圧倒されてしまいました。更にはクローリングベルの瞬間にも立ち会えたので、個人的には大満足でした。また日本総領事館では、ニューヨークの投資家の視点や日本の現在の立場についてお聞きし、地政学的観点も交えながら、現在の日本の重要性が増していることや、車やアニメ・漫画、更には日本酒など、日本が世界と戦える分野は数多くあることをお話させていただきました。ニューヨークは正直な所、地域差こそありますが日本と比較すると決して清潔とは言えない場所です。都市の中心部でもごみや動物の死骸が落ちており、路上生活者の方も多く見受けられました。しかし、訪問させて頂いた企業の入る建物に一步足を踏み入れると、そこには非常に清潔で整った空間が広がっていました。清潔な空間で経済が回っているその足元で、過酷な環境が待ち受けている。この差こそが、資本主義の中心地ニューヨークの格差なのだと感じさせられました。また、研修の中盤で訪問したボストン

では、ジョンハンコックの方に街を案内して頂きましたが、ニューヨークとは対照的に街全体が清潔で落ち着いており、どちらかというところヨーロッパ風の街並みで、一口にアメリカと言っても、都市によって全く環境が違うのだという事も、強く印象に残っています。

そしてこの研修旅行を通して、最も重要と感じたものはやはり「英語」です。恐らくこの研修に参加された多くの方が英語について言及されていると思いますが、それを承知の上で、本当に英語が重要だと言いたいです。基本的に、買い物など日常のちょっとしたコミュニケーションを取る分には、ノリと笑顔である程度言いたい事は伝わります。更に観光客という立場であれば、相手も観光客にはある程度は慣れているので比較的わかりやすい英語で話してくれます。しかし、ビジネスなどの真面目な場面では、「何となく」の英語は通用しませんし、個人差はありますが人によっては早口でネイティブ向けのように話してきます。こういった場面でも対等に、語り合っていく為にはやはり学校で習うような基礎的な英語力とコミュニケーションを取る上での英語力、その両方が重要になります。特に今回の研修旅行では、もっと相手の言っていることを聞き取れるようになりたい、という悔しさと共に、英語が出来るだけでもこんなに自分の見える世界が広がられるのか、と大きな可能性を感じさせられました。今後の人生何があるかはわかりませんが、こういった英語力の向上は絶対にプラスになると思います。

最後に、このニューヨーク・ボストン研修旅行を通して、様々な貴重な経験をさせて頂きました。このような場を提供して頂いた皆さま、協力して頂いた皆さまに、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



NY 研修旅行の様子と感想 *Study tour*



NY 研修旅行の様子と感想 *Study tour*



John Hancock Center



1日目夕食 (左) 最終日夕食 (右)



Wall Street の Charging Bull と一緒に



地下鉄にて



タイムズスクエアにて



任天堂ショップの前で



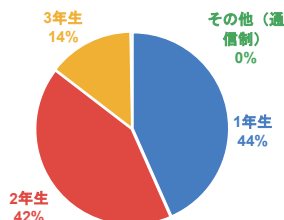
タイムズスクエアにて



参加者アンケート

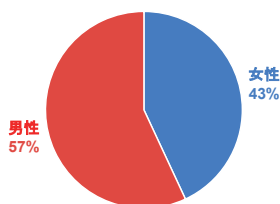
各地方大会に参加した高校生に大会参加後アンケートに回答してもらいました

Q1 学年を教えてください



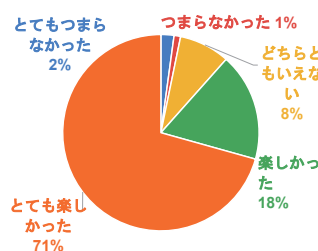
1年生・2年生が大半を占めました。

Q2 性別を教えてください



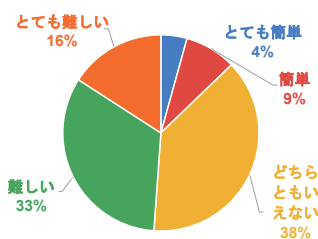
今年の地方大会には、男性の方がやや多く参加してくれました。

Q3 大会に参加して楽しかったですか？



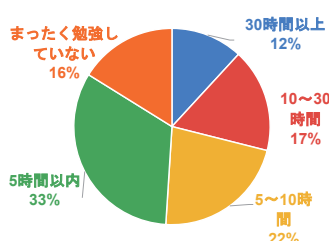
約9割の参加者が「楽しかった」「とても楽しかった」と回答してくれました。

Q4 問題のレベルはどう感じましたか？



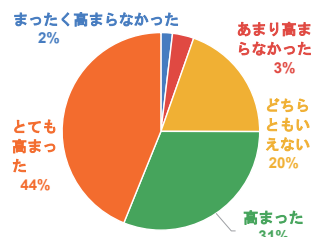
約半数の人が難しいと感じたようです。ほとんどの参加者が事前学習教材で学習してから大会に臨んでくれていました。

Q5 大会に備えてどれくらい勉強、対策をしましたか？



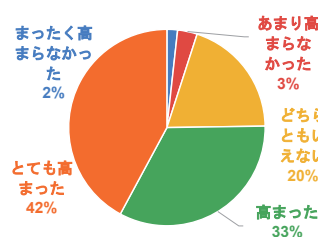
約半数の人が、5時間以上勉強しているようです。中には30時間以上勉強した人もいました。

Q6 エコ甲に参加して「投資」への理解は高まりましたか？



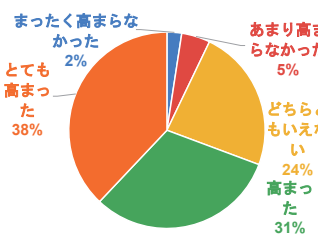
約4分の3の人が高まったと感じているようです。

Q7 エコ甲に参加して「保険」への理解は高まりましたか？



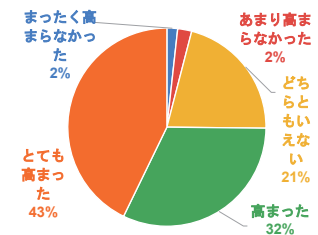
約4分の3の人が高まったと感じているようです。

Q8 エコ甲に参加して「年金」への理解は高まりましたか？



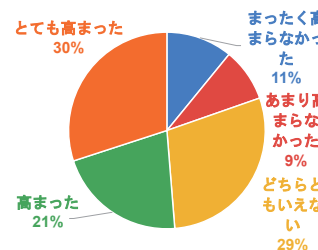
約4分の3の人が高まったと感じているようです。

Q9 エコ甲に参加して「税金」への理解は高まりましたか？



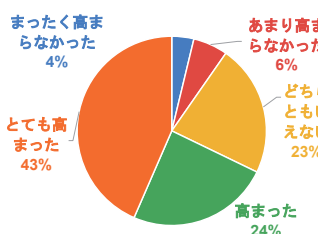
約3分の2の人が高まったと感じているようです。

Q10 エコ甲に参加して「iDeCo」への理解は高まりましたか？



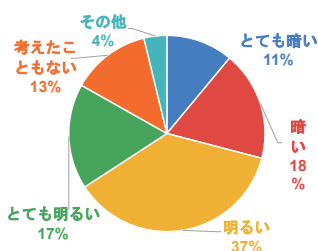
約半数の人が高まったと感じているようです。

Q11 エコ甲に参加して「NISA」への理解は高まりましたか？



約3分の2の人が高まったと感じているようです。

Q12 自分の10年後は、経済的に明るいと思いますか？



明るいと考えている人が多いようです。



地方大会

大会名	新聞	TV	その他メディア
青森			プロクレアホールディングス HP
秋田	秋田魁新報		秋田銀行 HP
山形	山形新聞 ニッキン	山形テレビ	
福島	福島民友新聞		東邦銀行 HP
茨城	茨城新聞		筑波銀行 HP
栃木	下野新聞 読売新聞 日本経済新聞	とちぎテレビ	
群馬	上毛新聞		
埼玉			りそなホールディングス HP
千葉	千葉日報	千葉テレビ	PR TIMES 千葉銀行 千葉銀行 HP 千葉興業銀行 HP チバテレ+プラス
東京			りそなホールディングス HP
新潟	にいがた経済新聞		第四北越銀行 HP
富山	富山経済新聞 北日本新聞		HP「ガクイチ」 PR TIMES 北陸銀行
石川			北國銀行 HP
福井	福井新聞		HP「ガクイチ」 PR TIMES 北陸銀行
山梨			山梨中央銀行 HP
長野			HP「WILL」
岐阜	岐阜新聞 中日新聞	東海テレビ 岐阜放送 テレビ愛知	
静岡	あなたの静岡新聞		静岡銀行 HP
愛知			愛知銀行 HP
三重	伊勢新聞	三重テレビ放送	百五銀行 HP
滋賀			りそなホールディングス HP
京都			PR TIMES 京都銀行
大阪			りそなホールディングス HP
和歌山	わかやま新報 毎日新聞		HP「ロカルわかやま」
鳥取	山陰中央新報		山陰合同銀行 HP
島根	山陰中央新報		山陰合同銀行 HP
岡山			中国銀行 HP

大会名	新聞	TV	その他メディア
山口	日刊新周南電 子版		
徳島			PR TIMES 阿波銀行 阿波銀行 HP
香川	日本経済新聞 四国新聞	西日本放送 NHK ケーブルTV	NHK NEWS WEB
愛媛	愛媛新聞	愛媛 CATV	伊予銀行 HP
福岡	西日本新聞		
長崎			十八親和銀行 HP
大分	読売新聞 大分合同新聞	OBS オンライン テレビ大分 大分放送	SBI 損害保険株式会社 HP
宮崎	宮崎日日新聞		宮崎銀行 HP 宮崎太陽銀行 HP
鹿児島			鹿児島銀行 HP
沖縄	琉球新報	琉球朝日放送	沖縄銀行 HP
インターネット			住信 SBI ネット銀行 HP

全国大会

新聞 WEB	中日新聞
新聞 WEB	福井新聞
新聞 WEB	東奥日報
新聞 WEB	徳島新聞
新聞 WEB	北海道新聞
WEB	PR TIMES マニユライフ生命保険株式会社
WEB	Quick MoneyWorld



エコノミクス甲子園では協会で作成したテキストに加えて、各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。

事前学習教材の内容からクイズが多数出題されるので、生徒達も大会前にしっかりと勉強してくれており、単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。(順不同)

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成：金融知力普及協会)</p>	 <p>■ もっと知りたい税のこと (令和4年6月) (作成・寄贈：財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/</p>
 <p>■ 今日から始められるかんたん不動産投資 初めてのJリート (作成・寄贈：不動産証券化協会) 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/</p>	 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成・寄贈：金融庁) 金融庁 Web サイト https://www.fsa.go.jp/</p>
 <p>■ マナブとメグミのお金のキホン BOOK (作成・寄贈：全国銀行協会) 全国銀行協会 Web サイト https://www.zenginkyo.or.jp/</p>	 <p>■ 10代から学ぶパーソナルファイナンス (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>
 <p>■ 明るい未来へ TRY！～リスクと備え～ (作成・寄贈：日本損害保険協会) 日本損害保険協会 Web サイト http://www.sonpo.or.jp/</p>	 <p>■ 進学にかかるお金と奨学金の話 (作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会) 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/</p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ わかりやすい投資信託ガイド 2021年版 (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
 <p>■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ わかりやすいリートガイド 2021年版 (作成・寄贈：投資信託協会) 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/</p>
 <p>■ 18歳までに学ぶ 契約の知恵 (作成・寄贈：金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/</p>	 <p>■ 前払式支払手段ご利用者のみなさまへ (作成・寄贈：日本資金決済業協会) 日本資金決済業協会 Web サイト https://www.s-kessai.jp/</p>
 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成・寄贈：日本証券業協会) 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/</p>	 <p>■ ほけんのキホン (作成・寄贈：生命保険文化センター) 生命保険文化センター Web サイト https://www.jili.or.jp/</p>
 <p>■ 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (作成・寄贈：環境省) 環境省 Web サイト https://www.env.go.jp/</p>	 <p>■ 少額短期保険ガイドブック 2022 (作成・寄贈：日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会 Web サイト https://www.shougakutanki.jp/</p>
 <p>■ 社会への扉 (作成・寄贈：消費者庁) 消費者庁 Web サイト https://www.caa.go.jp/</p>	 <p>■ 飛び立て！未来FP技能士 (作成・寄贈：金融財政事情研究会) 金融財政事情研究会 Web サイト https://www.kinzai.or.jp/</p>
 <p>■ 暗号通貨やブロックチェーンの基礎を学べる漫画 (作成・寄贈：日本暗号通貨技能検定協会) 日本暗号通貨技能検定協会 Web サイト https://japancryptocoin.org/</p>	 <p>■ 日本の財政関係資料 (作成・寄贈：財務省) 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/</p>



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、
各社様のご支援により成り立っています。

感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた企業をご紹介します。

プラチナスポンサー



Manulife

マニユライフ生命

ゴールドスポンサー



Wiennomori Corporation

ブロンズスポンサー



ラッセル・インベストメント株式会社



ファイブスター投信投資顧問





Special Thanks

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいた皆様（肩書は当時）

マニュアル生命保険株式会社
取締役代表執行役社長 兼 CEO
ブノワ・メスレ 様



マニュアル生命保険株式会社
常務執行役員 CMSO
村山 彰子 様



TAC 株式会社
ファイナンス講座企画部
FP グループ グループ長
稲葉 稔 様



TAC 株式会社
ファイナンス講座企画部
FP グループ
吉田 朋靖 様



株式会社一休
執行役員 第一宿泊事業本部長
平 玄太 様



ファイブスター投信投資顧問株式会社
取締役運用部長
大木 将充 様



株式会社グッドバンカー
代表取締役社長
筑紫 みずえ 様



ラッセル・インベストメント株式会社
運用部ディレクター
シニアポートフォリオマネージャー
箱崎 真紀子 様



財務省
主税局総務課 企画官
松井 誠二 様



元 ニッキン
取締役 取材局 副局長
吉田 憲三 様



内閣府大臣政務室
経済再生・金融庁担当
鈴木 英敬 様



お笑いコンビ「TKO」
木本 武宏 様



認定 NPO 法人
金融知力普及協会 理事長
金子 昌資 様



認定 NPO 法人
金融知力普及協会 理事
野中 ともよ 様





金融知力普及協会をお支えいただいている各社

サンメッセ株式会社

SMBC 日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会

日本証券業協会 マニユライフ生命保険株式会社

三井住友 DS アセットマネジメント株式会社 三井不動産株式会社

問題監修

荻野 昭一 先生 (北海道大学 名誉教授)

金融知力普及協会 ボランティアスタッフ

愛知 瑞 騎	原 崇 史	後 藤 一 矢	國 崎 優 佑	鈴 木 悠 希	松 田 直 晃
伊 佐 知 駿	舟 山 祥 太	櫻 木 亜 美	小 嶋 美 早 紀	直 江 綾 太 郎	山 根 夏
石 井 健 太 郎	森 田 昌 未	佐 藤 俊 亮	白 戸 玲 寿	橋 本 信 朗	山 根 有 輝 也
大 久 保 杏 咲	矢 追 悠 良	嶋 村 悠	田 村 元 希	村 上 将 紀	横 山 智 紀
大 久 保 響	安 居 憲 次 郎	城 正 人	坪 田 実 那 美	山 本 桐 也	脇 田 直 樹
大 澤 志 織	横 田 茉 穂	菅 原 充 希	松 岡 知 優	岡 辺 公 志	
齊 藤 彩 波	吉 馴 京 太 朗	関 優 介	山 口 朔 矢	岡 本 秋 星	
下 窪 元 貴	安 陪 玲 音	野 口 晃 平	笹 山 順 平	北 島 拓 哉	
恒 吉 葉 那	井 上 博 裕	濱 田 美 和	杉 原 諒	木 原 健 太 郎	
中 西 智 大	入 山 七 海	赤 井 遥	須 永 智 也	佐 藤 賢 斗	
中 村 胡 々 乃	臼 井 大 貴	蟻 川 大 智	谷 尚 俊	田 島 祐 也	
中 村 悠 実	岡 し づ か	磯 部 元 政	中 村 徹 舟	中 川 原 杏 奈	
蜂 巢 直 暉	越 智 向 日 葵	梅 木 康 多	森 愛 美	濱 元 貴 大	
花 岡 愛 梨	川 本 青 汰	奥 田 剛 崇	山 口 温 大	宝 蔵 花 穂	
林 宏 輝	後 藤 篤 了	尾 崎 巧 基	井 関 友 洋	堀 島 正 道	

アドバイザー

ユークレイル・エイト 藤田 雄亮 様

司会

京極 雅美 様



第17回大会
スタッフリーダー
濱田 美和

第17回エコノミクス甲子園で学生スタッフリーダーを務めました濱田美和と申します。

今回のエコノミクス甲子園は、3年ぶりの対面開催となりました。

対面開催が決まり、私はやっと高校生と会うことができるという喜びと共に、3年ぶりの対面開催を成功させられるか分からず不安でいっぱいでした。しかし、何とかこの大会を成功させることができたのは、スタッフ全員が自分の役割を理解し、全力を尽くしてくれたからこそだと思っています。この場を借りてお礼を申し上げます。

そして、今大会に参加した高校生の皆さんの中には、悔しい思いをした人も多いと思います。第1ラウンドでのカウントのタイミング、誤答保険の使用、敗者復活でボタンを押す数秒、金塊を積む最後の瞬間等の、ほんの数秒の差で敗退してしまった人も多いと思います。「運」に左右され優勝を逃したと感じている方も多いのではないかと思います。

しかし、重要なのは結果ではありません。エコノミクス甲子園への参加を通して何を学んだか、大会に参加する前と後で自分が成長できたか、それこそが皆さんの将来で真価を発揮するものとなるでしょう。

最後になりましたが、私はこのエコノミクス甲子園が、何十年後も続いていることを心から願っています。そのために、今大会に出場した高校生の皆さんはぜひ、大学や専門学校などに進学後、ボランティアスタッフになっていただければ嬉しいです。

また、金融知力普及協会は2020年から「リアビズ 高校生模擬起業グランプリ」というリアルなビジネスを体験するプログラムも行っています。そちらの方も是非よろしく願いいたします。



第17回大会
サブリーダー
安陪 玲音

第17回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めました安陪玲音です。

まず本大会の開催にあたりご支援・ご協力いただいた全ての皆様、そして何よりご参加いただいた高校生の皆さんに心より厚く御礼申し上げます。

第14回大会以来3年ぶりの集合形式となり、熱い戦いに挑む高校生を直接見ることが出来ました。彼らの姿はとても美しく、感慨深い経験となりました。我々ボランティアスタッフの多くはエコノミクス甲子園全国大会の経験者です。きっと数年後、第17回大会に参加した高校生たちが次世代のスタッフとして、未来のエコノミクス甲子園を作ってくれます。学びの機会として参加した者たちが、自分たちの経験を、それ以上のものを、次の世代に提供するために作り手を担う。このリレーがエコノミクス甲子園をさらに進化させます。まずは第18回大会、そしてもっと未来へ、これからもスタッフ一同精進いたします。今後とも格別のお引き立てをよろしくお願いいたします。



第17回大会
サブリーダー
佐藤 俊亮

第17回エコノミクス甲子園、サブリーダーを務めました、佐藤俊亮です。

今年は第14回大会以来、3年ぶりに全国大会では全国各地から高校生が集まり、集合形式で大会を行うことができました。本大会にご協力いただきましたすべての皆様にお礼申し上げます。

今年は3年ぶりに全国大会を集合形式で開催し、会場で高校生の緊張した姿、喜び、悔しさなどに、大会を運営するスタッフとして間近で接し、実際に高校生の皆さんとお会いすることができ、大変嬉しく思っています。昨年までのオンライン形式の大会とは異なり、3年ぶりに集合形式での大会を開催することは容易なことではありませんでした。しかしながら、この大会の開催までこぎつけたことは我々にとっては非常に嬉しいものであり、来年以降も大会の雰囲気や高校生の皆さんに直接感じていただきたいと思っております。

エコノミクス甲子園は「金融知力」が求められる大会です。近年、高校の授業などで金融教育は行われてきています。金融教育のトレンドの中で、高校生の皆さんに金融・経済について楽しみながら学ぶことができるクイズイベントがこのエコノミクス甲子園なのです。高校生の皆さんにはこのイベントを通して「金融知力」を高め、生涯役立つ知識や経験を獲得していただきたいと願っています。第18回大会もより良い大会になるように尽力して参ります。よろしくお願いいたします。



第18回大会
スタッフリーダー
安居 憲次郎

この度、第18回エコノミクス甲子園学生スタッフリーダーに就任いたしました、安居憲次郎と申します。私は、金融知力普及協会が主催するもう一つの大会である、『リアビズ高校生模擬起業グランプリ』の第1回大会の本戦に出場しました。エコノミクス甲子園では、第14回、第15回大会で大阪予選、インターネット予選には出場しておりますが、全国出場は果たしておりません。しかし、その記憶は鮮烈なものであります。高校1年生の私は、エコ甲第14回の大阪予選の会場にこのこと踏み入れました。そこで対戦したのは、第14回大会で全国優勝を果たす北野高校のチーム。敗退した悔しさは今でも覚えています。そして、それは良き思い出です。大会の結果は振るわなかったものの、大会に至るまでに得た金融や経済に関わる知識は、現在の私の重要な部分を形成しています。大学に進学する、社会に出る上で自分事として考えなければならない、奨学金や保険、社会保障などの知識、大学で学ぶ上での経済学に関する知識の多くはエコノミクス甲子園を通して獲得したものです。エコノミクス甲子園を通して、将来長きに渡って必要となる金融知力を身につけていただく。クイズを通して、それを楽しく学んでいただく。そのような大会を作っていくべく、我々スタッフ一同精進してまいります。第18回大会の場でお会いできることを楽しみにしております。



第18回大会
サブリーダー
大久保 杏咲

この度、第18回エコノミクス甲子園スタッフサブリーダーを務めさせていただくことになりました、大久保杏咲と申します。私は第15、16回エコノミクス甲子園全国大会に徳島大会代表として出場しました。しかし、この第15、16回という2大会はオンライン開催で、オフラインの大会を経験したのはスタッフとしての今大会、第17回大会が初めてでした。ゆえに今大会、高校生の生の反応をひしひしと肌で感じられたことが大変印象深かったです。楽しく他チームと触れ合っている様子や負けて悔しそうな表情、クイズやディスカッションに取り組む真剣な姿勢など、オフラインだからこそ感じられる熱い戦いを見せてもらいました。私たちは「金融知力を身につけることで、高校生の生活が少しでも豊かなものになれば」という願いを持って大会運営をしています。けれども、クイズを通して提供する学びは知識だけではないのだと今回強く感じました。努力した日々、チームメイトとの友情、他人の考えに触れる刺激、土壇場の適応力、などなど、全てをひっくるめた唯一無二の経験ができる大会をこれからも作っていきたくと思いました。私がエコノミクス甲子園を通して成長させていただけたように、これから全国大会へ挑む高校生たちにとっても、成長の一助となり、思い出の1ページを彩る大会になるよう、これから一年間第18回大会の運営に尽力して参ります。よろしく願いいたします。



第18回大会
サブリーダー
中村 悠実

この度、第18回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めます、中村悠実と申します。私は第15回、16回徳島県大会代表として全国大会に出場しました。1年生の時に先生に紹介されたことをきっかけに、「面白そう!」「優勝すれば無料で東京に行ける!」という単純で少し不純な動機で参加しました。しかし、1年目地方大会の決勝最後の一問で逆転され全国に行けなかった悔しさから、金融・経済により関心を持ち、勉強するようになりました。第17回大会では、誘導班として高校生と一番近くで接し、その緊張感や熱量をひしひしと感じました。その中で、高校生が情熱を懸けられる、楽しいと感じられる大会を作り上げる唯一無二の楽しさとやりがいを感じるようになりました。エコノミクス甲子園に参加して得られるものはたくさんあります。金融知力はさることながら、大舞台の緊張感に耐えられる精神力や冷静さ、柔軟な発想などもそうです。私の場合は、エコ甲で得た最大のものは3年間一緒に出場してくれた相方の存在です。「何を目的に出場するのか」や「得られたもの」は人それぞれ異なっていてよいと思います。ただ、私は参加してくれた高校生が「楽しい!」「いい経験になった」と感じたり、5年後、10年後に「あの時、エコ甲に出場してよかったな」と思えたりするといいなと考えています。そういう大会を作り上げていきたいです。第18回大会がすべての高校生にとって実りある大会になるように、これから1年間、精一杯尽力いたしますのでどうぞよろしく願いいたします。高校生の皆さん、地方大会や全国大会でお会いできる日を楽しみにしています!



エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第1回	2006	2007年2月18日	25	33	ラ・サール高等学校
第2回	2007	2008年1月13日	90	237	開成高等学校
第3回	2008	2009年1月25日	154	425	東大寺学園高等学校
第4回	2009	2010年1月10日	201	535	ラ・サール高等学校
第5回	2010	2011年2月12日	237	600	灘高等学校
第6回	2011	2012年1月22日	244	647	東大寺学園高等学校
第7回	2012	2013年2月17日	335	860	東海高等学校
第8回	2013	2014年2月2日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第9回	2014	2015年2月15日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第10回	2015	2016年2月28日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第11回	2016	2017年2月5日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校
第12回	2017	2018年2月18日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校
第13回	2018	2019年2月17日	473	1,250	福井県立藤島高等学校
第14回	2019	2020年2月9日	479	1,207	大阪府立北野高等学校
第15回	2020	2021年2月14日	388	880	千葉県立千葉高等学校
第16回	2021	2022年2月27日	316	686	栄東高等学校
第17回	2022	2023年2月26日	354	805	市立札幌開成中等教育学校



エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第1回～第9回)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南
青森								青森	青森
岩手				水沢	盛岡第三				
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西
山形							山形東	山形南	山形東
福島		県立福島【東北】	県立福島【東京】			会津学鳳【関東】	県立福島	県立福島	福島高専
茨城							竹園	土浦第一	水戸第一
栃木							宇都宮【ネット】	矢板東	宇都宮
群馬							富岡	前橋	高崎女子
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東
千葉	県立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉	渋谷幕張
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀
新潟								国際情報	新潟明訓
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡
石川		金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢泉丘	金大附属
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島
山梨					甲府南【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南
長野								長野	諏訪清陵
岐阜					岐阜	岐阜	岐阜	岐阜東	岐阜
静岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉
愛知	南山女子【大阪】	滝	名大附属	名大附属	名大附属	旭丘	東海	東海	滝
三重						津	三重	川越	川越
滋賀									

【 】内は所在地以外の県で実施された予選(第1回)・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場



エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第1回～第9回)

回数	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
京 都									洛北【ネット】
大 阪	星光学院						清風南海	星光学院	開明
兵 庫		灘【関西】		灘【関西】	灘【関西】	灘【関西】		関西学院【ネット】	
奈 良			東大寺【大阪】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良 C	智辯奈良 C	智辯奈良 C
和歌山									
鳥 取								鳥取西	鳥取西
島 根							松江北	浜田	松江商業
岡 山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精思
広 島						広大福山【中国】	修道	広島学院	修道
山 口							宇部	宇部	宇部
徳 島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立
香 川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松
愛 媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西
高 知								高知学芸	高知小津
福 岡			西南学院				修猷館	修猷館	筑紫丘
佐 賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】				
長 崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精道三川台
熊 本						熊本【九州】			
大 分									
宮 崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西
鹿児島	ラ・サール【福岡】	ラ・サール【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【敗者復活】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸
沖 縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科
海 外									
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40

【 】内は所在地以外の県で実施された予選(第1回)・地方大会名。第2回のラ・サールは2チーム出場



エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第10回～第17回)

回数	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	
開催年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
北海道	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	北見北斗	札幌南	旭川東	札幌開成	初出場
青森	青森	弘前	青森	弘前	弘前	青森	青森	青森	3年連続7回目
岩手		盛岡中央	盛岡第三	一関第一	岩泉				
宮城	仙台二華	仙台第一	古川黎明	仙台第二	聖ウルスラ		仙台二華【ネット】	仙台二華	2年連続4回目
秋田	秋田	秋田	由利	秋田商業	秋田	秋田	秋田	秋田	4年連続7回目
山形	山形東	鶴岡南	山形南	山形南	寒河江			山形東	7年ぶり4回目
福島	白河	県立福島	県立福島	県立福島	県立福島		白河	県立福島	3年ぶり9回目
茨城	土浦第一	並木中等	土浦第一	並木中等 竹園【ネット】	江戸川取手	並木中等	並木中等	並木中等	3年連続5回目
栃木	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	栃木	矢板東	9年ぶり2回目
群馬	前橋	ぐんま国際 アカデミー	四ツ葉学園	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	5年連続5回目
埼玉	栄東	浦和	栄東	県立川越	栄東	栄東	栄東	栄東	4年連続8回目
千葉	柏	東葛飾	渋谷幕張	渋谷幕張	渋谷幕張	県立千葉	市川	昭和秀英	初出場
東京	早稲田	お茶の水 女子大附属	早稲田	早稲田	都立武蔵	開成 【ネット】		筑波大駒場	初出場
神奈川	慶應義塾	聖光学院	栄光学園	湘南	慶應SFC	浅野	洗足	慶應義塾	7年ぶり2回目
新潟	新潟	新潟	新潟明訓	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	5年連続7回目
富山	高岡	富山	富山	富山中部	富山	富山	高岡	高岡	2年連続7回目
石川	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢大附	9年連続15回目
福井	高志	羽水	藤島	藤島	高志	高志	藤島	藤島	2年連続7回目
山梨	甲府南	甲陵	甲府南	甲府南	甲府南	駿台甲府	駿台甲府	駿台甲府	3年連続3回目
長野	松本深志	松本深志	松本深志	松本深志	上田	松本秀峰	松本深志	松本深志	2年連続6回目
岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	恵那	鶯谷	初出場
静岡	静岡	知徳*	知徳*	御殿場南	浜松学芸	浜松学芸	浜松学芸	沼津東	初出場
愛知	滝	滝	東海	旭丘	東海	東海	名大附属	岡崎	初出場
三重	宇治山田 商業	四日市商業	伊勢	桜丘	暁	暁	高田	高田	2年連続2回目
滋賀	水口東	膳所	県立守山	水口東	県立守山			県立守山	3年ぶり3回目

* 静岡「知徳」は前校名「三島」



エコノミクス甲子園全国大会 都道府県別出場校一覧(第10回～第17回)

回数	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	
開催年	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	
京 都		洛北	洛南	洛北	洛北	洛北【ネット】	洛南	洛北	2年ぶり6回目
大 阪	金蘭千里 星光学院 【10回記念】	星光学院	星光学院	星光学院	北野			星光学院	4年ぶり6回目
兵 庫	灘	灘 甲陽学院 【ネット】	神戸女学院	灘	神戸女学院		灘 【ネット】	灘 北摂三田 【ネット】	2年連続9回目 初出場
奈 良	東大寺	東大寺	東大寺	東大寺	青翔		東大寺	西大和	初出場
和歌山			智辯和歌山	智辯和歌山	近大和歌山			智辯和歌山	4年ぶり3回目
鳥 取	湯梨浜	青翔開智	湯梨浜	青翔開智	鳥取西			米子東	初出場
島 根	隠岐	情報科学	松江商業 横田 【ネット】	松江高専	松江高専			矢上	初出場
岡 山	倉敷精思	倉敷天城	倉敷精思	倉敷天城	倉敷天城	岡山白陵	岡山白陵	岡山南	初出場
広 島	広島学院 近大東広島 【ネット】	広大福山	安田女子	広島学院	広島学院	広島	広島	広島	3年連続3回目
山 口	下関西	下関西	大島商船	山口	宇部高専	山口	慶進	岩国	初出場
徳 島	城東	徳島市立	徳島市立	城東	城東	城東	城東	徳島中央	初出場
香 川	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	丸亀	高松西	高松西	2年連続2回目
愛 媛	愛光	愛光	今治西	松山東雲	今治西	松山東	松山西	新居浜高専	初出場
高 知	土佐	高知学芸	高知学芸	土佐塾	土佐				
福 岡	大牟田	修猷館	福工大城東	福岡	久留米大附	宗像	小倉商業	東筑	初出場
佐 賀	致遠館	致遠館	弘学館	弘学館	早稲田佐賀	佐賀西	弘学館	鳥栖	初出場
長 崎	精道三川台	長崎西	長崎西	精道三川台	青雲			対馬	初出場
熊 本		八代							
大 分		安心院					大分東明 【ネット】	上野丘	初出場
宮 崎	宮崎第一	宮崎第一	宮崎大宮	宮崎第一	日向学院	宮崎西	宮崎西	宮崎第一	4年ぶり5回目
鹿児島	国分中央	鶴丸	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	6年連続12回目
沖 縄	昭和薬科	昭和薬科	球陽	昭和薬科	昭和薬科 N高 【ネット】	昭和薬科	沖縄尚学	開邦	初出場
海 外		甘泉 【中国】	台湾師大附 【台湾】						
出場校数	44	48	47	46	46	32	36	45	



■第 1 回



■第 2 回



■第 3 回



■第 4 回



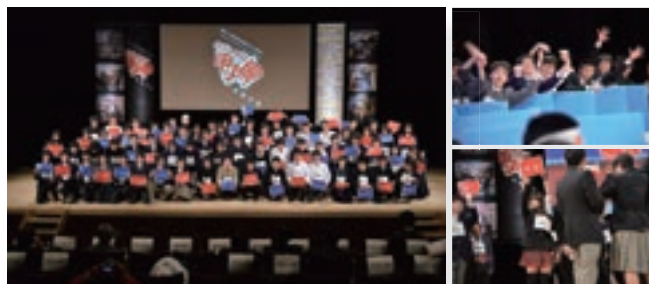
■第 5 回



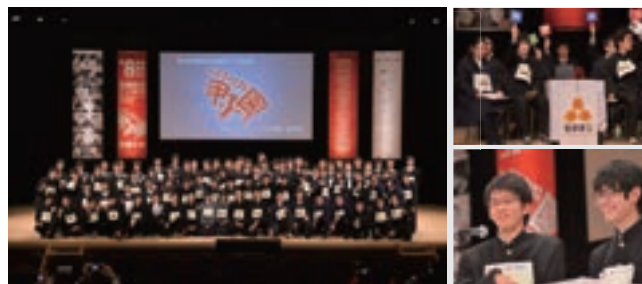
■第 6 回



■第 7 回



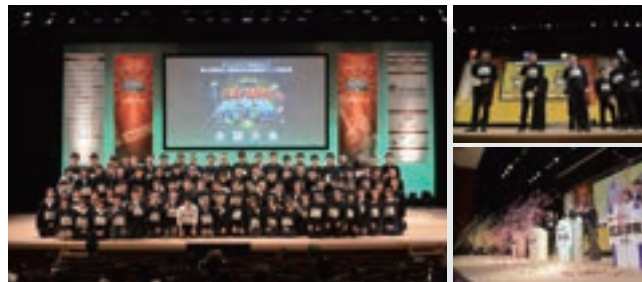
■第 8 回



■第 9 回



■第 10 回





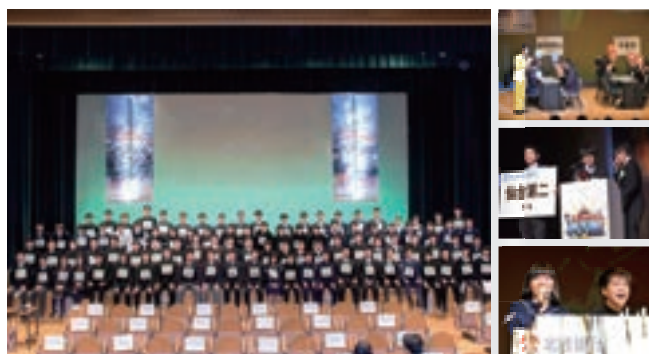
■第 11 回



■第 12 回



■第 13 回



■第 14 回



■第 15 回



■第 16 回



■第 17 回

